

令和3年度

新入生の生活に関する調査報告書

令和4年3月

お茶の水女子大学

はじめに

この報告書は、お茶の水女子大学 学生・キャリア支援センターが平成 23 年度から実施している「新入学生（学部）とその保護者を対象に実施した調査」の令和 3 年度版です。

調査の目的は、新入学生およびその保護者の大学に対するニーズに関して基礎的な情報を得、本学の学生・キャリア支援活動をより効果的に行うための基礎資料とすることです。調査内容は、出身高校、家族、卒業後の進路志望、学生生活の経済的基礎、学生支援活動への期待（新入学生対象調査）、家計支持者の職業、世帯年収、学歴、学生支援活動への期待（保護者対象調査）などがあります。

この調査は、学生の保護者を対象とした学内で唯一の公的調査として位置づけられており、大学としてより充実した学生生活を支援する上での貴重な資料として活用させていただいております。

末筆となりますが、本調査にご協力くださった本年度新入学生とその保護者の皆さまに心から感謝申し上げます。

令和 4 年 3 月 吉日

国立大学法人 お茶の水女子大学

理事

学生・キャリア支援センター長

新井 由紀夫

令和 3 年度新入生調査報告書のポイント

1. 回答した新入生の 88.7%が「お茶大を第一志望」として入学しており、例年同様高い (p.9)
 - ・特に第一志望と回答した割合が多いのは、生活科学部であり 95.7%。昨年の 95.6%と同等
2. 「大学の授業」を頑張ろうと考えている割合は 99.0%と、例年同様非常に高い (p.13)
 - ・この 1 年で頑張ろうと思う活動（複数回答）について、「大学の授業」と回答した割合が 99.0%と新入生の授業に対する意欲は例年通り高いと考えられる。
3. 卒業後の進路希望は、理学部では進学、文教育学部・生活科学部では民間企業就職が多い (p.18)
 - ・卒業後の進路希望（複数回答）は、「民間企業に就職する」56.4%、「大学院などに進学する（海外含む）」45.6%、「公務員」29.2%、「教師など専門職」21.3%
4. 実家から通学する学生は 64.1%、仕送りがない予定の学生は昨年度調査と同等 6.0%、10 万円以上の仕送り者は 36.0%で昨年並み (p.11~12)
 - ・賃貸アパートやマンション居住 25.9%、国際学生宿舎 14.1%、お茶大 SCC は 8.5%
 - ・「仕送りはない」学生は 6%
5. 大学に期待する学生支援は、学生・保護者とも「就職支援」(p.17, p.29)
 - ・大学の学生支援活動への期待（複数回答）は、「就職支援」に期待する新入生が 77.4%と最も多く、次いで「進路相談」67.2%
 - ・保護者調査でも「就職支援」への期待は 82.7%

目次

調査の概要	3
第1章 「新入生調査」の結果.....	5
(1) 出身高校	5
(2) 家族構成	7
(3) これまでの進路選択や学生生活	8
(4) 大学入学後の生活の予定	10
(5) 将来の進路.....	18
第2章 「新入生の保護者調査」の結果.....	21
(1) 家庭の暮らし向き	21
(2) 親の職業・学歴	24
(3) 大学生生活の不安・心配事・学生支援活動への期待	27
第3章 新入生および保護者調査の結果	31
(1) 問題・目的.....	31
(2) 奨学金に関する結果.....	31
(3) 学生寮に関する結果	43
(4) 奨学金と学生寮について、過年度との比較.....	53
第4章 高校時代進路選択の分析結果.....	57
第5章 考察および今後の課題.....	65
(1) 令和2年度新入生の特徴と考察.....	65
(2) 奨学金と学生寮に関する考察.....	66
(3) 学生・キャリア支援における課題	67
付表	
1. 調査票（新入生調査）	68
2. 調査票（保護者調査）	79
3. 基礎集計表（新入生調査）	86
4. 基礎集計表（保護者調査）	92
5. 質問票自由記述集計（新入生調査）	96

執筆担当者

新井 由紀夫（理事、学生・キャリア支援センター センター長）

担当：はじめに

高崎 美佐（学生・キャリア支援センター 講師）

担当：調査の概要、1章、2章、5章（1）（3）、

田 媛（TIAN Yuan）

担当：3章、4章、5章（2）、付表3、付表4、付表5

調査の概要

- 目的：
入学を予定している学生の実情をふまえ、有益な学生支援の検討および実施するための資料とすることを目的とし、次の4点から構成される。
 1. 新入生の大学教育や将来への多様なニーズを把握し、適切な学生支援事業を入学時から行うための情報を得る。
 2. 新入生の標準的な学生生活の状況を把握する。
 3. 新入生の家庭状況からその経済的基盤を推定し、お茶の水女子大学における学生支援事業を改善するための基礎資料とする。
 4. 国立大学入学者の学生生活・家庭・進路などに関する調査研究を行うための基礎資料とする。
- 調査時期：2021年3月
- 調査方法：
質問紙調査票の郵送による送付・返送である。一般入試合格者および保護者に対しては、他の入学手続関係書類に調査票および調査票返送用封筒を同封し、他の書類とともに回答の返送を依頼した。その他の選考による合格者および保護者には、別途、調査票および調査返送用封筒を送付し、返送を求めた。
- 分析対象：
回答をいただいたが、調査データの使用許可を得ることができなかった回答者を分析対象者から除いた。よって対象者は、令和2年度学部入学者401名、保護者394名である。但し、無回答・非該当の場合など、調査項目によって、サンプル数に多少の違いがある。各章を参照のこと。調査別の詳細は以下の通りである。
 1. 「新入生を対象とした調査（新入生調査）」
令和3年度学部入学者473名。有効回答数390名（入学者のうち82.5%）。
学部別内訳 文教育学部 175名(入学者213名のうち82.2%)
理学部 100名(入学者130名のうち76.9%)
生活科学部 115名(入学者130名のうち88.4%)
 2. 「新入生の保護者を対象とした調査（新入生保護者調査）」
令和3年度学部入学者の保護者473名。有効回答数381名（入学者のうち80.5%）。
- 実施主体：国立大学法人 お茶の水女子大学 学生・キャリア支援センター
- 個人情報について：
お茶の水女子大学では、個人情報の管理に関する規程および個人情報の公開に関する取扱要項等の規定を定めて、本学が保有する個人情報の適正な管理に努め、学内の倫理審査も受けている。（詳細は、<http://www.ocha.ac.jp/about/individual.html> 参照）
調査票は、大学で付けたID番号で管理をし、回答者の氏名や住所などは記載せずに回答・返送を求めた。

参考文献

- ベネッセ教育研究開発センター（2009）
「第1回 大学生の学習・生活実態調査報告書[2008年]」
<https://berd.benesse.jp/koutou/research/detail1.php?id=3161>
- 電通育英会（2019）
「大学生のキャリア意識調査2019 報告書」
https://www.dentsu-ikueikai.or.jp/wp-content/uploads/2020/10/college_career_repo2019.pdf
- 日本学生支援機構（2021）
「令和2年度 学生生活調査集計表 大学昼間部（速報値）」
https://www.jasso.go.jp/statistics/gakusei_chosa/_icsFiles/afieldfile/2021/09/24/data20sokuhou.pdf
- お茶の水女子大学（2020）
「令和2年度 新入生の生活に関する調査報告書」
- お茶の水女子大学（2019）
「平成31年度 新入生の生活に関する調査報告書」
- お茶の水女子大学（2018）
「平成30年度 新入生の生活に関する調査報告書」
- 東進本部（2021）
「東進タイムズ」2021年4月1日号
- 全国大学生調査コンソーシアム/東京大学 大学経営・政策研究センター（2008）
「全国大学生調査 第一次～第三次調査 基礎集計表」
http://ump.p.u-tokyo.ac.jp/crump/resource/kiso2008_01.pdf
- 全国大学生協協働組合連合会（2020）「第56回 学生生活実態調査の概要報告」
<https://www.univcoop.or.jp/press/life/report56.html>

第1章 「新入生調査」の結果

第1章では、新入生調査（本人）への回答者390名に対する分析結果について報告する。学部別の内訳は、文教育学部175名、理学部100名、生活科学部115名である。

(1) 出身高校

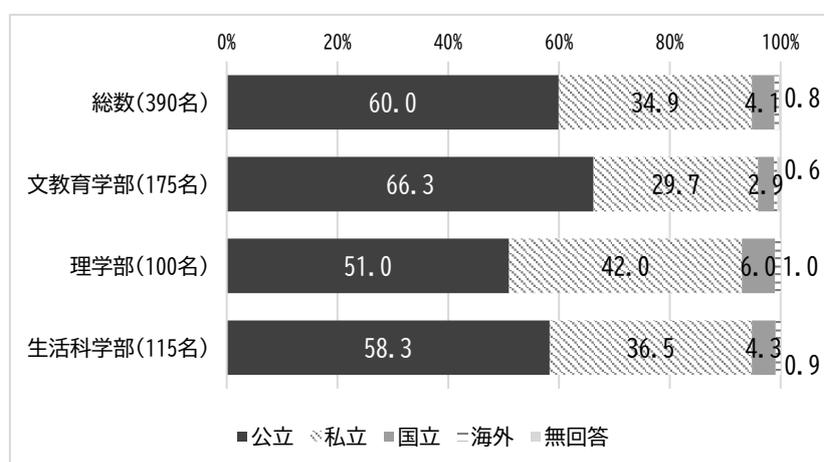
出身高校について①設置者、②種類、③学科、④出身高校の所在地を示す。

① 設置者

図表1-1に出身高校の設置者について尋ねた結果を示す。出身高校の設置者について「国立」「公立」「私立」「海外」「高等学校卒業程度認定試験（高卒認定）」から選択してもらい回答を得た。

全体では、「公立」60.0%、「私立」34.9%、「国立」4.1%、「海外」0.8%であった（高卒認定はなし）。学部別では、文教育学部は「公立」の割合が比較的高く（66.3%）、理学部はほかの2つの学部と比べると「私立」の割合が高い（42.0%）。

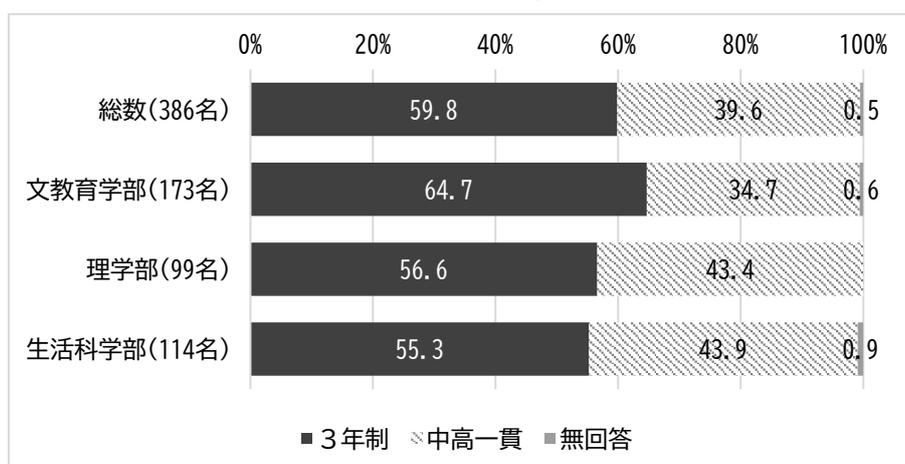
令和2年度調査の「公立」高校出身者の割合は63.3%であり、令和2年度調査と比べると3.3ポイント減少はしているものの、学部による設置者の特徴は過年度の結果と同様であった。



図表1-1 出身高校の設置者

② 種類

図表1-2に出身高校の種類について尋ねた結果を示す。

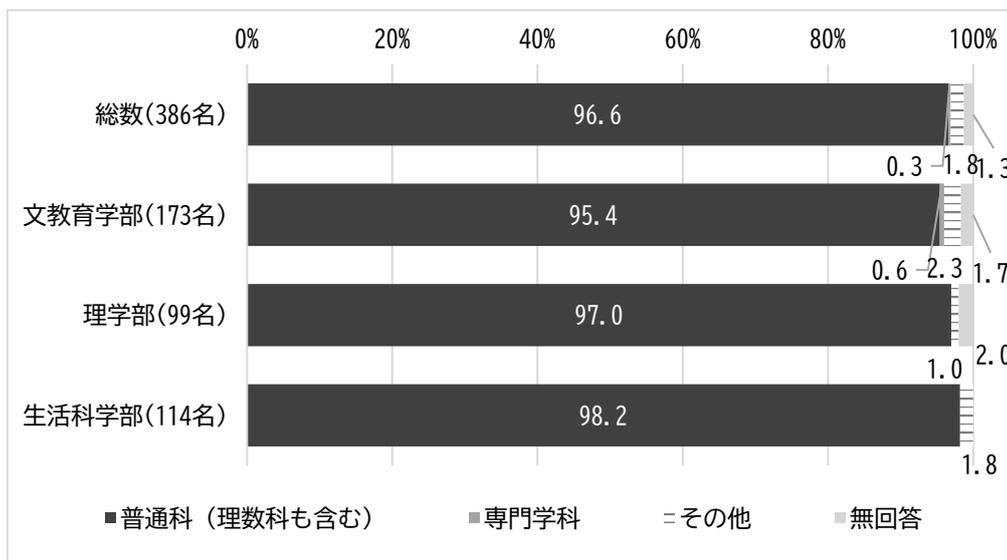


図表1-2 出身高校の種類

全体では、「3年制」が59.8%、「中高一貫」39.6%で令和2年度¹と大きな違いはない。学部で比較すると、文教育学部は、3年制高校の出身者が64.7%とほかの2つの学部比べて多い。一方、理学部は、中高一貫出身者が比較的多い。この特徴についても、平成31年度・令和2年度と同様の傾向であった。

③ 学科

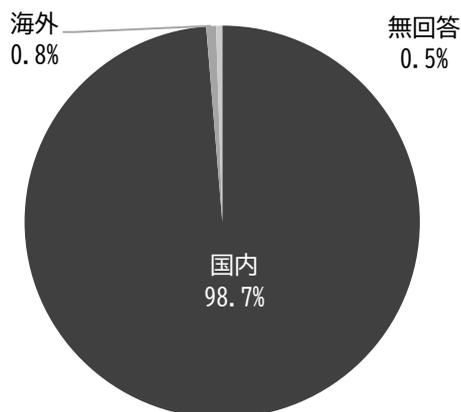
図表 1-3 に出身高校の学科について尋ねた結果を示す²。全体の96.6%が「普通科」であり、学部間の差異はない。この傾向は、例年と同様の傾向であった。



図表 1-3 出身高校の学科

④ 出身高校の所在地

図表 1-4 に出身高校の所在地を「国内」「海外」別に示す。全体の98.7%が「国内」であった。これは、全学部、また例年と同様の傾向であった。



図表 1-4 出身高校の所在地

¹ 令和2年度の3年制出身者の割合は、61.4%

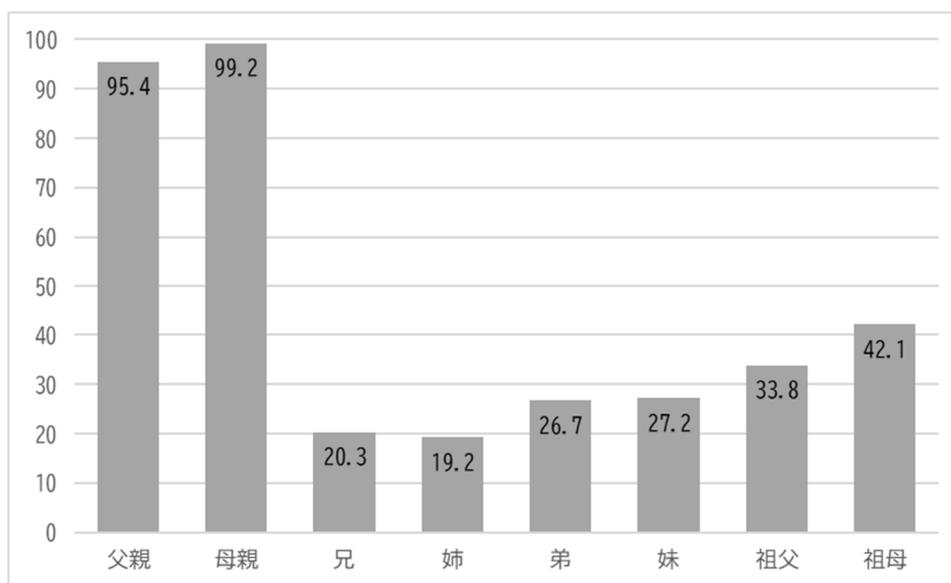
² 調査票では「総合学科」の選択肢を設けたが、「総合学科」を選択した回答者はいなかったため表には記していない。以下、回答者なしの場合は選択肢に関する注は割愛する

(2) 家族構成

新入生の家族構成について、①家族構成、②きょうだい数について示す。

① 家族構成

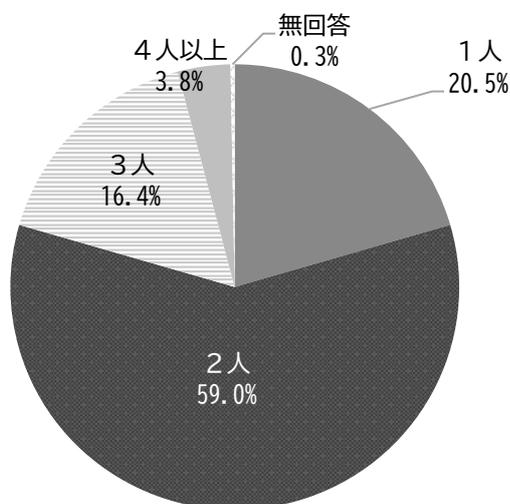
図表 2-1 に新入生の家族構成について尋ねた結果を示す。家族構成について同居を問わず、複数選択可として回答を得た。家族の構成について、兄もしくは姉がいると回答した割合が 2 割程度、弟や妹がいると回答した割合が 3 割程度という回答傾向は、平成 31 年度、令和 2 年度から大きな変化は見られない。



図表 2-1 家族構成

② きょうだい数

図表 2-2 に自分を含めたきょうだい数について尋ねた結果を示す。2 人きょうだいの割合が最も高く (59.0%)、次いで「一人」と回答した割合が 20.5%であった。令和 2 年度調査は 2 人兄弟が 55.9%、次いで 3 人きょうだいが 21.9%であったという違いはあるものの、新入生のきょうだい数について大きくは変わらない。



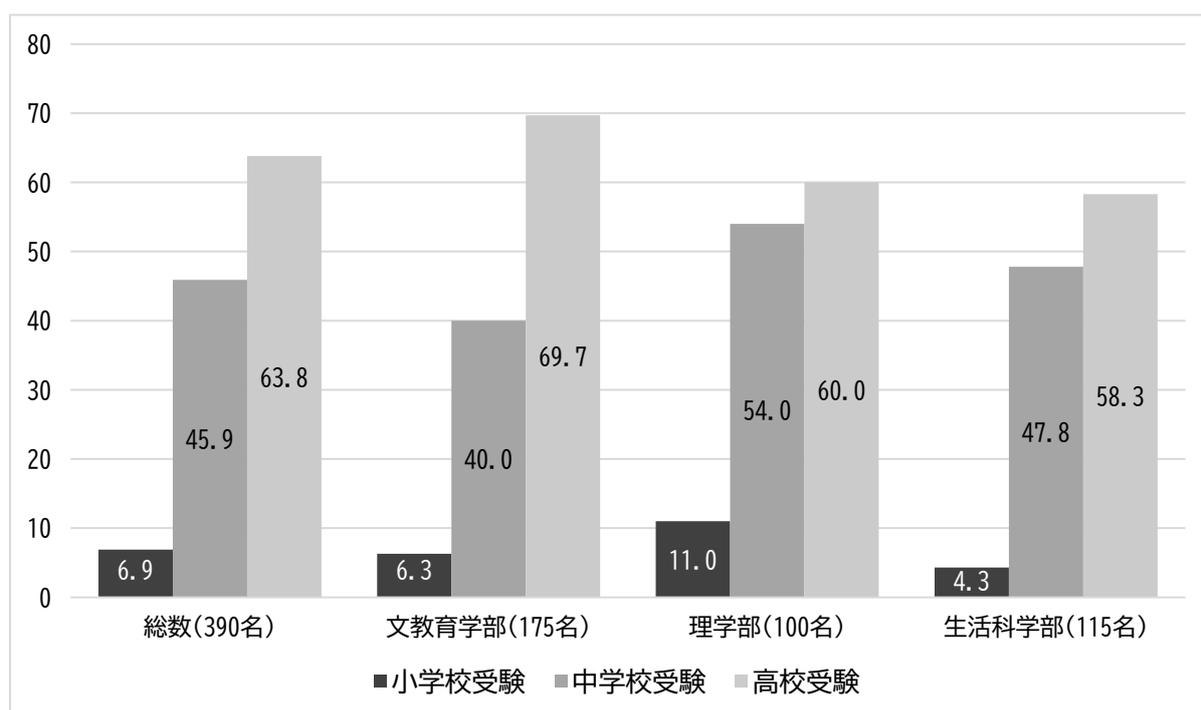
図表 2-2 自分を含めたきょうだい数

(3) これまでの進路選択や学生生活

本節では、新入生のこれまでの進路選択や学生生活について、①これまでの受験経験、②本学の受験を決めた時期、③本学の志望の度合い、④高校卒業から現在までの間に経験したことについて示す。

① これまでの受験経験

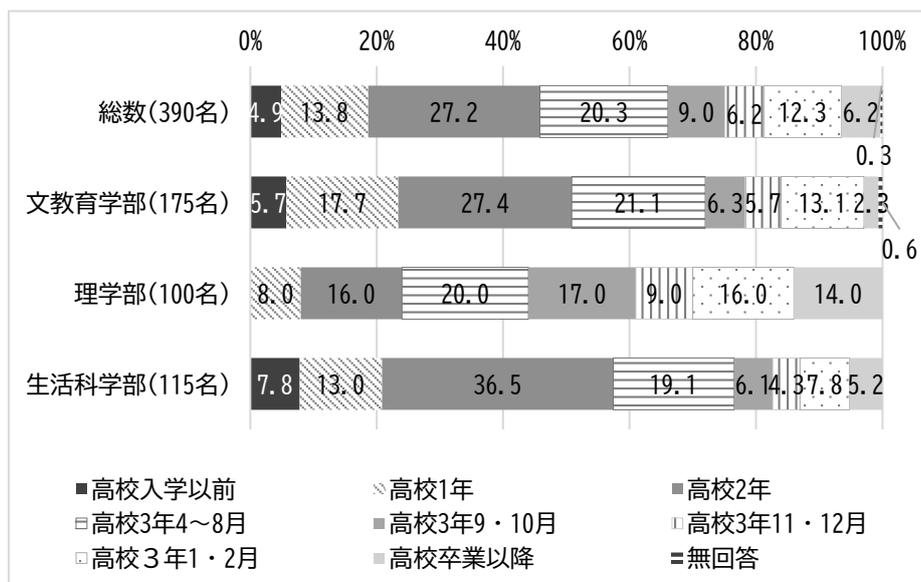
図表 3-1 に、これまでの受験経験について尋ねた結果を示す。全体の 6.9%が小学校受験を、45.9%が中学受験を、63.8%が高校受験を経験していた。小学校受験経験者が1割に満たず、中学校受験を半数程度が経験しているという傾向は平成 31 年度および令和 2 年度においても同様であった。学部別では、他学部に比べると理学部は中学受験を経験した割合が多い傾向がみられた。



図表 3-1 これまでの受験の経験

② 本学の受験を決めた時期

図表 3-2 に本学の受験を決めた時期について尋ねた結果を示す。全体では「高校 2 年」27.2%、「高校 3 年 4~8 月」20.3%と比較的多い。このように高校 2 年生から高校 3 年生の 1 学期に本学の受験を決めるという傾向は例年と同様である。学部別では、理学部において「高校 3 年 1・2 月」「高校卒業以降」と回答する割合が 3 割程度と他学部に比べると高い。理学部生の本学受験決定時期が他学部に比べて遅い傾向も、例年と同様である。

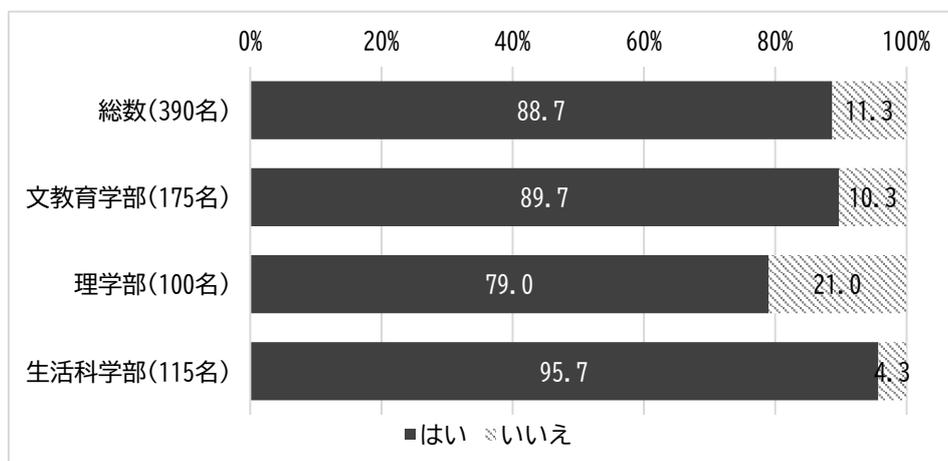


図表 3-2 本学の受験を決めた時期

③ 本学の志望の度合い

図表 3-3 に、受験時に本学が第一志望であったか否かについて尋ねた結果を示す。全体でみると 88.7% の新生が本学を第一志望としており、令和 2 年度の 87.3% と同様に依然として高い。

学部別には、文教育学部において大きな経年変化は見られないが、生活科学部の第一志望度の上昇傾向がみられている（平成 31 年度 91.7%、令和 2 年度 95.6%）。理学部の志望度は、一昨年と昨年ではやや低下した（平成 31 年度 81.3%、令和 2 年度 76.9%）が、本年度は 79.0% であった。数年間のトレンドを見ると、志望度において大きな変化は生じていないようである。



図表 3-3 本学の第一志望の度合い

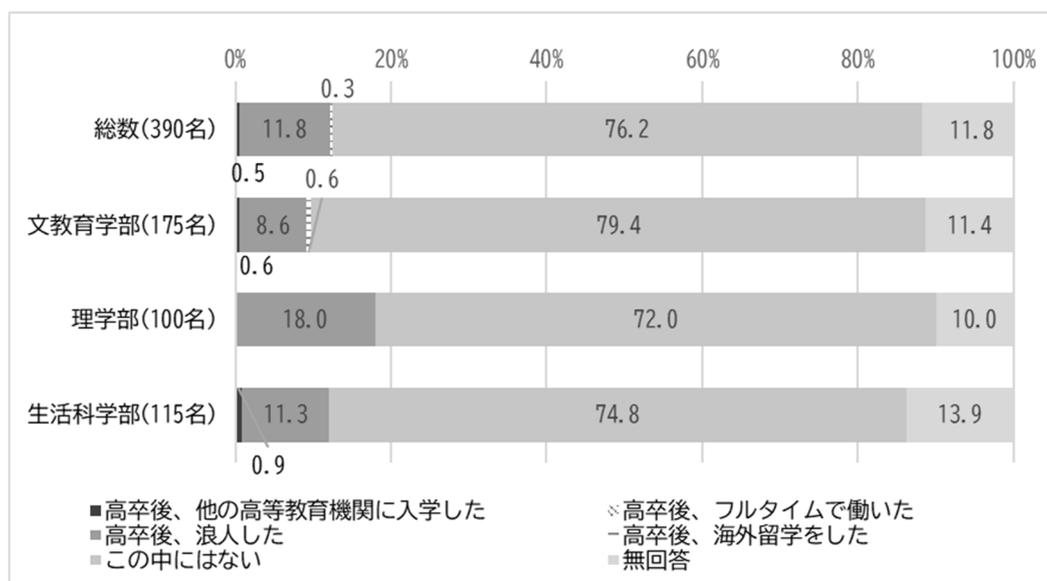
④ 高校卒業から現在までの間に経験したこと

図表 3-4 に、高校卒業から現在までに経験したことについて「大学生の学習・生活実態調査」（ベネッセ教育開発センター 2009）を参考に、複数回答可として尋ねた結果を示す。

過年度と同様「この中にはない」が全体の 76.2% と最も高かった。令和 2 年度報告書では、「高卒後、浪人した」の割合が 13.5% であったことに対し、「平成 31 年度に比べて「浪人」の割合が減少し、「高卒後、他の高等教育機関に入学した」の割合がやや上昇した」ことが指摘されているこ

とを踏まえると、令和3年度新入生に占める「浪人」の割合はさらに減少していると言える。ただし、「高卒後、他の高等教育機関に入学した」と回答した割合は1%に満たず、令和3年度は現役入学者が4分の3を超えていることが特徴だと考えられる。

各学部における浪人の割合は、文教育学部が相対的に低いことは変わらないが、従来、理学部および生活科学部の浪人の割合が高いことが指摘されているが、令和3年度は、生活科学部の浪人割合は理学部並みに高いわけではない。また、今年度の新入生において高校卒業から調査時点までの間に海外留学をしたものはいなかった。この傾向は平成30年度以降続いている。



図表 3-4 高校卒業から現在までの間に経験したこと

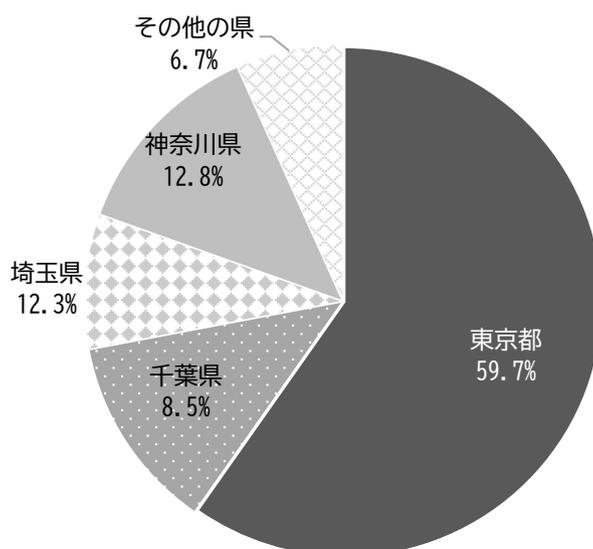
(4) 大学入学後の生活の予定

本節では、新入生の大学入学後の生活の予定について尋ねた結果を示す。

調査項目は、①大学入学後に居住予定の都道府県、②大学入学後の住居の予定、③1か月の家賃の予算、④1か月あたりの仕送り予定金額、⑤大学に入学後、特にこの1年で頑張ろうと思う活動、⑥アルバイト活動の予定、⑦授業料の負担予定、⑧大学生活での不安・心配事、⑨本学の学生支援活動への期待についてである。

① 大学入学後に居住予定の都道府県

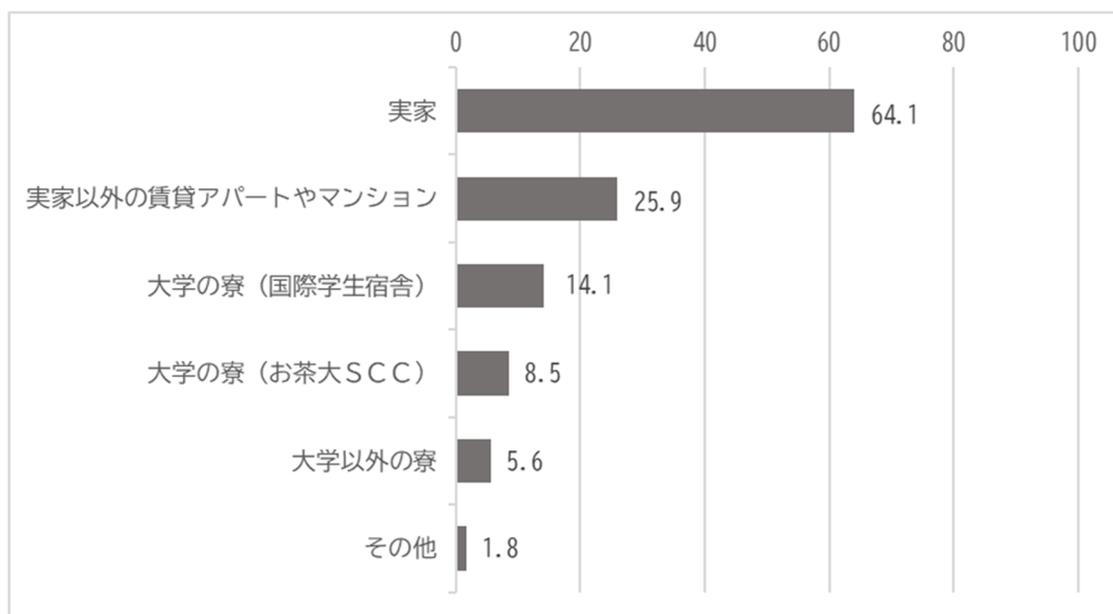
図表 4-1 に大学入学後に居住予定の都道府県について尋ねた結果を示す。全体では、東京都に居住予定のものが 59.7% と最も多く、神奈川県、埼玉県、千葉県と続く。この傾向は例年と同様である。



図表 4-1 大学入学後に居住予定の都道府県

② 大学入学後の住居の予定

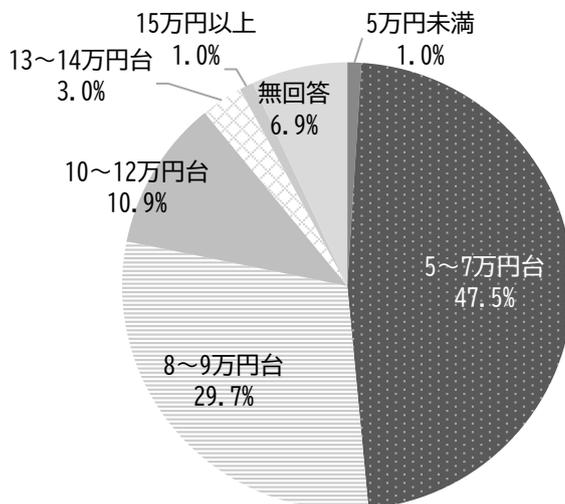
図表 4-2 に、大学入学後に予定している住居について、複数回答可として尋ねた結果を示す。全体では「実家」が 64.1%を占め、次いで「賃貸アパートやマンション」25.9%、「国際学生宿舎」14.1%、「お茶大 SCC」8.5%といった学生寮が続く。「実家」から通学する予定の学生が多いという傾向は過年度と同様である。ただし、「実家」と回答した割合が令和 2 年度入学者は 57.4%であったが令和 3 年度は 64.1%と 6.7 ポイント多い。図表には示していないが、過年度同様、理学部は、実家の比率が 73.0%と実家からの通学者が 6 割程度の文教育学部や生活科学部に比べて多い。また、理学部の実家通学予定者は令和 2 年度調査では 65.7%であり、7.3 ポイント増えている。



図表 4-2 大学入学後に予定している住居

③ 1か月の家賃（管理費込み）の予算

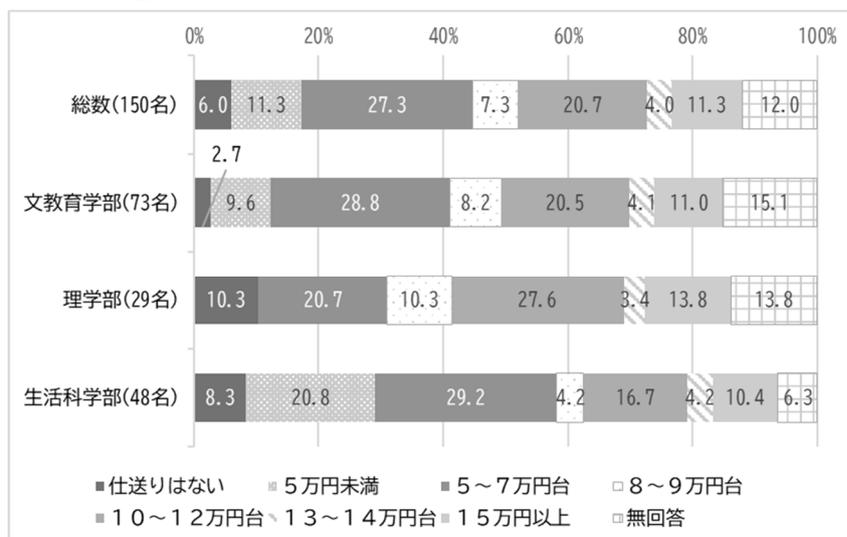
図表 4-3 に、1か月の家賃（管理費込み）の予算（千円未満は四捨五入）について、「賃貸アパートやマンション」に居住予定の者に尋ねた結果を示す³。例年と同様に「5～7万円」が47.5%と最も多く、「8～9万円」29.7%と続き、両カテゴリーを合わせると77.2%となり4分の3の学生が1か月の家賃として5～9万円を予定していることがわかる。



図表 4-3 1か月の家賃（管理費込み）の予算

④ 1か月あたりの仕送り予定金額

図表 4-4 に、1か月あたりの仕送り予定額（万円未満は四捨五入）について、「実家」以外に居住予定の者に尋ねた結果を示す⁴。「5～7万円台」が27.3%と最も多く、次に「10～12万円」20.7%となっており、例年と同様の傾向が見られる。しかし、学部による分布を見ると、理学部は「仕送りがない」割合が10.3%と高い一方で、10万円以上の割合が44.8%と高く、この割合は文教育学部や生活科学部に比べても高い。ただし、理学部は「実家」以外に居住予定のものは回答者の30%と他学に比べて少ないことは考慮する必要がある。



図表 4-4 1か月あたりの仕送り予定額

³ 本分析の対象者数は101名である。

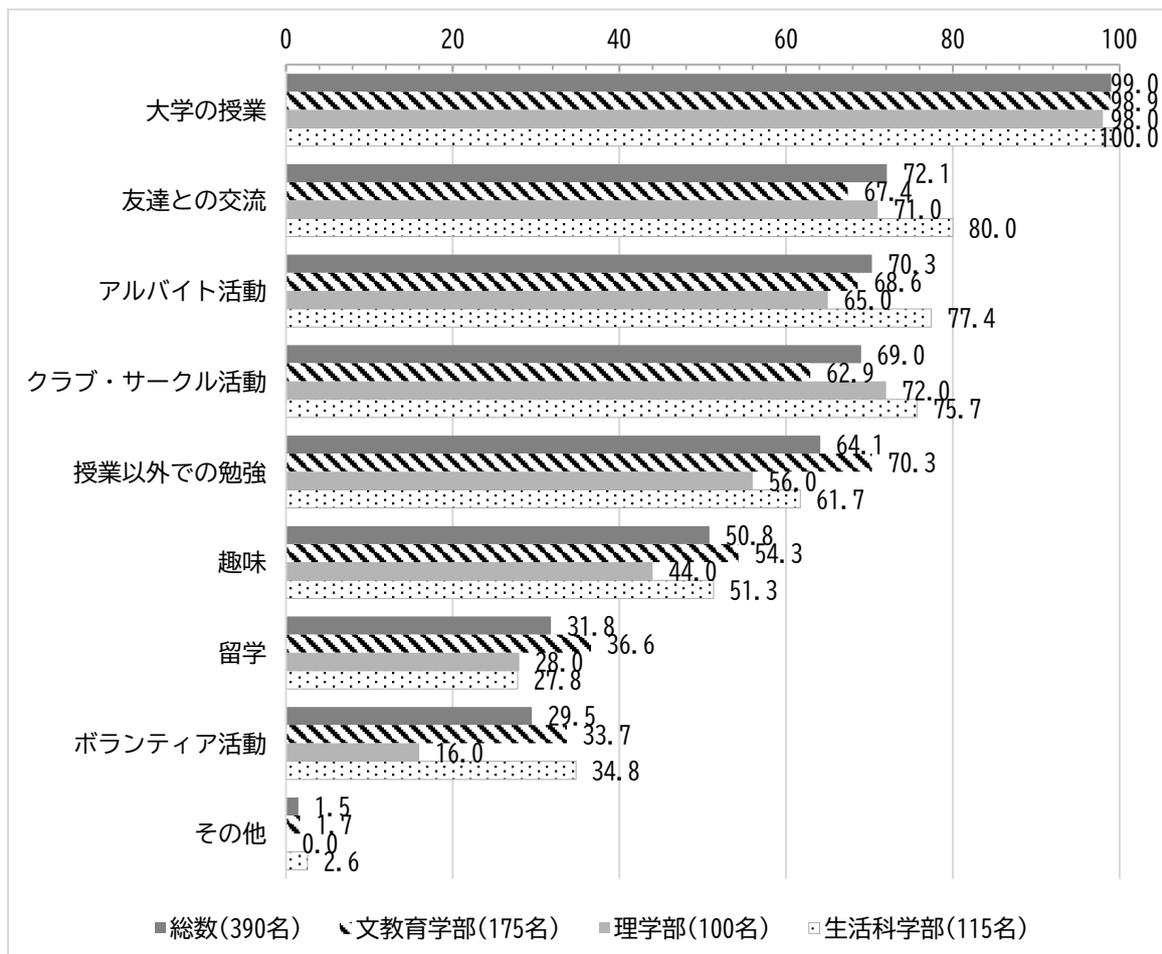
⁴ 本分析の対象者数は150名である。

一方、生活科学部は、「仕送りがない」割合が8.3%、「5万円未満」が20.8%である。全体の最頻値である7万円台までの割合を足し上げると生活科学部は58.3%、文教育学部は41.1%、理学部は31.0%と、実家以外から通う生活科学部の学生は仕送り額が少ない傾向がみられる。つまり、生活科学部の「実家」以外に居住予定の学生のうち6割近くが8万円未満の仕送りで生活を予定していることになる。学生間に格差があるようだ。

なお、「第56回 学生生活実態調査の概要報告」（全国大学生生活協同組合連合会2021）によれば、下宿生のうち、仕送り金額が5～10万円の学生の割合は32.6%、仕送り10万円以上は27.9%、仕送り0の割合は8.6%、5万円未満は15.6%となっており、仕送り5万円未満が漸増している。この調査との比較において、本学学生の仕送り金額が10万円程度までの割合は全国の大学生の平均的な水準とほぼ同等であると考えられる。ただし、「第56回 学生生活実態調査の概要報告」では未回答割合が52.1%であることから詳細の比較は控える。

⑤ 大学に入学後、特にこの1年で頑張ろうと思う活動

図表4-5に、入学後、特にこの1年で頑張ろうと思う活動について、複数回答可として尋ねた結果を示す。「大学の授業」が99.0%とどの学部でも例年通り最も高い。続いて、「友達との交流」72.1%、「アルバイト活動」70.3%、「クラブ・サークル活動」69.0%である。



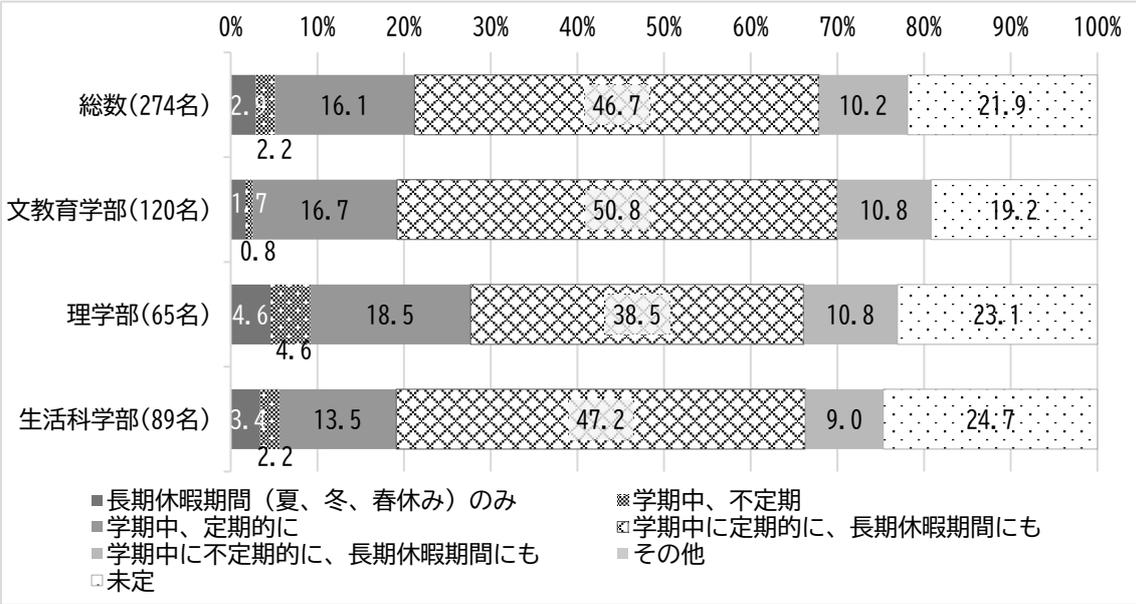
図表 4-5 大学に入学後、特にこの1年で頑張ろうと思う活動

平成 29 年度の調査から加えた「留学」は、平成 29 年度が 25.2%、平成 30 年度は 35.4%、平成 31 年度も 36.3%、令和 2 年度 38.4%と上昇傾向にあった。しかし、令和 3 年度調査では、31.8%と前回から 6.6 ポイント減少している。一方、「授業以外での勉強」や「趣味」の回答割合の増加傾向がみられる。「授業以外での勉強」は前年度 58.6%であったのに対し本年度は 64.1%と 5.5 ポイントの増加、「趣味」は前年度 44.4%であったのに対し本年度は 50.8%と 6.4 ポイントの増加がみられた。新型コロナウイルスの感染拡大に伴う影響の可能性が考えられるが、感染を懸念して留学をそもそも控えているのか、行きたいと思っているのに現状を踏まえて諦めているのかは、本調査からは把握できない。学生の意図を踏まえた支援が必要になると考える。それ以外の活動については、前年度との差は見られなかった。

令和 3 年度調査では、この 1 年で頑張ろうと思う活動が学部間で差がみられることが特徴である。「クラブ・サークル活動」「アルバイト」「授業以外での勉強」「友達との交流」「ボランティア活動」と多くの項目において学部による回答の差がみられた。

⑥ アルバイト活動の予定

図表 4-6 に、入学後にアルバイト活動を予定している者に対して、具体的な活動時期や仕方を尋ねた結果を示す⁵。最も多いのは「学期中に定期的に、長期休暇期間にも」46.7%であり、「学期中に定期的に」16.1%と合わせると 62.8%である。つまり、授業がある期間中に定期的にアルバイトをする予定と回答した割合が 6 割を超えている。

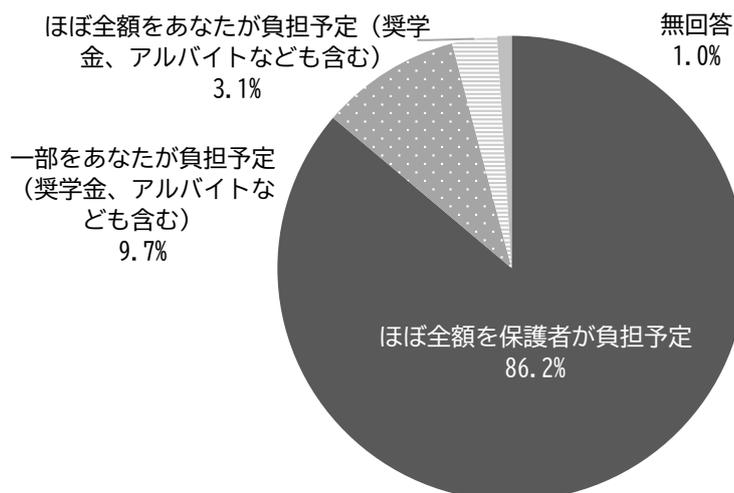


図表 4-6 アルバイト活動をする予定の時期や頻度

⑦ 授業料の負担予定

図表 4-7 に、授業料の負担予定について尋ねた結果を示す。「ほぼ全額を保護者が負担予定」が 86.2%と高い。この「ほぼ全額を保護者が負担予定」を回答する割合は、前年度と比較すると 0.4 ポイントの増加に過ぎないが調査開始時と比較すると漸増してきている。ただし、「ほぼ全額をあなたが負担予定」との回答は前年度 1.5%に比べ本年度は 3.1%と増加している。増加ポイントは 1.6 ポイントであるが回答人数が 10 名を超えていた。

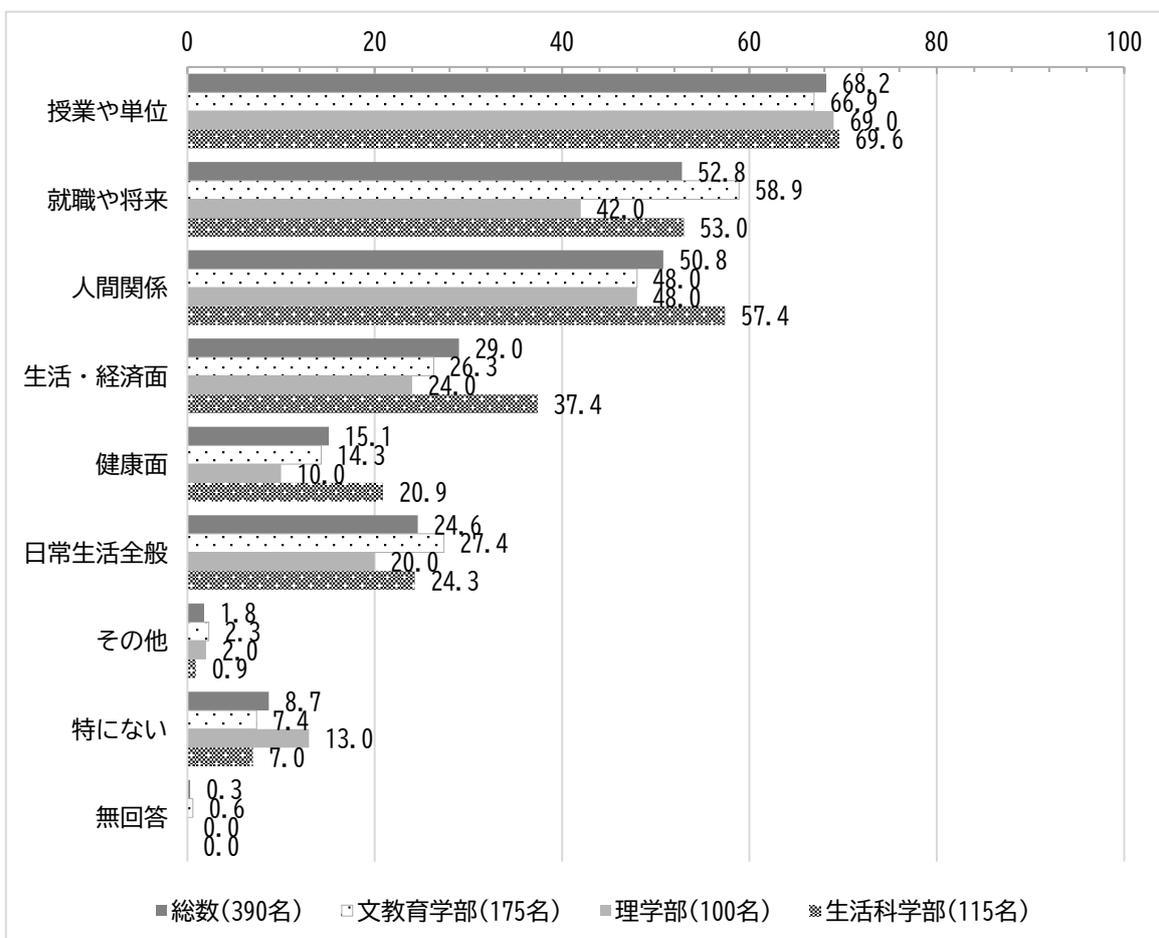
⁵ 本分析の対象者数は 274 名である。



図表 4-7 授業料の負担予定

⑧ 大学生活での不安・心配事

図表 4-8 に、全国大学生生活協同組合連合会が実施している「保護者に聞く新入生調査」の調査項目を参考に、大学生活が始まって心配なことについて複数回答可として尋ねた結果を示す。



図表 4-8 大学生活が始まって心配なこと

最も高い割合を示したのは「授業や単位」68.2%で、「就職や将来」52.8%、「人間関係」50.8%が続く。この上位3項目の内容は平成30年度・平成31年度・令和2年度と同様である。「就職や将来」に不安・心配に感じる割合は平成31年度と令和2年度を比較した令和2年度報告書では10ポイント程度低下していたが、令和2年度と本年度を比較すると2.7ポイント増加している。顕著な差とは言えないが、コロナ禍において将来に対する不安が高まっている可能性もあることから今後の推移について注視が必要であろう。

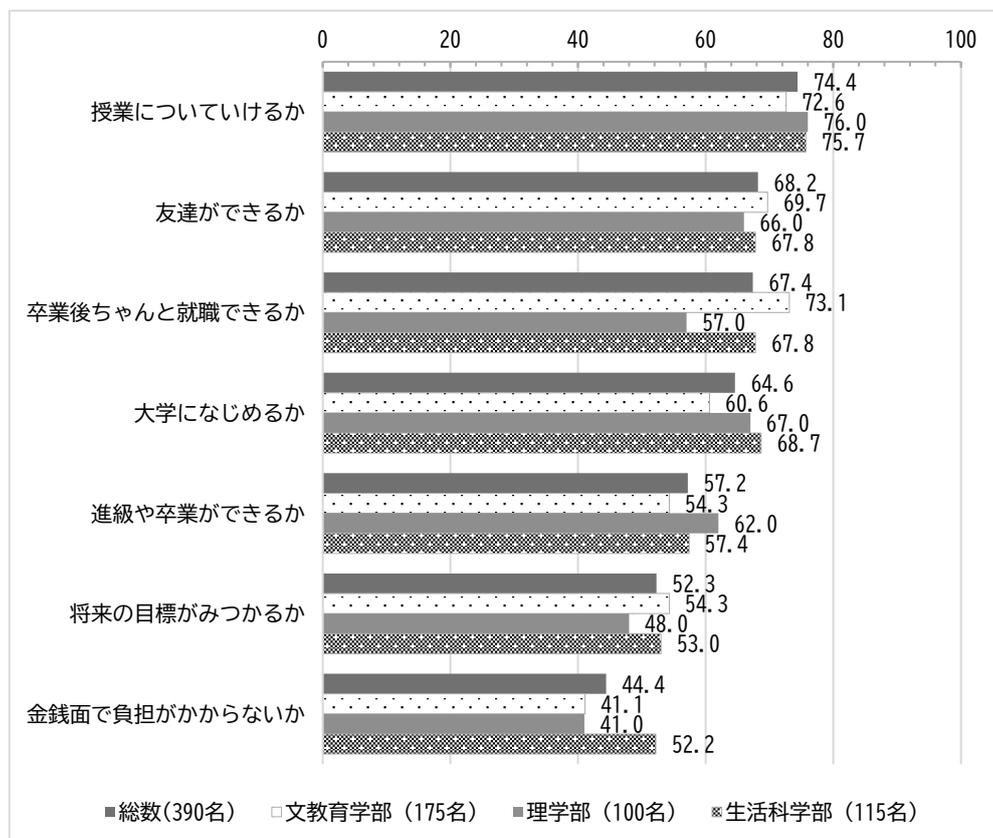
学部別では、理学部において「就職や将来」を回答した割合が42.0%と他学部と比較すると低く、文教育学部とは16.9ポイント、生活科学部とも11ポイントの差があった。統計的な差は認められなかったものの、「生活・経済面」への不安を回答する割合が生活科学部で比較的高くなっていった。

さらに図表4-9は大学入学後の不安・心配事に対する今の気持ちについて尋ねた結果を示す。

今の気持ちは「あてはまる」「ある程度あてはまる」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の4件法で尋ねているが、本分析は「あてはまる」と「ある程度あてはまる」と回答した者の割合を合算した割合（以下、「不安に感じている割合」と表記）を項目別・学部別に示す。

まず、令和3年度調査の全体の特徴を確認する。「不安に感じている割合」がもっとも多いのが「授業についていけるか」で74.4%、次いで「友達ができるか」の68.2、「卒業後ちゃんと就職ができるか」の67.4%であった。「金銭面での負担」を除くすべての項目で「不安に感じている割合」は5割を超えていた。

次に令和2年度調査との比較してみると「金銭面で負担がかからないか」を「不安に感じている割合」は令和2年度が全体で55.6%であったのに対し令和3年度調査では44.4%と11.2ポイント低下している。また「進級や卒業ができるか」を「不安に感じている割合」も令和2年度調査は50.6%であったが令和3年度調査では57.2%と6.6ポイント増加している。



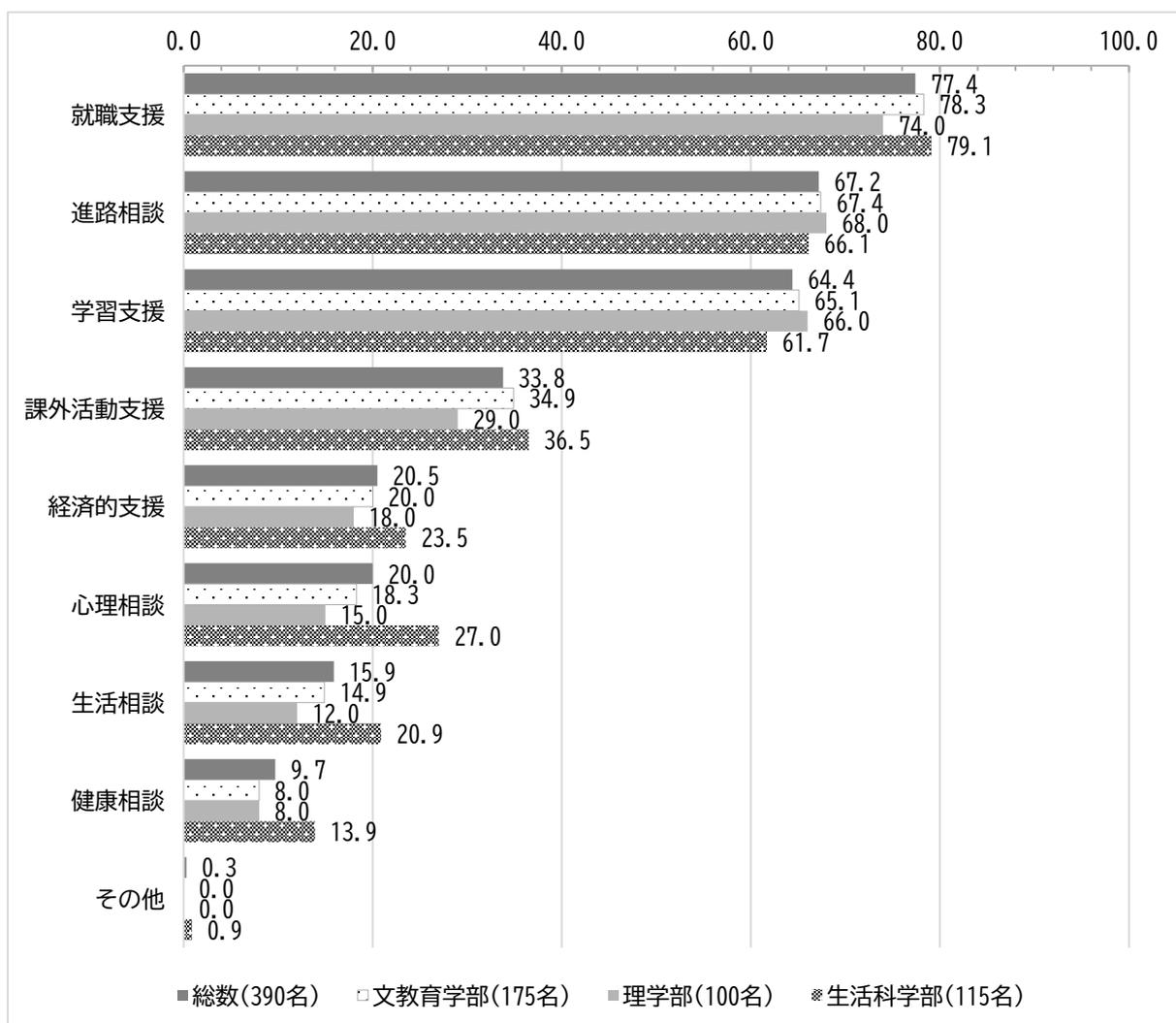
図表 4-9 大学生活での不安・心配事

最後に令和3年度調査の結果を学部別に比較する。「金銭面で負担がかからないか」について、文教育学部および理学部では41%程度であるのに対し生活科学部では52.2%と「不安に感じている割合」が1割程度多いことがわかる。また、「卒業後ちゃんと就職できるか」について「不安に感じている割合」は文教育学部が73.1%、理学部57.0%、生活科学部67.8%である。どの学部も半数以上が卒業後就職できるかどうかを心配していることがわかる。

⑨ 本学の学生支援活動への期待

図表4-10は、本学の学生支援活動に期待することについて、複数回答可として尋ねた結果である。まず、令和2年度調査全体の傾向について確認する。全体では「就職支援」が例年と同様に77.4%と最も高く、次いで「進路相談」67.2%、「学習支援」64.4%となっている。この3つの支援に対する回答が多いことは例年の傾向と同様である。

令和3年度調査の結果を学部別に比較する。生活科学部は「生活相談」「心理相談」「健康相談」と【相談】に期待する割合が多くなっている。、理学部が「進路相談」「学習支援」の割合が高いこと、文教育学部と生活科学部は「就職支援」が高いことは例年と同じ傾向であった。なお、令和2年度調査と比較した際に顕著な差が認められる項目は認められなかった。



図表 4-10 本学の学生支援活動への期待

(5) 将来の進路

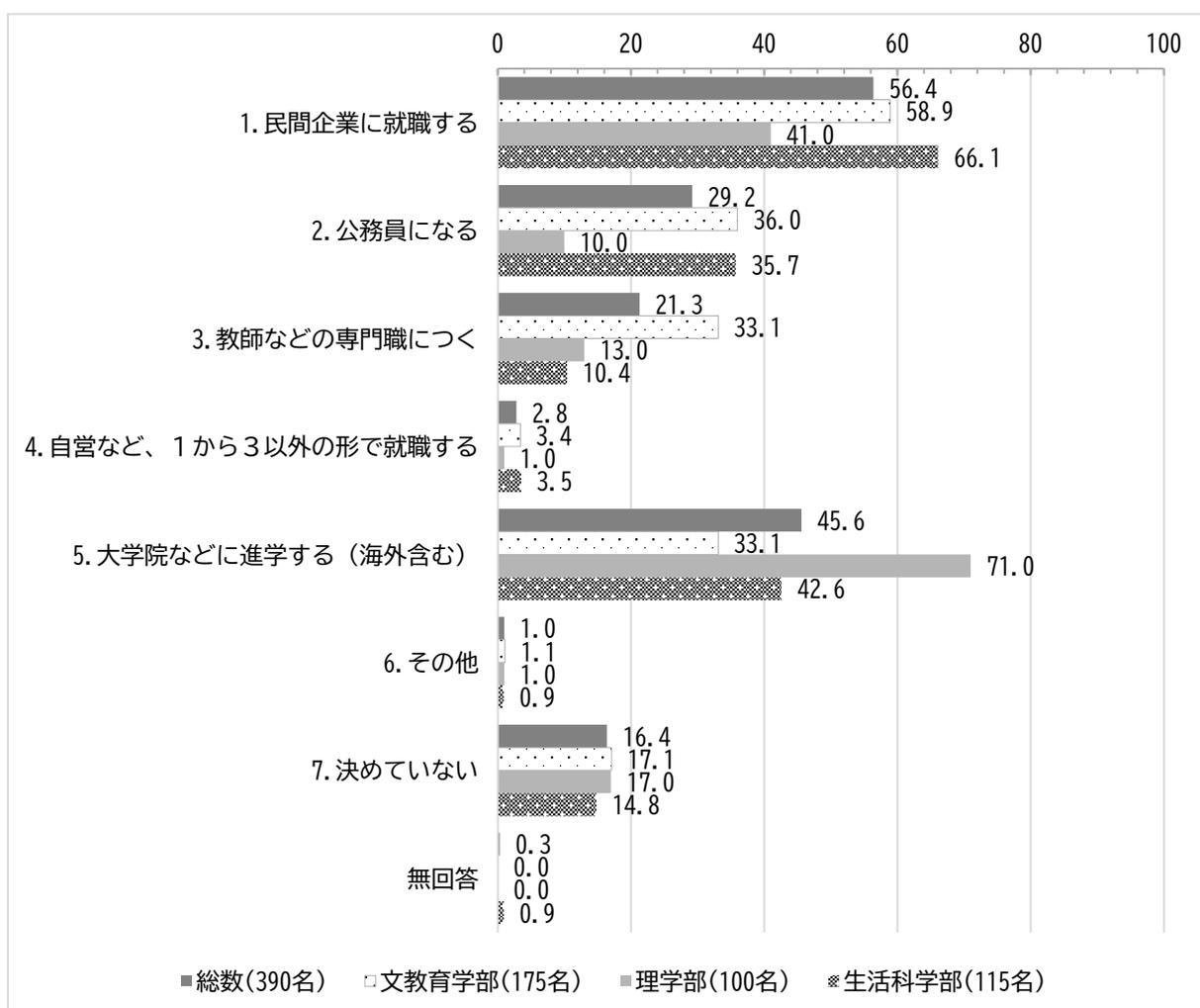
本節では、新入生の将来の進路について①大学卒業後の進路希望、②大学卒業後のキャリアについての考え、③就職や将来に関する親の関与について示す。

① 大学卒業後の進路希望

図表 5-1 に、大学卒業後の進路希望について複数回答可として尋ねた結果を示す。

全体で見ると、「民間企業」への就職希望者が最も多く 56.4%、「大学院など（海外含む）」がそれに続いて 45.6%であった。令和 2 年度調査と比較してもこの傾向に顕著な差は認められなかった。

令和 3 年度調査結果を学部別に比較する。文教育学部では、「民間企業」への就職希望が 58.9%と半数を超えており、次いで「大学院などに進学する」33.1%である。文教育学部の特徴は、「公務員」および「教師などの専門職」を希望する者がそれぞれ 36.0%、33.1%と 3 割を超えていることである。理学部は「大学院などに進学」を希望する割合が 71.0%と 7 割を超えていると同時に、「民間企業」に就職を希望する者も 41.0%である。この傾向は例年通りである。生活科学部で「民間企業」就職希望者が 66.1%と多いのは文教育学部同様である。生活科学部は同時に「大学院進学」希望者が 42.6%、「公務員」希望者が 35.7%である。これは学部内に文系と理系が存在することに起因していると考えられる。



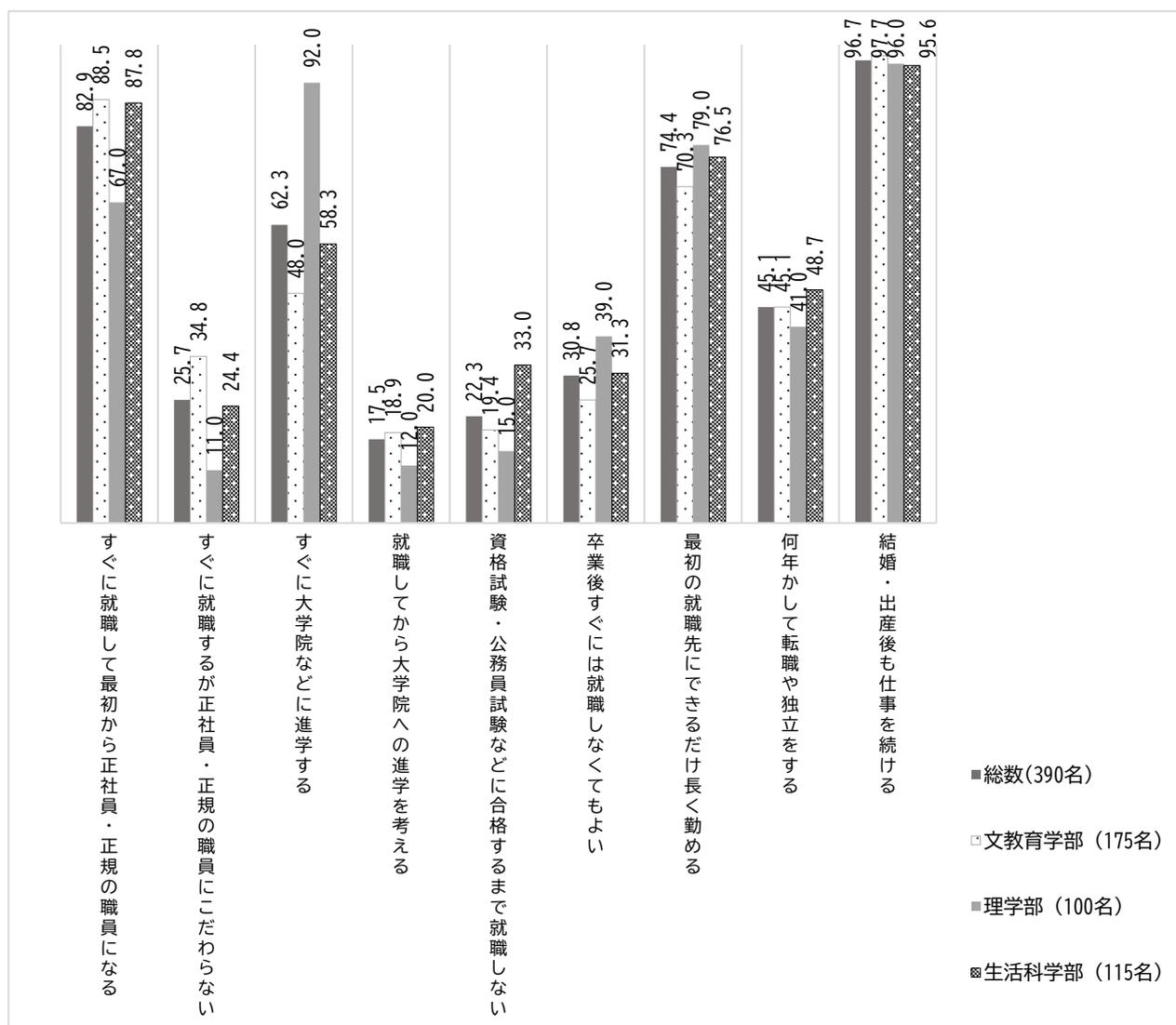
図表 5-1 大学卒業後の進路希望

② 大学卒業後のキャリアについての考え

図表 5-2 に、全国大学生調査コンソーシアム/東京大学 大学経営・政策研究センターが 2007 年に実施した「全国大学生調査」を参考に「大学卒業後のキャリアについての考え」に関する 9 項目について 3 件法で尋ねた結果を示す。図表に示す割合は、「そう思う」「ある程度思う」を合計したものである。

「すぐに就職して正社員・正規の職員になる」については全体で 82.9%と最も高い。同様に「最初の就職先にできる限り長く勤める」も 74.4%と 4 分の 3 を占めていることから、卒業後に正規就業をして、長期勤続する進路を希望する学生が多いと考えられる。しかし、この「最初の就職先にできる限り長く勤める」と回答した割合は、令和 2 年度では 82.0%と 8 割を超えており大学院への進学意向は例年と同様に理学部が高い。令和 2 年度調査では 92.6%であり、この傾向を例年よりも際立って高いと指摘していたが、本年度も 92.0%と高い割合であった「卒業後すぐに就職をしなくてもよい」についても理学部が 39.0%で平成 31 年度より 6 ポイント増加している。

結婚・出産後も仕事を続ける割合はいずれの学部においても例年と同様に高かった。

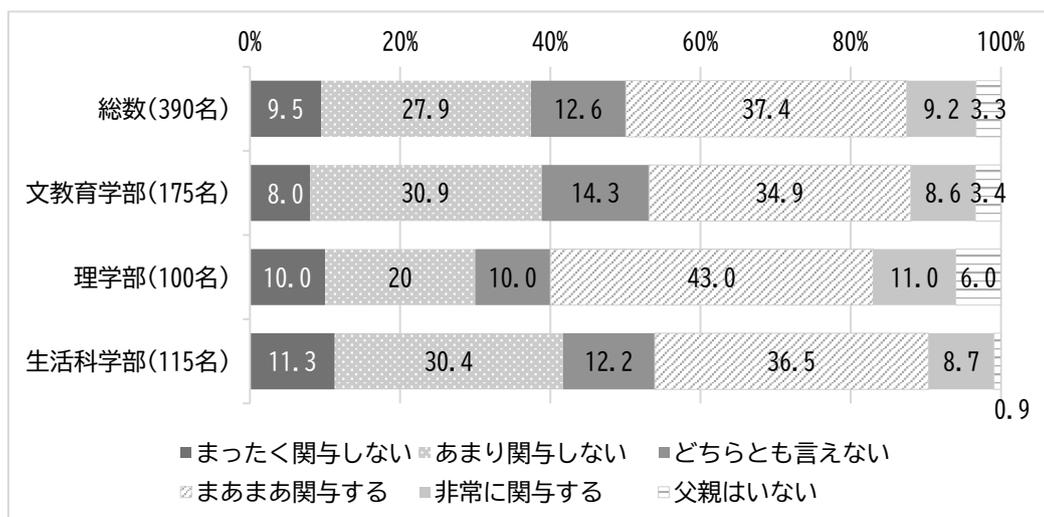


図表 5-2 大学卒業後のキャリアについての考え (全体)

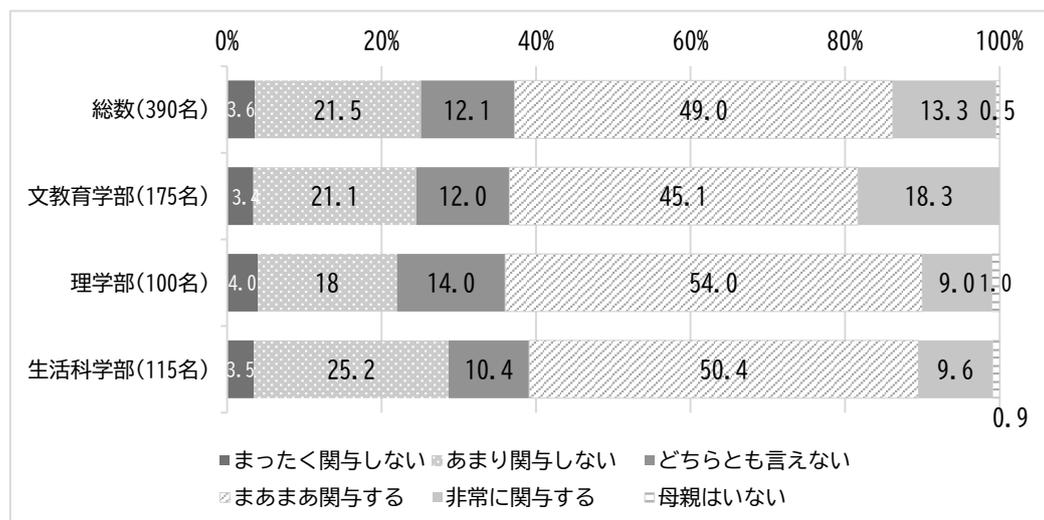
③ 就職や将来に関する親の関与

就職や将来に関する親の関与について「あなたのご両親は、あなたの就職や将来のことに、どれくらい関与しますか」について、「まったく関与しない」「あまり関与しない」「どちらとも言えない」「まあまあ関与する」「非常に関与する」の5件法で尋ねた。図表 5-3 に父親の関与について尋ねた結果を、図表 5-4 に母親の関与について尋ねた結果を示す。

はじめに父親の関与について、令和3年度の新入生は、就職や将来のことに、関して全体の46.6%が父親の関与がある（「非常に関与する」＋「まあまあ関与する」）と回答している。同様に母親に関しては、全体の62.3%が母親の関与があると回答した。このように、就職や将来のことに、関する親の関与があると、感じている、新入生が半数程度存在すること、父親より母親からの関与があるという傾向は例年と同様である。学部別では、理学部が父親・母親ともに「関与する」の割合が他学部より多いように見えるが、統計的な差は認められなかった。



図表 5-3 就職や将来のことに、関する父親の関与



図表 5-4 就職や将来のことに、関する母親の関与

第2章 「新入生の保護者調査」の結果

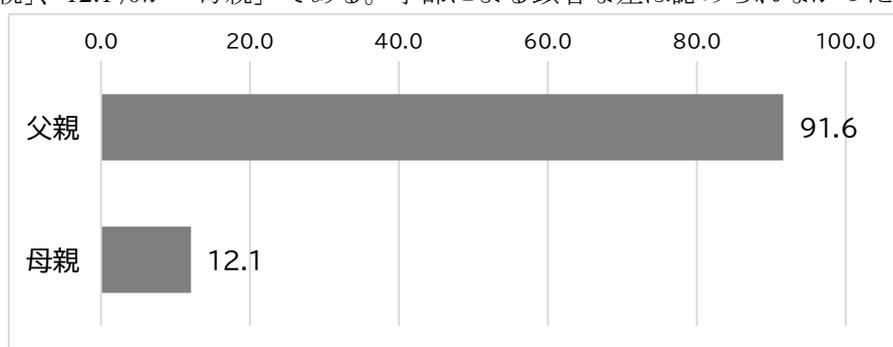
第2章では、新入生の保護者473名に対する調査結果について報告する。回答者は381名であり、学部別の内訳は、文教育学部171名、理学部99名、生活科学部111名である。

(1) 家庭の暮らし向き

はじめに、新入生の家庭の暮らし向きについて、①主な家計支持者、②家計支持者の職業、③家計支持者および世帯の年収、④大学入学後の家庭の暮らし向きについて示す。

① 主な家計支持者

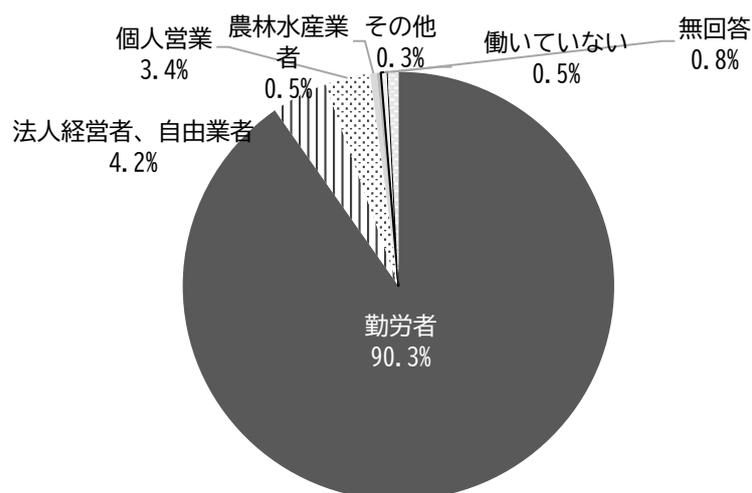
図表1-1に、新入生の主な家計支持者について尋ねた結果を示す⁶。主な家計支持者は、全体の91.6%が「父親」、12.1%が「母親」である。学部による顕著な差は認められなかった。



図表1-1 家計支持者

② 家計支持者の職業

図表1-2に主な家計支持者の職業について示す。家計支持者の職業は「勤労者」が全体の90.3%を占め、次いで「法人経営者・自由業者」4.2%、「個人営業」3.4%である。この傾向は例年と変わらない。



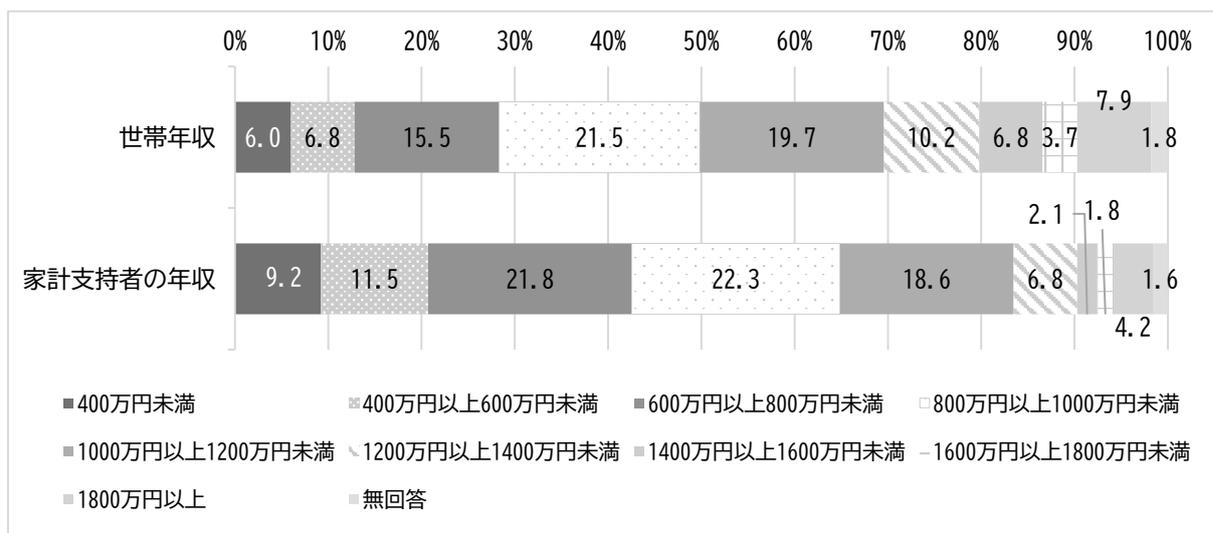
図表1-2 家計支持者の職業

⁶ この設問は複数選択を認めているため、複数選択されているケースがあった。このため、父親(91.6%)と母親(12.1%)を合計すると100%を超える。

③ 家計支持者および世帯の年収

図表 1-3 に家計支持者および世帯の年収に尋ねた結果を示す。家計支持者については、最大カテゴリーが 22.3%の「800 万円以上 1000 万円未満」、次いで 21.8%の「600 万円以上 800 万円未満」、 「1000 万円以上 1200 万円未満」が 18.6%と続く。最大カテゴリーについて、令和 2 年度調査は「600 万円以上 800 万円未満」、本年度調査は「800 万円以上 1000 万円未満」となったが、次点の「600 万円以上 800 万円未満」との差は 0.5 ポイントであり誤差の範囲と考えられる。

世帯年収については、「800 万円以上 1000 万円未満」21.5%がもっとも多く、「1000 万円以上 1200 万円未満」19.7%が続く。家計維持者・世帯の年収とも、例年と同様の傾向である。

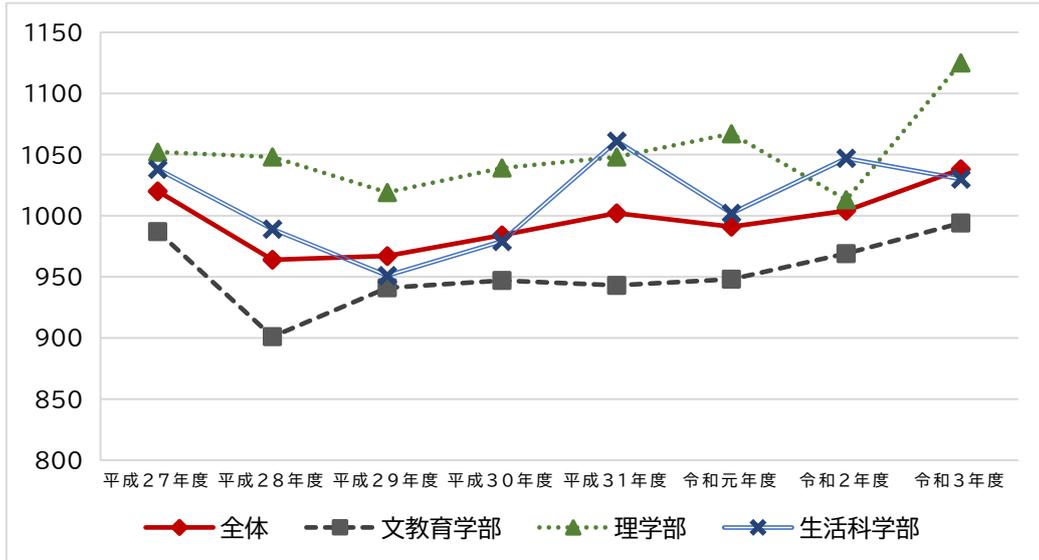


図表 1-3 家計支持者の年収

『令和 2 年度 学生生活調査』（日本学生支援機構 2021）によると、世帯年収が 1000 万円を超える家庭は全体の 28.5%、国立大学・女子では 31.1%である。それに対して、本学の新生の家庭では、世帯年収が 1000 万円を超えている家庭が全体の 48%を占めており、全国水準に比べて高い方に偏っている。これも例年の新生と同様の傾向である。

図表 1-4 に、各カテゴリーの中央値に基づき、2014 年度以降の新生の家庭の世帯年収平均（推計）の推移を示す。年度による差異はあるが、この 5 年の平均世帯年収は 1000 万円前後となっている。大学昼間部の家庭の年間平均収入額は 862 万円であることから（日本学生支援機構 2020）、図表 1-3 でも確認したように本学の学生の家庭の収入水準は高いと考えられる。

さらに、令和 3 年度理学部入学者の世帯収入が突出していることについて詳細を述べる。世帯年収 1000 万円を超えていると回答した割合は、新生全体では上述の通り 5 割程度であり、文教育学部および生活科学部では 45%程度であった。一方、理学部新生は、世帯収入 1000 万円以上と回答した割合が 60.7%であった。ただし、この質問に回答した理学部の保護者 95 名と理学部全体の 4 分の 3 程度であり、この結果が実態と一致しているかどうかは慎重に検討する必要がある。



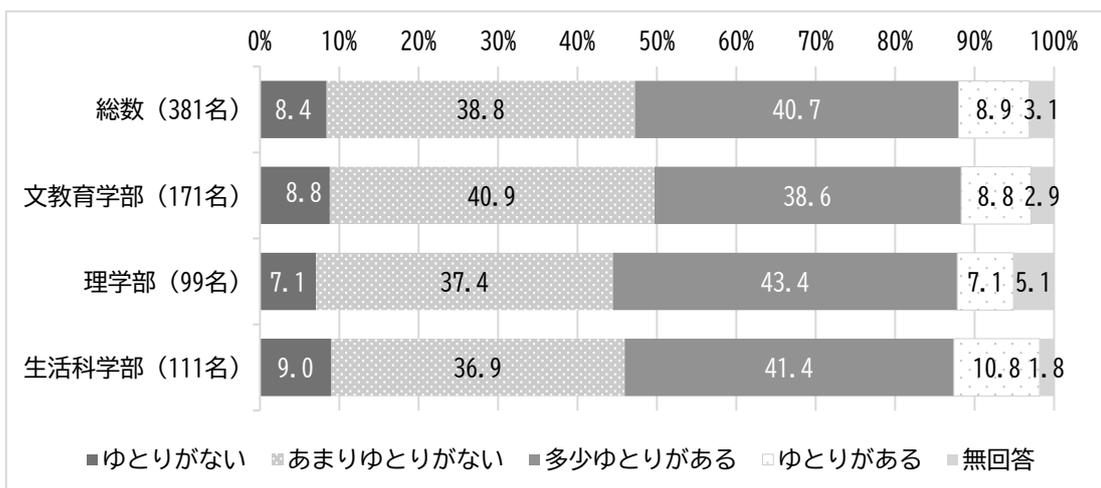
図表 1-4 世帯年収平均 (推計)

④ 大学入学後の家庭の暮らし向き

図表 1-5 に、新入生が大学に入学した後の家庭の暮らし向きについて尋ねた結果を示す。

全体で見ると「多少ゆとりがある」と回答した割合が 40.7%と最も多く、令和 2 年度に比べると 1.6 ポイント、平成 31 年度からは 6.1 ポイント増加している。「ゆとりがある」との回答割合も令和 2 年度 6.1%から本年度 8.9%と 2.8 ポイント増加している。「ゆとりがある」「多少ゆとりがある」の回答割合を合わせると 49.6%となり、ほぼ半数の家庭において、子が大学進学しても生活にゆとりがある状況であることがわかる。

学部別に比較した際、例年理学部において相対的に「ゆとりがある」と回答する割合が高いことを指摘してきたが、本年度は学部間の顕著な差は認められなかった。



図表 1-5 入学した後の家庭の暮らし向き

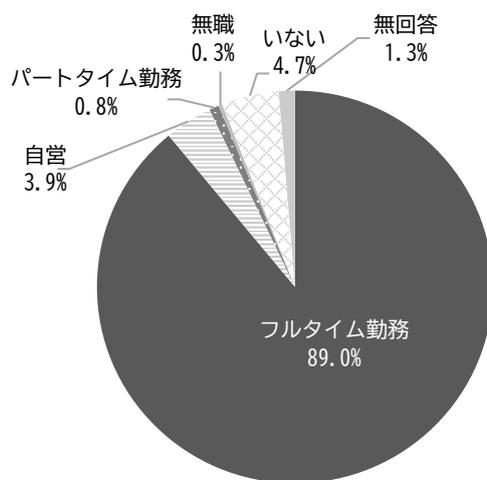
(2) 親の職業・学歴

本節では新入生の親の職業や学歴について、①親の勤務形態および職種、②親の学歴について示す。

① 親の勤務形態および職種

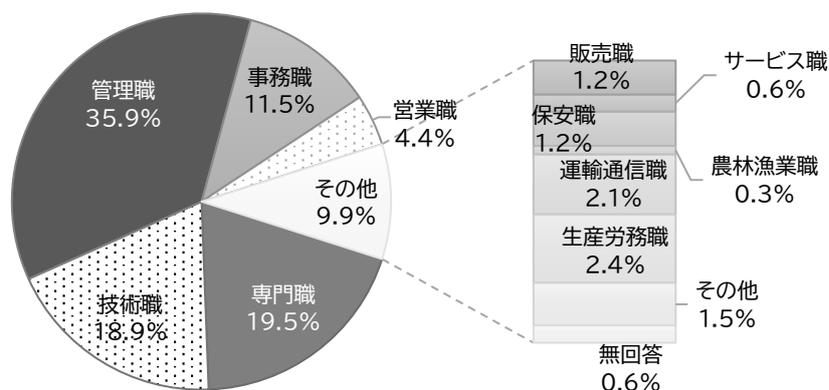
図表 2-1 に、新入生の父親の勤務形態（「フルタイム勤務」「パートタイム勤務」「自営」「無職」「いない」）を尋ねた結果を示す。新入生の父親の勤務形態は「フルタイム勤務」が 89.0%と約 9割を占め、次いで「自営」が 3.9%である。

令和 2 年度に比べて「フルタイム勤務」がさらに増加し（令和 2 年度は 86.8%）、「自営」が減少（令和 2 年度は 7.1%）傾向であるものの、令和 2 年度調査と本年度調査で統計的に有意な差は認められていない。



図表 2-1 父親の勤務形態

次に、図表 2-2 にフルタイムで勤務する父親に対して職種を尋ねた結果⁷を示す。最も多い職種は、管理職（会社・団体の役員、部課長・工場長・支店長など）35.9%である。次いで、専門職（医師・弁護士・研究者・教師など）19.5%、技術職（エンジニア・情報処理技術者など）18.9%、である。例年と類似する結果である。

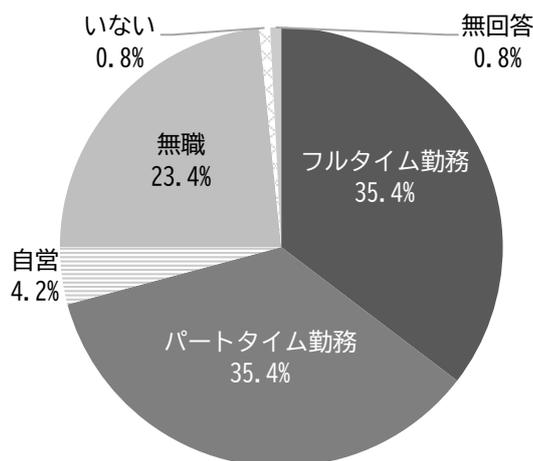


図表 2-2 父親の職種

⁷ 回答者は 339 名である

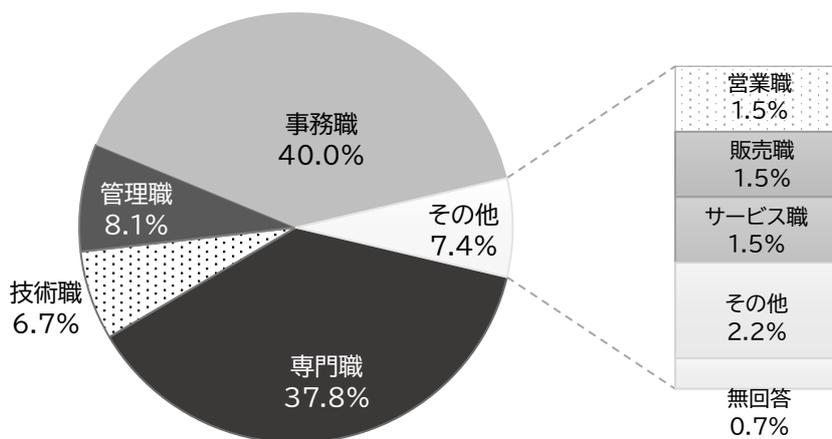
同様に、新入生の母親の勤務形態について尋ねた結果が図表 2-3 である。例年、「パートタイム勤務」、「フルタイム勤務」、「無職」の順に回答割合が高かった。本年度は、「フルタイム勤務」と「パートタイム勤務」の回答割合がともに 35.4% となり、次いで「無職」が 23.4% であった。「フルタイム勤務」と「パートタイム勤務」を合わせると就業者は 7 割であり、新入生の母親の 7 割が就業しており、2 割超が「無職」であることは令和 2 年度と変化がない。

しかし、令和 2 年度は平成 31 年度にくらべてフルタイム勤務が約 4 ポイント増加し、本年度はさらに 7.5 ポイント増加している。母親が「フルタイム勤務」している者が増加していると考えられる。



図表 2-3 母親の勤務形態

次にフルタイムで勤務する母親に対し職種について尋ねた結果を図表 2-4 に示す⁸。最も多い職種は、事務職（庶務・人事・経理・調査・企画・秘書・受付など）40.0%で、専門職（医師・弁護士・研究者・教師など）37.8%が続く。この事務職と専門職の割合が多い傾向は平成 31 年度、令和 2 年度と同様である。管理職（会社・団体の役員、部課長・工場長・支店長など）は 8.1%で、令和 2 年度よりも 1.7 ポイント、平成 31 年度よりも 6.7 ポイント程度増えており、増加傾向がみられる。

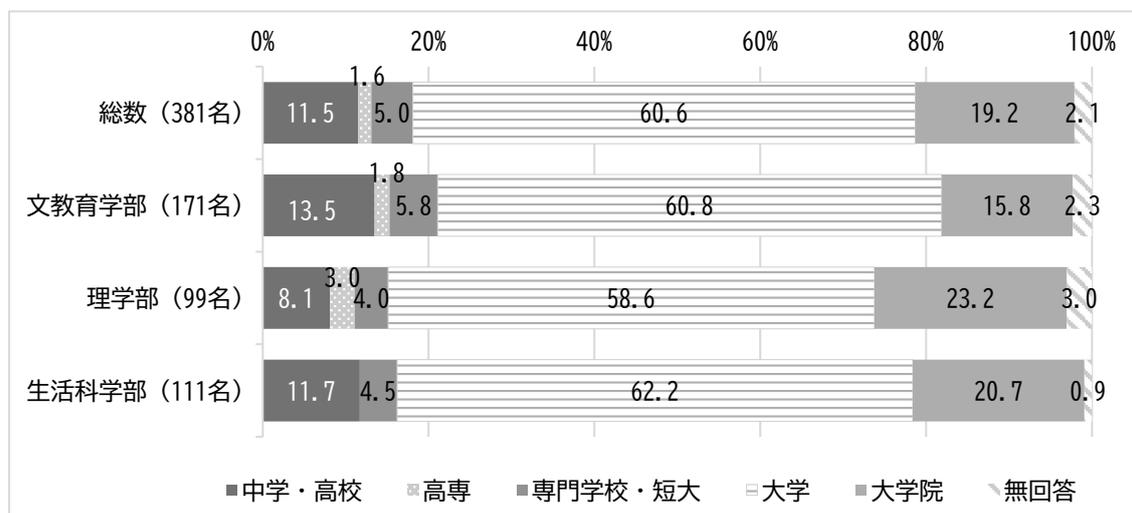


図表 2-4 母親の職種

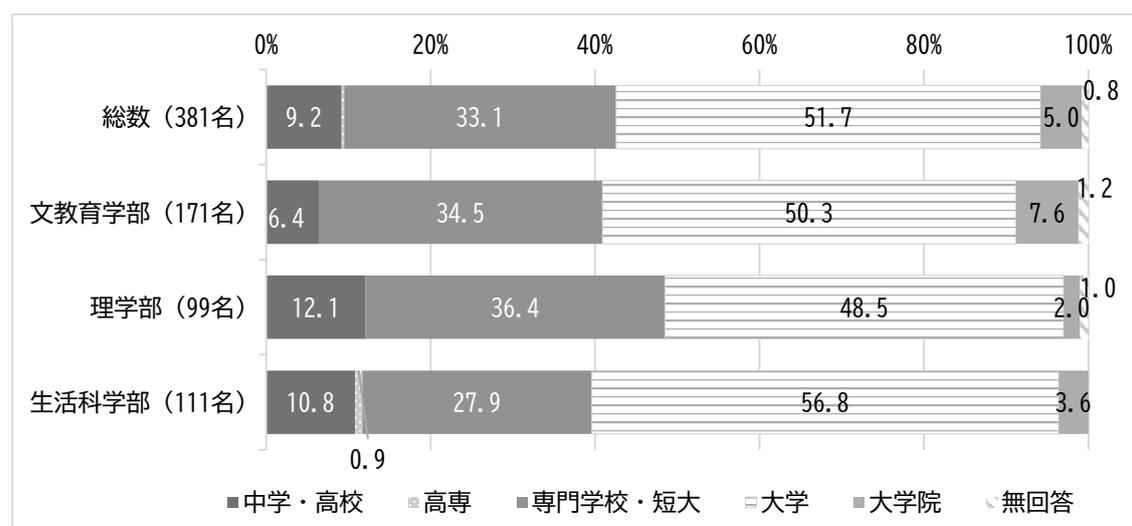
⁸ 回答者は 135 名である

② 親の学歴

図表 2-5 に、新入生の父親の最終学歴を尋ねた結果を示す。全体でみると、「大学」が 60.6%と最も高く、続いて「大学院」19.2%、「中学・高校」11.5%である。大学と大学院を合わせると 79.8%と大学卒業以上がほぼ 8 割である。令和 3 年度の新入生の父親も例年と同様に学歴が高いほうに偏っている。学部別では、「大学院」の割合が生活科学部・理学部で高い。



図表 2-5 父親の最終学歴



図表 2-6 母親の最終学歴

図表 2-6 に新入生の母親の最終学歴について尋ねた結果を示す。全体で「大学」51.7%、「専門学校・短大」33.1%、「中学・高校」が 9.2%である。「大学」が半数を超えた一方で「中学・高校」が 1 割を切った。令和 3 年度新入生の母親の学歴は、父親の学歴と同様に高いと言える。

学部別では、生活科学部では「大学」の割合が比較的高い。

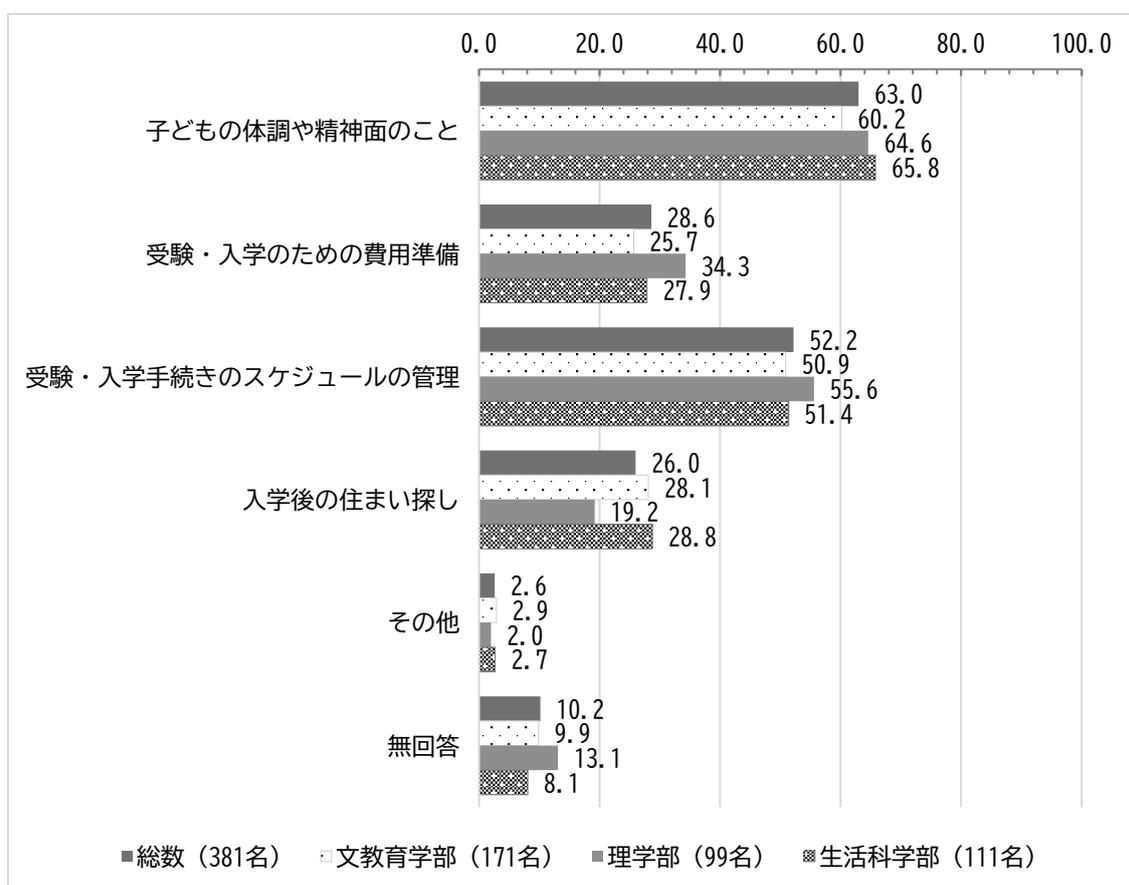
(3) 大学生生活の不安・心配事・学生支援活動への期待

本節では保護者から見た子女の大学生生活の不安・心配事について、①受験から入学までに困ったこと、②大学生生活が始まって心配なこと、③本学の学生支援活動で期待するものを示す。

① 受験から入学までに困ったこと

図表 3-1 に、受験から入学までに困ったことについて、複数回答可として尋ねた結果を示す。

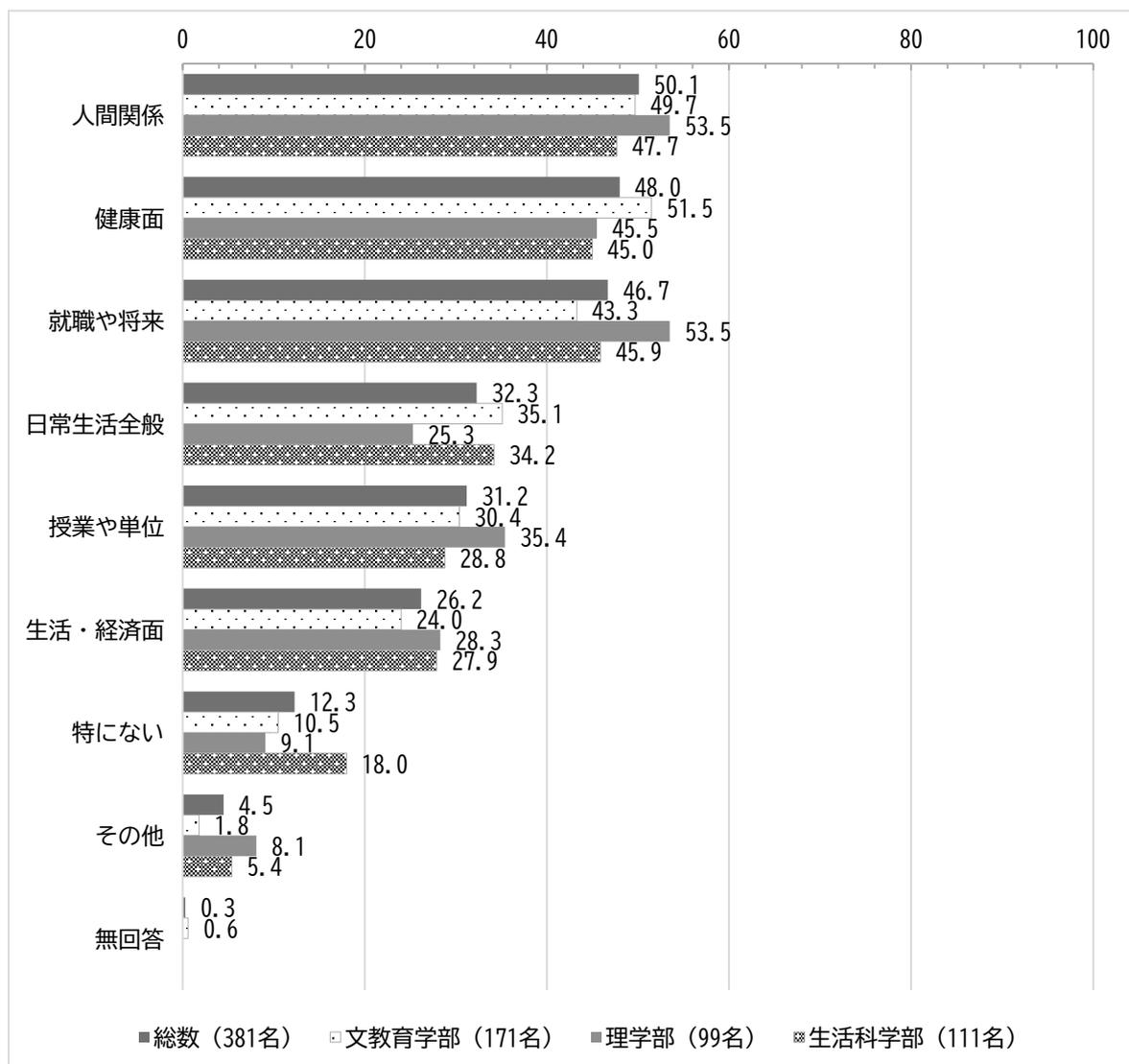
困ったこととして「子どもの体調や精神面」が全体の 63.0%と最も高く、「受験・入学手続きのスケジュールの管理」が 52.2%と続いており、この項目が他の項目と比べて困ったこととして回答される割合が多いのは例年と同様である。しかし、令和 2 年度調査にくらべて割合はそれぞれ 3.4 ポイント、8 ポイント増加している。特に「受験・入学手続きのスケジュールの管理」については、いわゆる「コロナ禍」における不安だけでなく、大学入試センター試験から大学入学共通テストへの変更に伴う不安があったと考えられよう。保護者が「受験から入学までに困ったこと・悩んだこと」について、学部による差は見られなかった。



図表 3-1 受験から入学までに困ったこと

② 大学生活が始まって心配なこと

図表 3-2 に、大学生活が始まって心配なことについて、複数回答可として尋ねた結果を示す。心配なこととして、全体で「人間関係」50.1%「健康面」48.0%、「就職や将来」46.7%が高かった。この3つの項目が「大学生活が始まって心配なこと」として回答される割合が高いことは、例年と同じ傾向である。ただし、令和2年度調査は「健康面」がもっとも多かったのに対して、令和3年度調査は「人間関係」がもっとも多くなっているという違いは見られた。また、例年回答割合は高くはないものの「生活・経済面」を挙げる割合が令和2年度調査は33.0%であったのに対し、令和3年度調査は26.2%と6.8ポイント下がった。保護者が「ご子女の大学生活が始まって心配なこと」は学部による差は見られなかった。



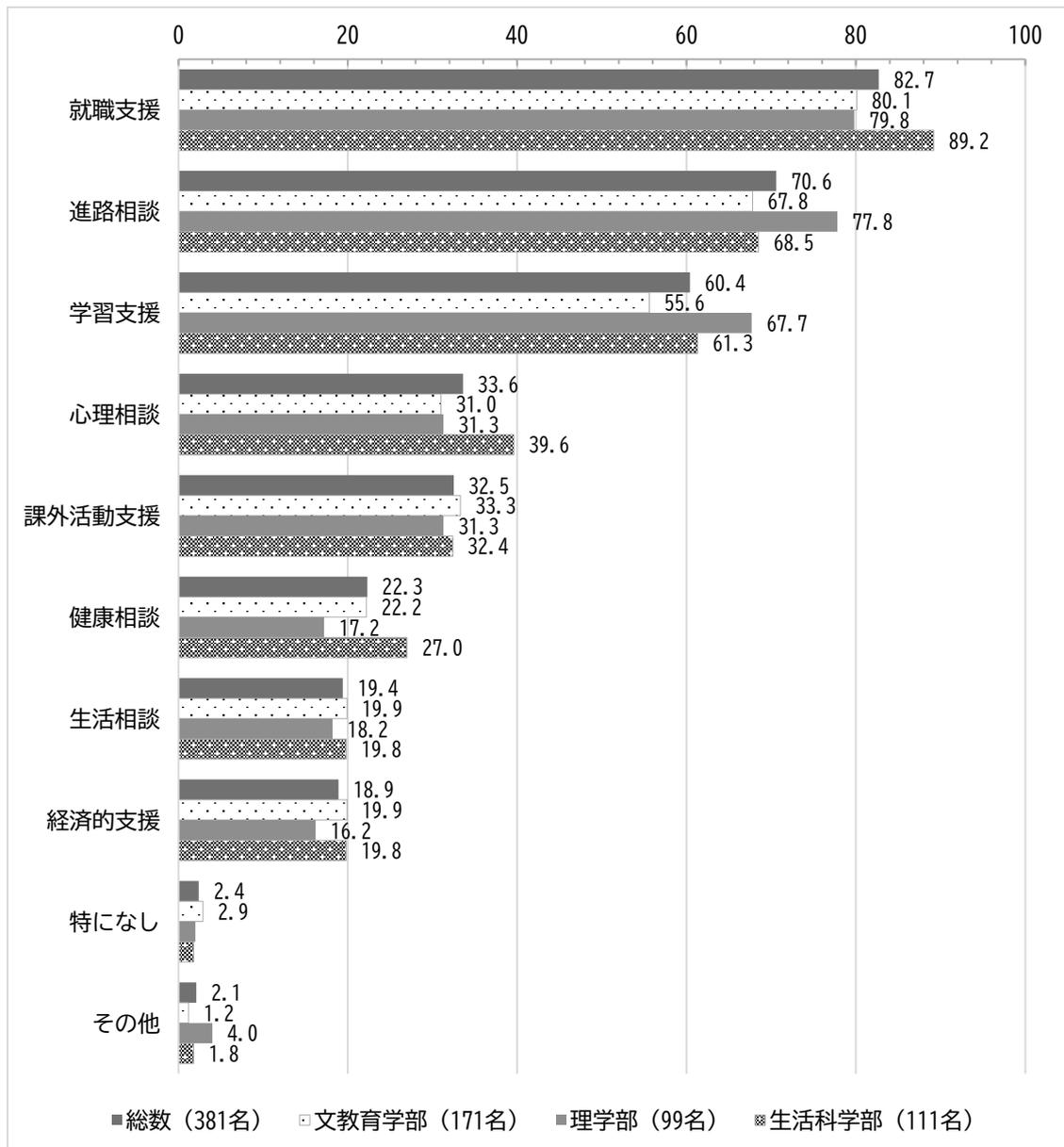
図表 3-2 大学生活が始まって心配なこと

③ 本学の学生支援活動で期待するもの

図表 3-3 に、「お茶大生の学習環境と生活・意識に関する調査」の調査項目を参考に、本学の学生支援活動に期待するものについて、複数回答可として尋ねた結果を示す。

全体としては「就職支援」が82.7%で最も高く、「進路相談」70.6%と続く。例年同様、保護者が学生支援として、キャリアや進路支援に期待を寄せている様子が見て取れる。一方、令和2年度調

査では28.4%が期待すると回答していた「生活相談」は令和3年度調査では19.4%と9ポイント少なかった。また、「経済的支援」に対して期待すると回答した割合が、令和2年度調査では23.6%であったが令和3年度調査では18.9%と4.7ポイント少なくなった。図表1-4や図表1-5で示したように令和3年度新入生の大学進学後の家計のゆとりとも関連があると考えられよう。学部別では、生活科学部の保護者が「就職支援」を挙げる割合が89.2%と多く、理学部は「進路相談」を挙げる割合が77.8%と学部ごとに学生支援への期待が異なる部分がある。この傾向は例年通りである。



図表 3-3 本学の学生支援活動で期待するもの

第3章 新入生および保護者調査の結果

—奨学金・学生寮に関するクロス集計—

第3章では、新入生401名、新入生の保護者394名に対する調査結果について報告する。

(1) 問題・目的

本章では、新入生および保護者を対象とした調査の中から、奨学金制度および学生寮に関する調査項目を中心に、それぞれの現状を明らかにし、昨年度の結果と比較しながら、学生生活支援における今後の課題や展開を示唆することを目的とする。具体的には、以下の2点を明らかにする。

1. 新入生のうち、どのような学生が奨学金を認知しているのか、奨学金の受給経験があるのか、学生寮を認知しているのかを明らかにし、本学の奨学金制度および学生寮の今後の課題や展開を示唆する。
2. 保護者のうち、どのような保護者が奨学金を希望しているのか、学生寮への入寮を希望しているのかを明らかにし、本学の奨学金制度および学生寮の今後の課題や展開を示唆する。

(2) 奨学金に関する結果

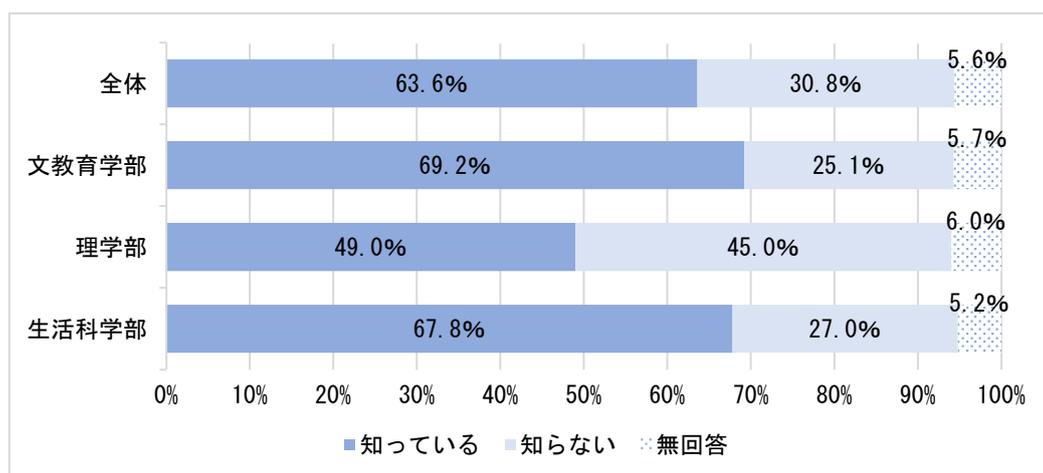
① 新入生の結果

＜奨学金等制度の認知と受給経験＞

新入生の奨学金等制度の認知と受給経験について示したものが図表1-1～1-3である。

図表1-1は奨学金等制度の認知について、学部別に表示している。奨学金等制度について、1つでも認知していれば「知っている」とした。

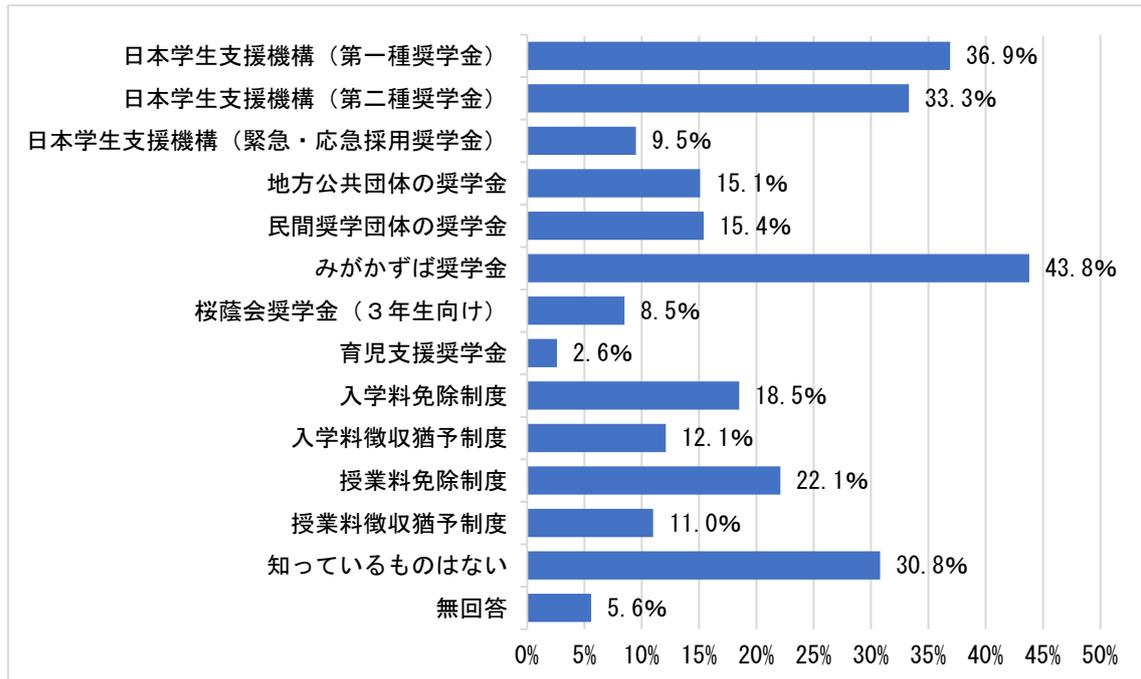
全体では63.6%の新入生が奨学金等制度について認知している。学部別にみると、理学部での認知度が最も低く、49.0%であり、これは昨年度と同様の傾向である。



図表 1-1 学部別奨学金等制度の認知

図表1-2は、奨学金等制度の認知について、本学独自の制度も含め複数回答可として尋ねた結果である。最も認知度が高いものは本学独自の奨学金である「みがかずば奨学金」で43.8%である。それに次いで日本学生支援機構の奨学金の第一種・第二種が36.9%、33.3%と続いている。また、

「知っているものはない」が30.8%であり、これは昨年度の27.9%と比べて上昇傾向である。



図表 1-2 奨学金等制度の認知

図表1-3は、これまで受けたことのある奨学金等制度について、複数回答可として尋ねた結果である。「特待生」が3.1%と最も多く、「学費免除」が2.6%であった。ほかの奨学金等制度の受給経験は1~2%程度の割合を示している。

図表 1-3 制度別奨学金・学費免除等制度の受給経験

奨学金等制度名称	日本学生支援機構	地方公共団体	学校独自	民間奨学団体	新聞社	その他	学費免除	特待生
受けたことがある	2.3%	2.1%	1.0%	0.5%	0.0%	0.8%	2.6%	3.1%

<奨学金等制度の認知と属性などの項目とのクロス表>

次に、どのような学生が奨学金等制度を認知しているのかを明らかにするため、「奨学金の認知」と各項目のクロス表を作成し、カイ二乗検討を行った。「奨学金の認知」は、それぞれの選択肢の中で一つでも認知していれば「知っている」として分析した。結果を図表1-4~1-9に示す。

図表1-4は「きょうだい数」と「奨学金認知」のクロス表である。きょうだい数と奨学金認知について有意な関連はみられなかった。

図表 1-4 きょうだい数と奨学金認知 のクロス表

			奨学金認知		合計
			知っている	知らない	
きょうだい数	1人っ子	度数	50	27	77
		%	64.9%	35.1%	100.0%
	2人きょうだい	度数	142	73	215
		%	66.0%	34.0%	100.0%
	3人以上	度数	55	20	75
		%	73.3%	26.7%	100.0%
合計		度数	268	247	120
		%	70.5%	67.3%	32.7%

n.s. 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表1-5は「出身高校設置者」と「奨学金認知」のクロス表である。出身高校の設置者と奨学金の認知について有意な関連は見られた。

図表 1-5 出身高校設置者と奨学金認知の クロス表

			奨学金認知		合計
			知っている	知らない	
出身高校設置者	公立	度数	155	68	223
		%	69.5%	30.5%	100.0%
	私立	度数	79	49	128
		%	61.7%	38.3%	100.0%
	国立	度数	13	1	14
		%	92.9%	7.1%	100.0%
	海外	度数	0	2	2
		%	0.0%	100.0%	100.0%
合計		度数	269	247	120
		%	70.6%	67.3%	32.7%

* 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 1-6 は「奨学金受給経験」と「奨学金認知」のクロス表である。奨学金の受給経験がある場合には、奨学金等制度についても認知している割合が高いとの分析結果である。これは昨年度と同様の結果であった。

図表 1-6 奨学金受給経験と奨学金認知 のクロス表

			奨学金認知		合計
			知っている	知らない	
奨学金受給経験	経験なし	度数	215	114	329
		%	65.3%	34.7%	100.0%
	経験あり	度数	33	6	39
		%	84.6%	15.4%	100.0%
合計		度数	248	120	368
		%	67.4%	32.6%	100.0%

* 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 1-7 は「入学後の予定住居」と「奨学金認知」のクロス表である。奨学金等制度について、入学後に予定している住居が実家以外（賃貸マンション・アパート、学生寮）の新入生のほうが認知の割合が高く、有意な関連が見られた。

図表 1-7 入学後の予定住居と奨学金認知 のクロス表

			奨学金認知		合計
			知っている	知らない	
入学後の 予定住居	実家以外	度数	99	33	132
		%	75.0%	25.0%	100.0%
	実家	度数	149	87	236
		%	63.1%	36.9%	100.0%
合計		度数	248	120	368
		%	67.4%	32.6%	100.0%

* 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表1-8は「仕送り額」と「奨学金認知」のクロス表である。図表1-8での「仕送り額」は、入学後の予定住居を「実家以外（賃貸マンション・アパート、学生寮）」と回答した新入生の仕送り額を示している。仕送り額が高いほど奨学金の認知率が下がる傾向である。

図表 1-8 仕送り額と奨学金認知 のクロス表

			奨学金認知		合計
			知っている	知らない	
仕送り額	仕送りなし	度数	6	2	8
		%	75.0%	25.0%	100.0%
	5万円未満	度数	13	3	16
		%	81.3%	18.8%	100.0%
	5万円以上10万円未満	度数	35	14	49
		%	71.4%	28.6%	100.0%
	10万円以上	度数	35	15	50
		%	70.0%	30.0%	100.0%
合計		度数	89	34	123
		%	72.4%	27.6%	100.0%

n.s. 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 1-9 は「学生寮認知」と「奨学金認知」のクロス表である。昨年度と同様に、学生寮について認知している場合は、奨学金等制度についても認知している割合が高い結果であり、有意な関連が見られた。

図表 1-9 学生寮認知と奨学金認知 のクロス表

			奨学金認知		合計
			知っている	知らない	
学生寮認知	知っている	度数	183	51	234
		%	78.2%	21.8%	100.0%
	知らない	度数	65	69	134
		%	48.5%	51.5%	100.0%
合計		度数	248	120	368
		%	67.4%	32.6%	100.0%

*** 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

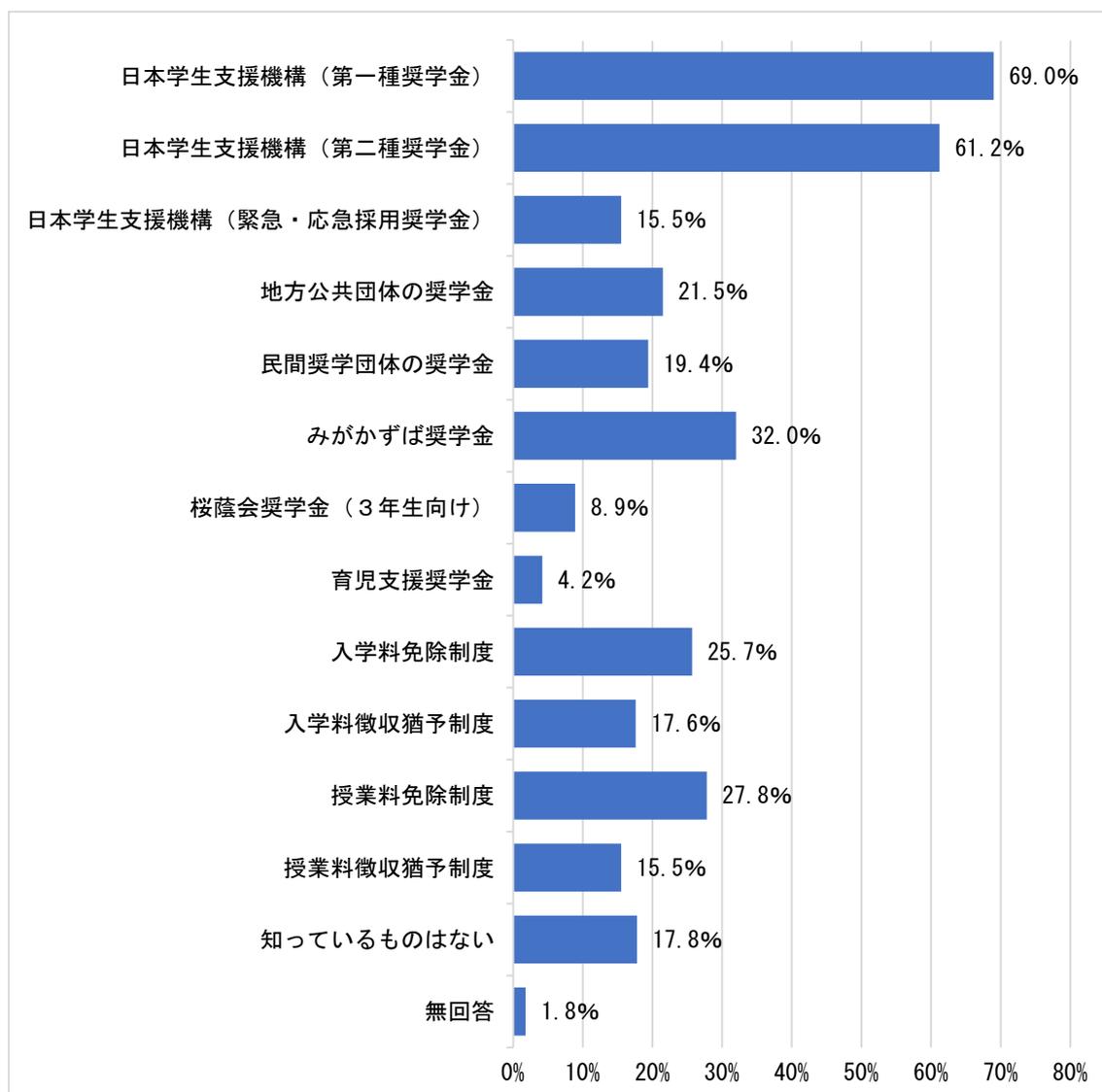
② 保護者の結果

<奨学金等制度の認知・受給経験・利用希望>

保護者の票の奨学金等制度の認知、利用希望について示したものが図表 2-1～2-2 である。

図表2-1は、保護者の奨学金・学費免除等の制度の認知について、本学独自の制度も含め複数回答可として尋ねた結果である。

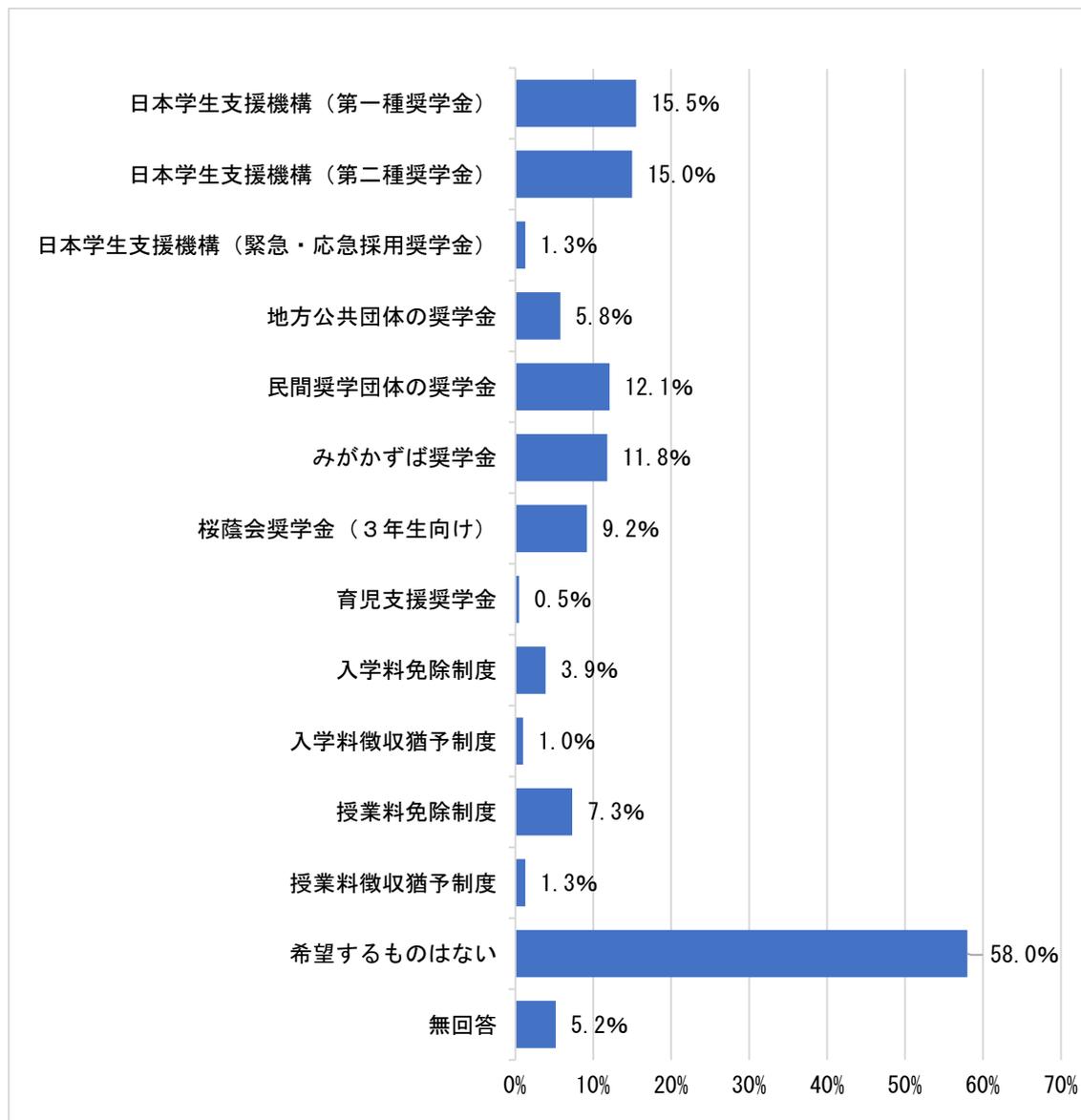
奨学金制度に関しては、最も認知率が高いのは日本学生支援機構第一種の69.0%であり、第二種が61.2%と続く。令和2年度の「新入生の生活に関する調査報告書」保護者回答と比較すると、「日本学生支援機構（緊急・応急採用奨学金）」、「地方公共団体の奨学金」、「入学料徴収猶予」、「授業料徴収猶予」の認知率も上がった。



図表 2-1 保護者の奨学金等制度の認知度

図表 2-2 では大学入学後の奨学金等制度利用希望について、複数回答可として尋ねた結果である。日本学生支援機構（第一種奨学金）はもっとも利用希望率が高かった。日本学生支援機構（第二種奨学金）はその次であった。「民間奨学団体の奨学金」と本学独自の奨学金である「みがかずば奨

学金」が第三位、第四位と続く。昨年度を除いた以前の「新入生の生活に関する調査報告書」では、日本学生支援機構（第一種奨学金）が最も高い利用希望率であり、本年と同じ結果となっている。また、「希望するものはない」と回答した割合が58.0%であり、昨年度10ポイントほど増えている。



図表 2-2 奨学金等制度の利用希望

<奨学金希望と属性などの項目とのクロス表>

次に、どのような保護者が奨学金等制度の利用を希望しているか明らかにするため、「奨学金の希望」と各項目とのクロス表を作成した。それぞれの結果を図表 2-3～2-11 に示す。

図表 2-3 は「家計支持者」と「奨学金希望」のクロス表である。家計支持者が母親の場合、昨年度と同様に統計的に奨学金を希望する割合が高いという傾向がみられた。

図表 2-3 家計支持者と奨学金希望 のクロス表

			奨学金希望		合計
			希望する	希望しない	
家計支持者	父***	度数	116	213	329
		%	35.3%	64.7%	100.0%
	母**	度数	28	17	45
		%	62.2%	37.8%	100.0%

注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 2-4 は、「父親の就労形態」と「奨学金の希望」のクロス表である。父親が「無職」や「いない」場合、奨学金を希望する割合が統計的に高い傾向がみられた。ただし、父親がいないものは 18 名、父親がいた場合もフルタイム勤務以外のパートタイム勤務、自営、無職は合計して 19 名と少なく、奨学金希望と父親の就労形態には、統計的に有意な関連が見られた。

図表 2-4 父親の就労形態と奨学金希望 のクロス表

			奨学金希望		合計
			希望する	希望しない	
父親の 就労形態	フルタイム勤務	度数	110	209	319
		%	34.5%	65.5%	100.0%
	パートタイム勤務	度数	1	2	3
		%	33.3%	66.7%	100.0%
	自営	度数	10	5	15
		%	66.7%	33.3%	100.0%
	無職	度数	1	0	1
		%	100.0%	0.0%	100.0%
	いない	度数	16	2	18
		%	88.9%	11.1%	100.0%
合計		度数	138	218	356
		%	38.8%	61.2%	100.0%

*** 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 2-5 は、「母親の就労形態」と「奨学金の希望」のクロス表である。昨年度と同じような傾向が見られ、有職母親の就労形態は「フルタイム」、「パートタイム」、「自営」それぞれであるが、奨学金の希望率には大きな差がなく、「無職」のほうが奨学金の希望率が低い。ただし、「母親の就労形態」と「奨学金希望」との間には有意な関連が見られなかった。

図表 2-5 母親の就労形態と奨学金希望 のクロス表

		奨学金希望		合計		
		希望する	希望しない			
母親の 就労形態	フルタイム勤務	度数	50	80	130	
		%	38.5%	61.5%	100.0%	
	パートタイム勤務	度数	55	70	125	
		%	44.0%	56.0%	100.0%	
	自営	度数	8	8	16	
		%	50.0%	50.0%	100.0%	
	無職	度数	27	57	84	
		%	32.1%	67.9%	100.0%	
	いない	度数	0	3	3	
		%	0.0%	100.0%	100.0%	
	合計		度数	140	218	358
			%	39.1%	60.9%	100.0%

n.s. 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表2-6は「入学後の暮らし向き」と「奨学金希望」のクロス表である。入学後の暮らし向きにゆとりがないと感じている場合には奨学金を希望する割合が高いことが示された。これは昨年度と同様の結果であった。

図表2-6 入学後の暮らし向きと奨学金希望 のクロス表

		保護者の奨学金希望		合計	
		希望する	希望しない		
入学後の暮らし 向き	ゆとりがない	度数	113	58	171
		%	66.1%	33.9%	100.0%
	ゆとりがある	度数	25	155	180
		%	13.9%	86.1%	100.0%
合計		度数	138	213	351
		%	39.3%	60.7%	100.0%

*** 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表2-7は「世帯年収」と「奨学金希望」のクロス表である。「1200万円以上」の選択肢を合算してクロス表を作成した。昨年度と同様に、世帯年収が800万円未満の場合には奨学金を希望する割

合が高く、世帯年収が1000万円以上の場合には奨学金を希望する割合が低下する。一昨年度は「800万円以上1000万円未満」から奨学金を希望する割合が低下する傾向であった。

図表 2-7 世帯年収と保護者の奨学金希望 のクロス表

			保護者の奨学金希望		合計	
			希望する	希望しない		
世帯年収	400万円未満	度数	21	2	23	
		%	91.3%	8.7%	100.0%	
	400万円以上600万円未満	度数	18	8	26	
		%	69.2%	30.8%	100.0%	
	600万円以上800万円未満	度数	28	27	55	
		%	50.9%	49.1%	100.0%	
	800万円以上1000万円未満	度数	34	44	78	
		%	43.6%	56.4%	100.0%	
	1000万円以上1200万円未満	度数	22	47	69	
		%	31.9%	68.1%	100.0%	
	1200万円以上	度数	16	87	103	
		%	15.5%	84.5%	100.0%	
	合計		度数	139	215	354
			%	39.3%	60.7%	100.0%

*** 注 *** $p < .000$, ** $p < .01$, * $p < .05$, n.s. (not significant)

図表2-8は「家計支持者年収」と「奨学金希望」のクロス表である。「1200万円以上」の選択肢は合算してクロス表を作成した。家計支持者の年収が800万円未満の場合には奨学金を希望する割合が高く、家計支持者の年収が800万円以上の場合には奨学金を希望する割合が低下する傾向が見られた。これは、昨年度と同様の結果である。

図表 2-8 家計支持者年収と奨学金希望 のクロス表

		奨学金希望		合計		
		希望する	希望しない			
家計支持者年収	400万円未満	度数	31	4	35	
		%	88.6%	11.4%	100.0%	
	400万円以上600万円未満	度数	25	18	43	
		%	58.1%	41.9%	100.0%	
	600万円以上800万円未満	度数	40	36	76	
		%	52.6%	47.4%	100.0%	
	800万円以上1000万円未満	度数	21	60	81	
		%	25.9%	74.1%	100.0%	
	1000万円以上1200万円未満	度数	16	49	65	
		%	24.6%	75.4%	100.0%	
	1200万円以上	度数	6	49	55	
		%	10.9%	89.1%	100.0%	
	合計		度数	139	216	355
			%	39.2%	60.8%	100.0%

*** 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表2-9は「奨学金受給経験」と「奨学金希望」のクロス表である。これまでに奨学金受給経験がある場合には奨学金を希望する割合が高いことが示された。これは昨年度と同様の結果であった。

図表 2-9 奨学金受給経験と奨学金希望 のクロス表

		保護者の奨学金希望		合計	
		希望する	希望しない		
奨学金受給経験	経験なし	度数	111	208	319
		%	34.8%	65.2%	100.0%
	経験あり	度数	27	11	38
		%	71.1%	28.9%	100.0%
合計		度数	138	219	357
		%	38.7%	61.3%	100.0%

*** 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 2-10 は「学生寮認知」と「奨学金希望」のクロス表である。学生寮を知っている場合、奨学金を希望する割合が高いことが示された。これは昨年度と同様の結果であった。

図表 2-10 学生寮認知と奨学金希望 のクロス表

			保護者の奨学金希望		合計
			希望する	希望しない	
保護者の学生寮の認知	知っている	度数	97	100	197
		%	49.2%	50.8%	100.0%
	知らない	度数	41	121	162
		%	25.3%	74.7%	100.0%
合計		度数	138	221	359
		%	38.4%	61.6%	100.0%

*** 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表2-11は「学生寮希望」と「奨学金希望」のクロス表である。学生寮を希望している場合、奨学金を希望する割合が高いことが示された。これは昨年度と同様の傾向であった。

図表 2-11 学生寮希望と奨学金希望 のクロス表

			保護者の奨学金希望		合計
			希望する	希望しない	
学生寮希望	希望する	度数	58	21	79
		%	73.4%	26.6%	100.0%
	希望しない	度数	81	196	277
		%	29.2%	70.8%	100.0%
合計		度数	139	217	356
		%	39.0%	61.0%	100.0%

*** 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

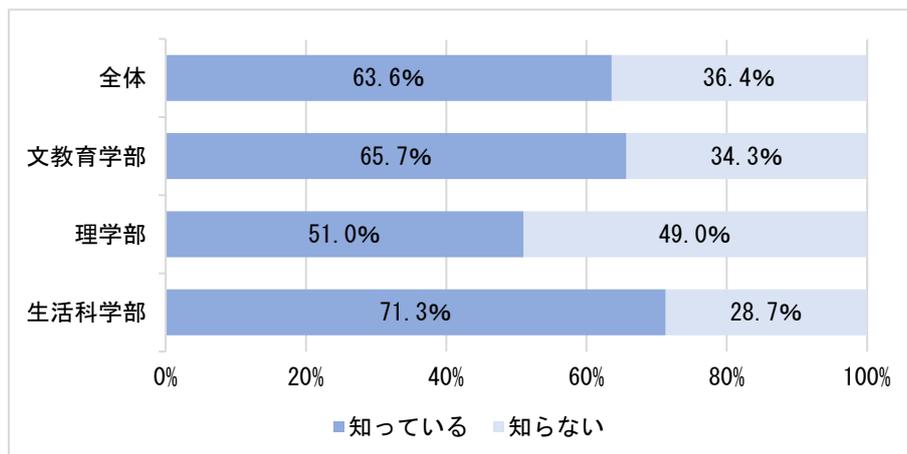
(3) 学生寮に関する結果

① 新入生の結果

<学生寮の認知>

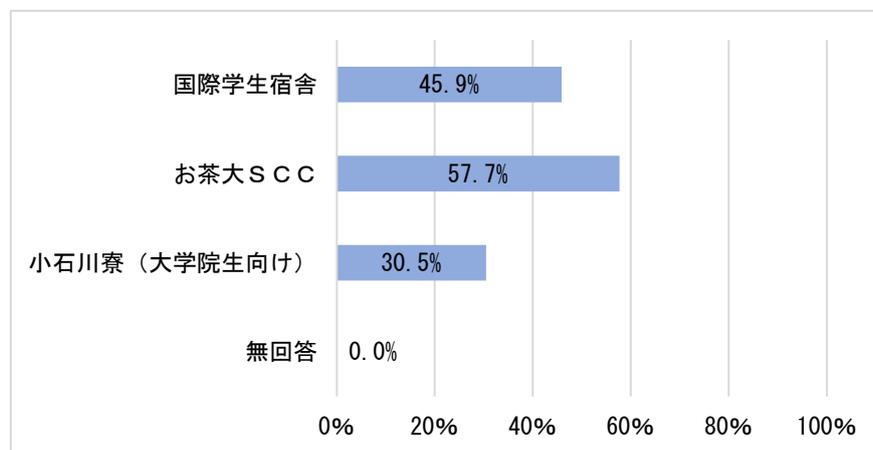
図表3-1は本学の学生寮の認知について、複数回答可として尋ね、学部別に集計した結果である。1つでも認知している学生寮があれば「知っている」とした。全体では63.6%の新入生が学生寮について認知している。

学部別にみると、理学部が他学部比べて低い結果となっており、これは昨年度、一昨年度の調査でも同様の結果であった。



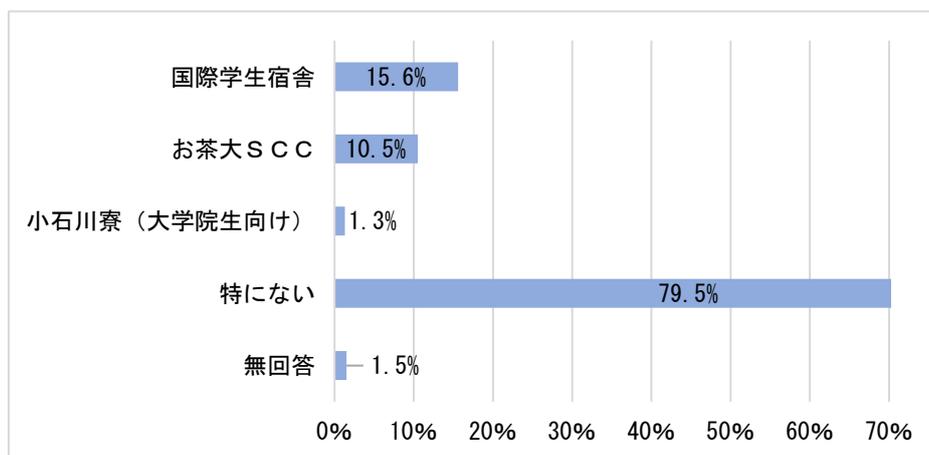
図表 3-1 本学の学生寮に対する認知（学部別）

図表 3-2 では本学の学生寮に対する認知を複数回答可として尋ね、寮の種類別に集計した結果である。本学には自治寮である国際学生宿舎（学部生対象）、小石川寮（大学院生対象）、教育寮であるお茶大 SCC（学部 1・2 年生対象）の 3 つの学生寮がある。認知率は、お茶大 SCC が 57.7%と最も高く、次いで国際学生宿舎 45.9%、小石川寮 30.5%であった。



図表 3-2 本学の学生寮に対する認知（寮別）

入寮を希望する学生寮を複数回答可として尋ねた結果が図表 3-3 である。希望する学生寮を「特にない」と回答した新生入生が最も多く 79.5%であった。国際学生宿舎を希望する学生は 15.6%で、お茶大 SCC を希望する学生は 10.5%、小石川寮は 1.3%であった。



図表 3-3 本学の学生寮への入寮希望（寮別）

<学生寮の認知と属性などの項目とのクロス表>

次に、どのような新生が本学の学生寮について認知しているか明らかにするため、「学生寮の認知」と各項目とのクロス表を作成した。それぞれ結果を図表 3-4～3-8 に示す。「学生寮の認知」は、本学の学生寮のうち、1つでも知っているものがあれば「知っている」とした。

図表3-4では「きょうだい数」と「学生寮認知」のクロス表である。きょうだい数と学生寮認知の間には有意な関連はみられなかった。これは昨年度と同様の結果であった。

図表 3-4 きょうだい数と学生寮認知 のクロス表

			学生寮認知		合計
			知っている	知らない	
きょうだい数	1人っ子	度数	52	28	80
		%	65.0%	35.0%	100.0%
	2人きょうだい	度数	140	90	230
		%	60.9%	39.1%	100.0%
	3人以上	度数	55	24	79
		%	69.6%	30.4%	100.0%
合計		度数	247	142	389
		%	63.5%	36.5%	100.0%

n.s. 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表3-5は「出身高校設置者」と「学生寮認知」のクロス表である。「出身高校設置者」と「学生寮認知」との間には有意な関連は見られなかった。

図表 3-5 出身高校設置者と学生寮認知 のクロス表

			学生寮認知		合計
			知っている	知らない	
出身高校設置者	公立	度数	149	85	234
		%	63.7%	36.3%	100.0%
	私立	度数	84	52	136
		%	61.8%	38.2%	100.0%
	国立	度数	12	4	16
		%	75.0%	25.0%	100.0%
	海外	度数	3	0	3
		%	100.0%	0.0%	100.0%
合計		度数	248	141	389
		%	63.8%	36.2%	100.0%

n.s. 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表3-6は「奨学金受給経験」と「学生寮の認知」のクロス表である。「奨学金受給経験」と「学生寮認知」の間には有意な関連はみられなかった。

図表 3-6 奨学金受給経験と学生寮認知 のクロス表

			学生寮認知		合計
			知っている	知らない	
奨学金受給経験	経験なし	度数	218	133	351
		%	62.1%	37.9%	100.0%
	経験あり	度数	30	9	39
		%	76.9%	23.1%	100.0%
合計		度数	248	142	390
		%	63.6%	36.4%	100.0%

n.s. 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表3-7では「入学後の予定住居」と「学生寮認知」のクロス表である。入学後の住居が実家以外（賃貸マンション・アパート、寮など）の場合には、学生寮について認知している割合が高いことが明らかになった。

図表 3-7 居住予定の住居と学生寮認知 のクロス表

			学生寮認知		合計
			知っている	知らない	
入学後の居住予定	実家以外	度数	119	21	140
		%	85.0%	15.0%	100.0%
	実家	度数	129	121	250
		%	51.6%	48.4%	100.0%
合計		度数	248	142	390
		%	63.6%	36.4%	100.0%

*** 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 3-8 は「仕送り額」と「学生寮の認知」のクロス表である。図表 3-8 での「仕送り額」は、入学後の予定住居を「実家以外（賃貸マンション・アパート、寮など）」と回答した新入生の仕送り額を示している。「仕送り額」と「学生寮の認知」の間には有意な関連は見られなかった。

図表 3-8 仕送り額と学生寮認知 のクロス表

			学生寮認知		合計
			知っている	知らない	
仕送り額	仕送りなし	度数	9	0	9
		%	100.0%	0.0%	100.0%
	5万円未満	度数	16	1	17
		%	94.1%	5.9%	100.0%
	5万円以上10万円未満	度数	43	9	52
		%	82.7%	17.3%	100.0%
	10万円以上	度数	44	10	54
		%	81.5%	18.5%	100.0%
合計		度数	112	20	132
		%	84.8%	15.2%	100.0%

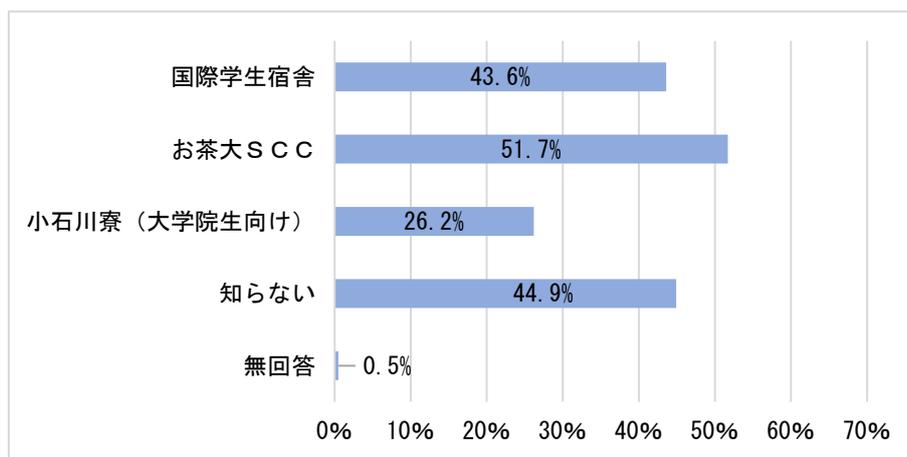
n.s. 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

② 保護者の結果

<学生寮の認知と利用希望>

図表 4-1 では、新入生の保護者に本学の学生寮に対する認知を複数回答可として尋ねた結果である。

認知率が最も高かったのは、お茶大 SCC で 51.7%と最も高く、次いで国際学生宿舎が 43.6%、小石川寮は 26.2%であった。「知らない」と回答した割合は 44.9%であった。

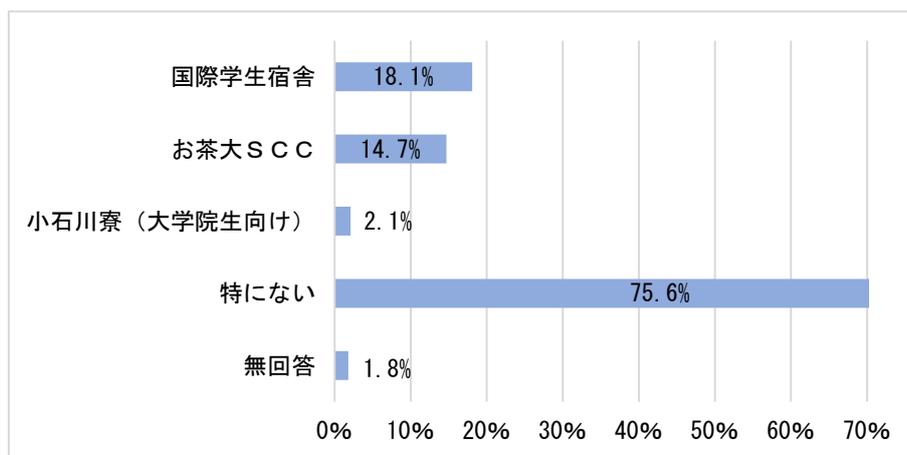


図表 4-1 保護者の学生寮認知

図表 4-2 は、本学の学生寮への入寮希望について複数回答可として尋ねた結果である。

国際学生宿舎への入寮希望が 18.1%、次いでお茶大 SCC が 14.7%、小石川寮が 2.1%であり、入

寮希望について「特にない」が75.6%であった。



図表 4-2 本学の学生寮への入寮希望

<学生寮入寮希望と属性などの項目とのクロス表>

次に、どのような保護者が学生寮への入寮を希望しているか明らかにするために「入寮希望」とのクロス表を作成した。それぞれ結果を図表 4-3～4-10 に示す。

図表 4-3 では「家計支持者」と「入寮希望」のクロス表である。家計支持者が父親よりも母親である場合は学生寮を希望する割合が高い傾向であった。

図表 4-3 家計支持者と入寮希望 のクロス表

			入寮希望		合計
			希望する	希望しない	
家計支持者	父親n.s.	度数	76	266	342
		%	22.2%	77.8%	100.0%
	母親n.s.	度数	14	32	46
		%	30.4%	69.6%	100.0%

注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 4-4 では「父親の就労形態」と「入寮希望」のクロス表である。父親の就労形態が「フルタイム勤務」よりも、「パートタイム勤務」、「自営」などの場合には学生寮を希望する割合がやや高い傾向が見られた。ただし、「父親の就労形態」と「入寮希望」には有意な関連は見られなかった。

図表 4-4 父親の就労形態と入寮希望 のクロス表

			保護者の入寮希望		合計
			希望する	希望しない	
父親の就労形態	フルタイム勤務	度数	70	262	332
		%	21.1%	78.9%	100.0%
	パートタイム勤務	度数	1	2	3
		%	33.3%	66.7%	100.0%
	自営業	度数	6	9	15
		%	40.0%	60.0%	100.0%
	無職	度数	0	1	1
		%	0.0%	100.0%	100.0%
	いない	度数	7	11	18
		%	38.9%	61.1%	100.0%
合計		度数	84	285	369
		%	22.8%	77.2%	100.0%

n.s. 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表4-5は「母親の就労形態」と「入寮希望」のクロス表である。母親の就労形態は「フルタイム勤務」、「パートタイム勤務」、「自営業」などそれぞれであるが、学生寮を希望する割合には大きな差がみられ。ただし「母親の就労形態」と「入寮希望」との間には有意な関連は見られなかった。

図表 4-5 母親の就労形態と入寮希望 のクロス表

			保護者の入寮希望		合計
			希望する	希望しない	
母親の就労形態	フルタイム勤務	度数	28	106	134
		%	20.9%	79.1%	100.0%
	パートタイム勤務	度数	31	99	130
		%	23.8%	76.2%	100.0%
	自営業	度数	4	12	16
		%	25.0%	75.0%	100.0%
	無職	度数	22	66	88
		%	25.0%	75.0%	100.0%
	いない	度数	1	2	3
		%	33.3%	66.7%	100.0%
合計		度数	86	285	371
		%	23.2%	76.8%	100.0%

n.s. 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 4-6 は「入学後の暮らし向き」と「入寮希望」のクロス表である。入学後の暮らし向きについて「ゆとりがない」と回答している場合、学生寮を希望する割合が高いことが明らかになった。これは昨年度と同様の結果であった。

図表 4-6 入学後の暮らし向きと入寮希望 のクロス表

			保護者の入寮希望		合計
			希望する	希望しない	
入学後の暮らし向き	ゆとりがない	度数	65	114	179
		%	36.3%	63.7%	100.0%
	ゆとりがある	度数	19	166	185
		%	10.3%	89.7%	100.0%
合計		度数	84	280	364
		%	23.1%	76.9%	100.0%

*** 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 4-7 は「世帯年収」と「入寮希望」のクロス表である。質問票では、世帯年収に対して、400万円未満から 1800万円以上までを回答項目としていたが、「1200万円以上」の回答数が少ないため「1200万円以上 1400万円未満」「1400万円以上 1600万円未満」「1600万円以上 1800万円未満」「1800万円以上」は合算してクロス表を作成した。もっとも入寮希望率が高かったのは「400万円未満」の世帯年収のものであり 43.5%であり、ついで「400万円以上 600万円未満」の 32.0%であった。世帯年収が上がると、入寮希望の割合が低くなる傾向がみられた。

図表 4-7 世帯年収と入寮希望 のクロス表

			保護者の入寮希望		合計	
			希望する	希望しない		
世帯年収	400万円未満	度数	10	13	23	
		%	43.5%	56.5%	100.0%	
	400万円以上600万円未満	度数	8	17	25	
		%	32.0%	68.0%	100.0%	
	600万円以上800万円未満	度数	16	43	59	
		%	27.1%	72.9%	100.0%	
	800万円以上1000万円未満	度数	22	60	82	
		%	26.8%	73.2%	100.0%	
	1000万円以上1200万円未満	度数	18	55	73	
		%	24.7%	75.3%	100.0%	
	1200万円以上	度数	11	95	106	
		%	10.4%	89.6%	100.0%	
	合計		度数	85	283	368
			%	23.1%	76.9%	100.0%

** 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 4-8 は「家計支持者の年収」と「入寮希望」のクロス表である。質問票では、家計支持者の年収に対して、400 万円未満から 1800 万円以上までを回答項目としていたが、「1200 万円以上」の回答数が少ないため「1200 万円以上 1400 万円未満」「1400 万円以上 1600 万円未満」「1600 万円以上 1800 万円未満」「1800 万円以上」は合算してクロス表を作成した。家計支持者の年収が高くなるほど、学生寮を希望する割合が低くなる傾向であり、有意な関連がみられた。これは昨年度と同じ結果であった。

図表 4-8 家計支持者年収と入寮希望 のクロス表

		保護者の入寮希望		合計	
		希望する	希望しない		
家計支持者年収	400万円未満	度数	17	18	35
		%	48.6%	51.4%	100.0%
	400万円以上600万円未満	度数	12	31	43
		%	27.9%	72.1%	100.0%
	600万円以上800万円未満	度数	19	63	82
		%	23.2%	76.8%	100.0%
	800万円以上1000万円未満	度数	15	68	83
		%	18.1%	81.9%	100.0%
	1000万円以上1200万円未満	度数	15	56	71
		%	21.1%	78.9%	100.0%
	1200万円以上	度数	6	49	55
		%	10.9%	89.1%	100.0%
合計		度数	84	285	369
		%	22.8%	77.2%	100.0%

** 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表4-9は「奨学金受給経験」と「入寮の希望」のクロス表である。今年度の調査では昨年度同様に、奨学金の受給経験がある場合、学生寮を希望する割合が高い結果を示した。

図表 4-9 奨学金受給経験と入寮希望 のクロス表

		保護者の入寮希望		合計	
		希望する	希望しない		
学生の奨学金受給経験	経験なし	度数	71	260	331
		%	21.5%	78.5%	100.0%
	経験あり	度数	14	25	39
		%	35.9%	64.1%	100.0%
合計		度数	85	285	370
		%	23.0%	77.0%	100.0%

* 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 4-10 は「学生寮認知」と「入寮希望」のクロス表である。学生寮について認知している場合には、学生寮を希望する割合が高く有意な関連がみられた。

図表 4-10 学生寮認知と入寮希望 のクロス表

			保護者の入寮希望		合計
			希望する	希望しない	
保護者の学生寮の認知	知っている	度数	80	122	202
		%	39.6%	60.4%	100.0%
	知らない	度数	6	164	170
		%	3.5%	96.5%	100.0%
合計		度数	86	286	372
		%	23.1%	76.9%	100.0%

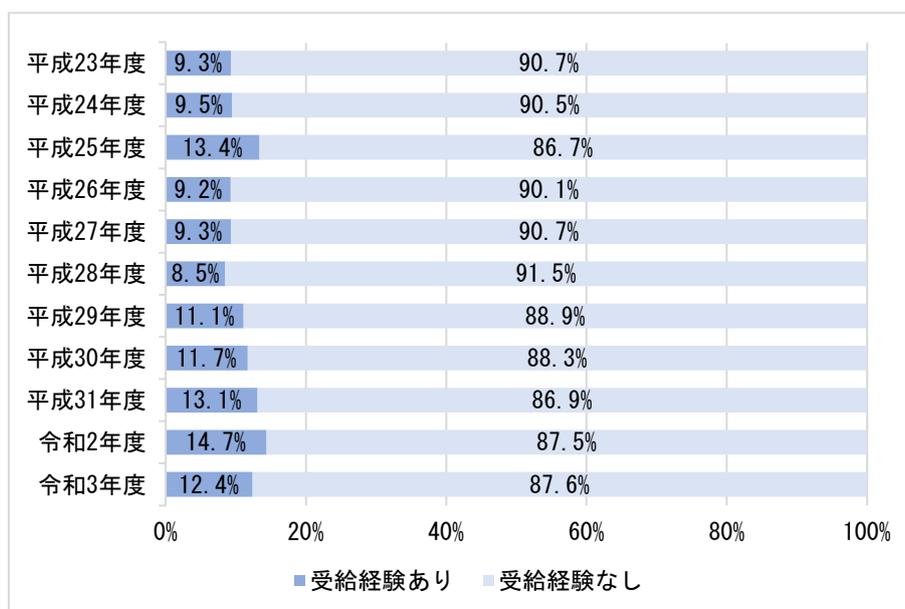
*** 注 *** $p < .000$, ** $p < .01$, * $p < .05$, n.s. (not significant)

(4) 奨学金と学生寮について、過年度との比較

① 新入生

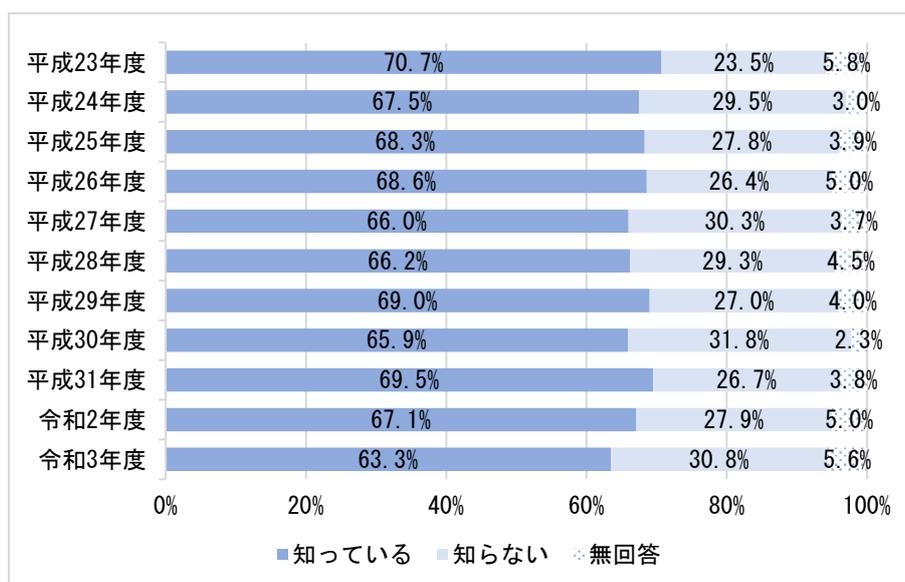
新入生の奨学金等制度受給経験、奨学金等制度の認知、学生寮の認知について過去 10 年間の結果と今年度の結果とを比較したものを図表 5-1～5-3 に示す。

図表 5-1 は新入生のこれまでの奨学金等制度の受給経験について過去 10 年間の結果と比較したものである。今年度は、奨学金受給経験が「ある」と回答した割合が 12.4%であり、昨年度より低くなったが、過去 10 年の結果の中で 4 番目に高い割合である。



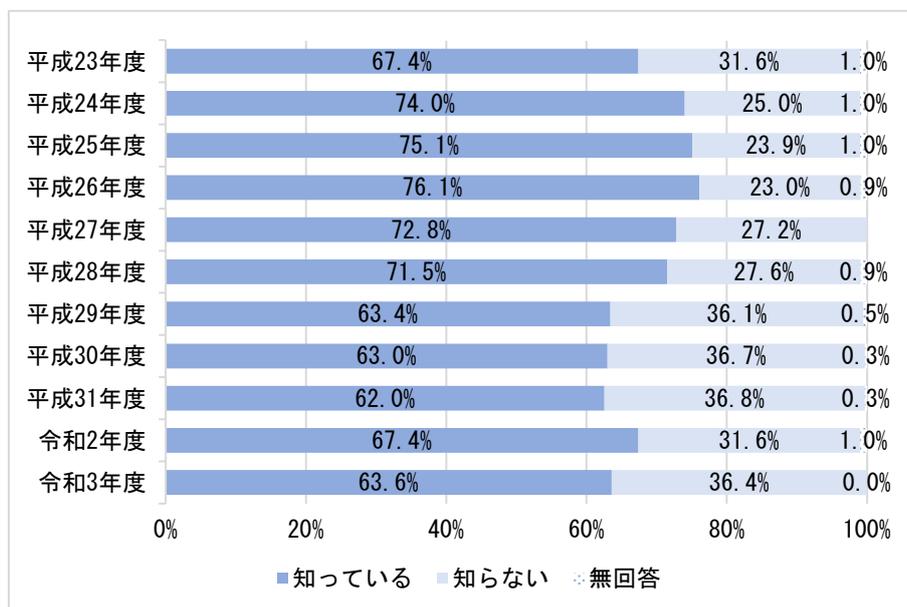
図表 5-1 新入生の奨学金等制度受給経験 過年度比較

図表 5-2 は新入生の奨学金等制度の認知について過去 10 年間の結果と比較したものである。今年度の調査において、奨学金等制度について認知している割合は、「知っている」が 63.3%であり、過去 10 年間の結果において、最も低い割合を示している。



図表 5-2 新入生の奨学金等制度の認知 過年度比較

図表 5-3 は新入生の学生寮の認知について、過去 10 年間の結果と比較したものである。新入生の学生寮認知率について、昨年度では「知っている」の割合が上昇したが、令和 3 年度は 63.6%と昨年度より低い割合となった。

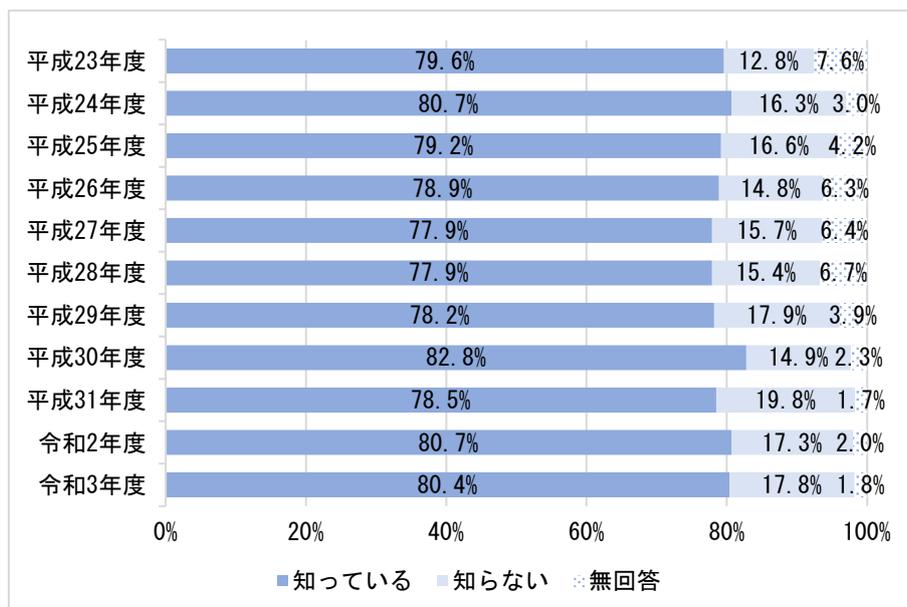


図表 5-3 新入生の学生寮の認知 過年度比較

② 保護者

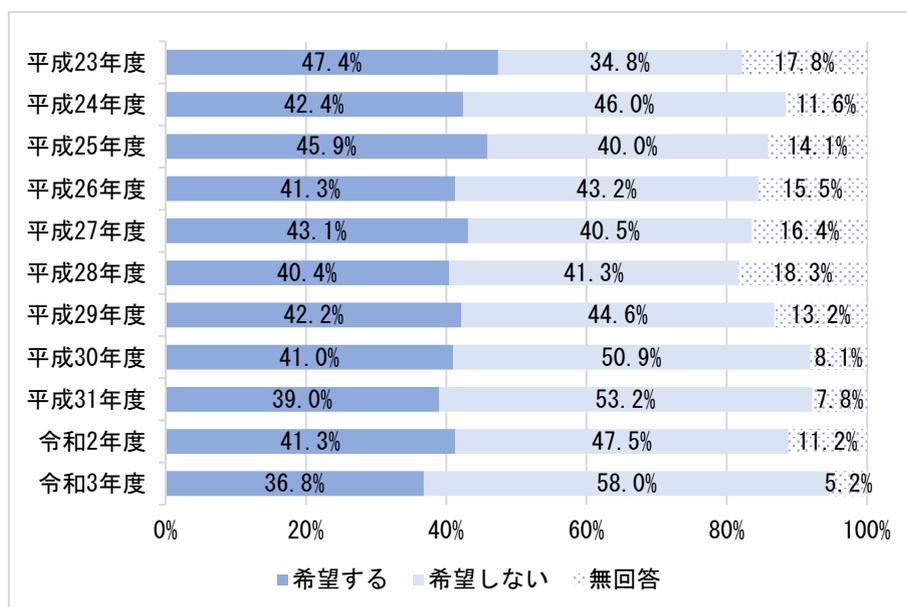
保護者の奨学金等制度の認知・希望、学生寮の認知・希望について過去 10 年間の結果と比較したものを図表 6-1～6-4 に示す。

図表 6-1 は保護者の奨学金等制度の認知について過去 10 年間の結果と比較したものである。今年度の調査においては、「知っている」が 80.4%であり、「知らない」が 17.8%であった。



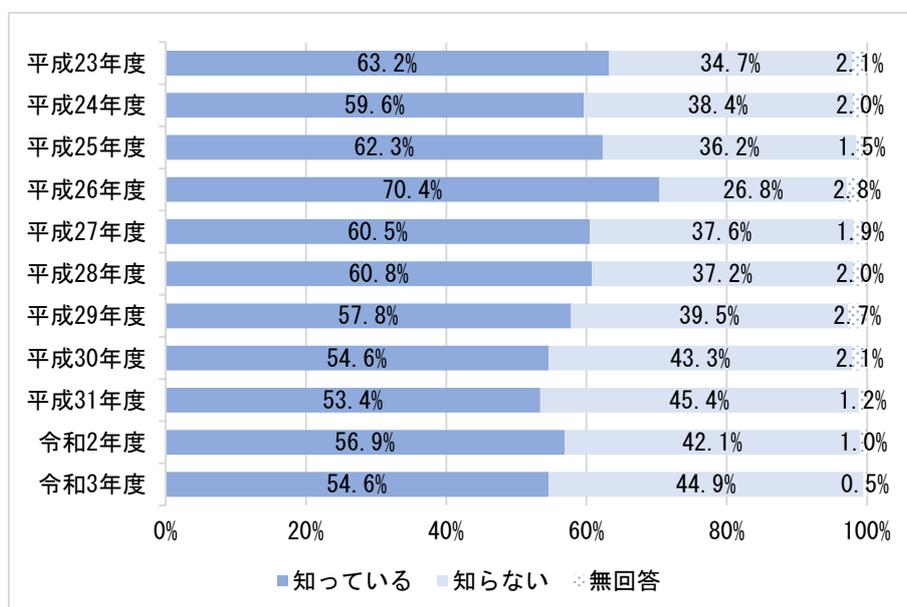
図表 6-1 保護者の奨学金等制度の認知 過年度比較

図表 6-2 は保護者の奨学金等制度の利用希望について過去 10 年間の結果と比較したものである。今年度は、「奨学金を希望しない」と回答した割合が 58.0%であり、過去の調査と比べて最も高い結果となった。奨学金の希望率も過去の調査の中で最も低い比率を示している。



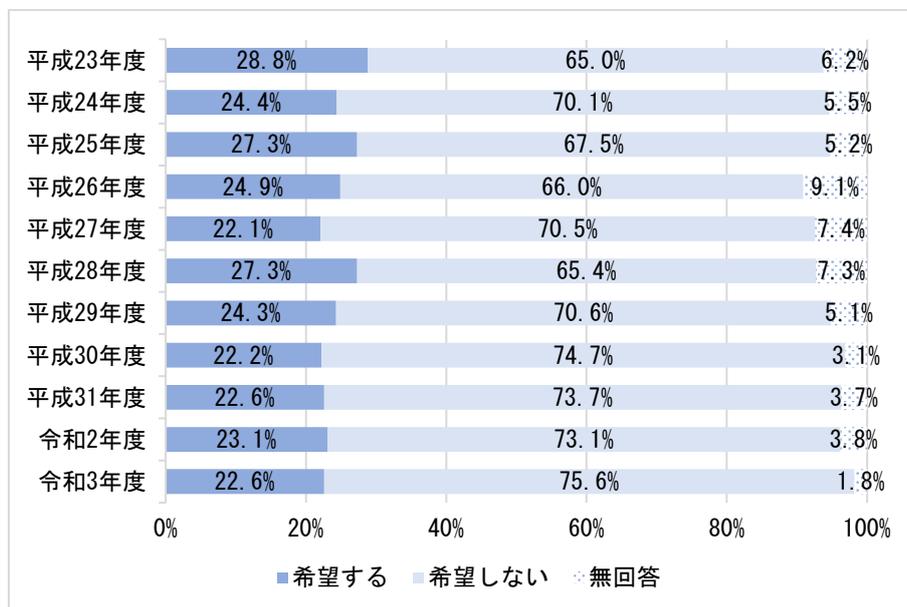
図表 6-2 保護者の奨学金等制度利用希望 過年度比較

図表 6-3 は保護者の学生寮の認知について過去 10 年間の結果と比較したものである。今年度の認知率は 54.6%となり、昨年度より約 2.3 ポイント減少した。



図表 6-3 保護者の学生寮の認知 過年度比較

図表 6-4 は保護者の学生寮希望について過去 10 年間の結果と比較したものである。今年度は、学生寮への入寮を「希望する」と回答した割合は 22.6%、「希望しない」と回答した割合は 75.6%である。



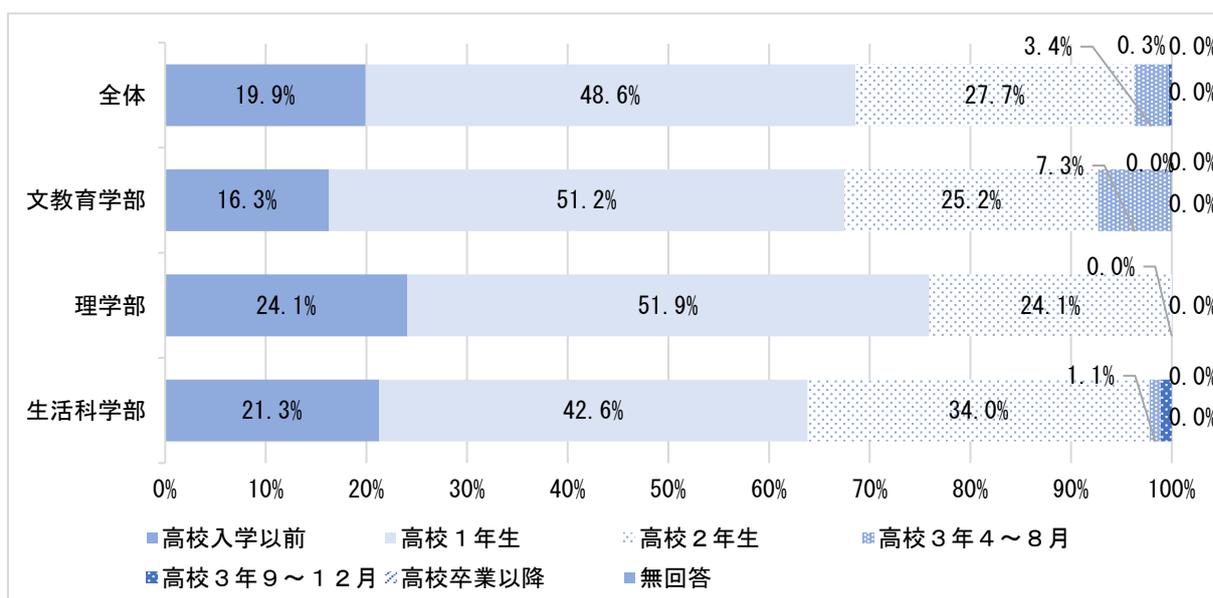
図表 6-4 保護者の学生寮利用希望 過年度比較

第4章 高校時代進路選択の結果

本章では、一般入試合格者 296 名にこれまでの進路選択にかかわる質問や、高校時代の進路指導、お茶の水女子大学を選んだ理由等について尋ねた結果を報告する。

図表 1-1 は、高校時代にコース（文系・理系）を決めた時期について、尋ねたものである。全体では「高校1年生」に文理のコース選択をしたと回答した割合が 48.6%と最も多い割合を示しており、次いで「高校2年生」が 27.7%、「高校入学以前」が 19.9%と続く。全体の 90%以上が、高校3年生になる前に文理の選択が終了している。

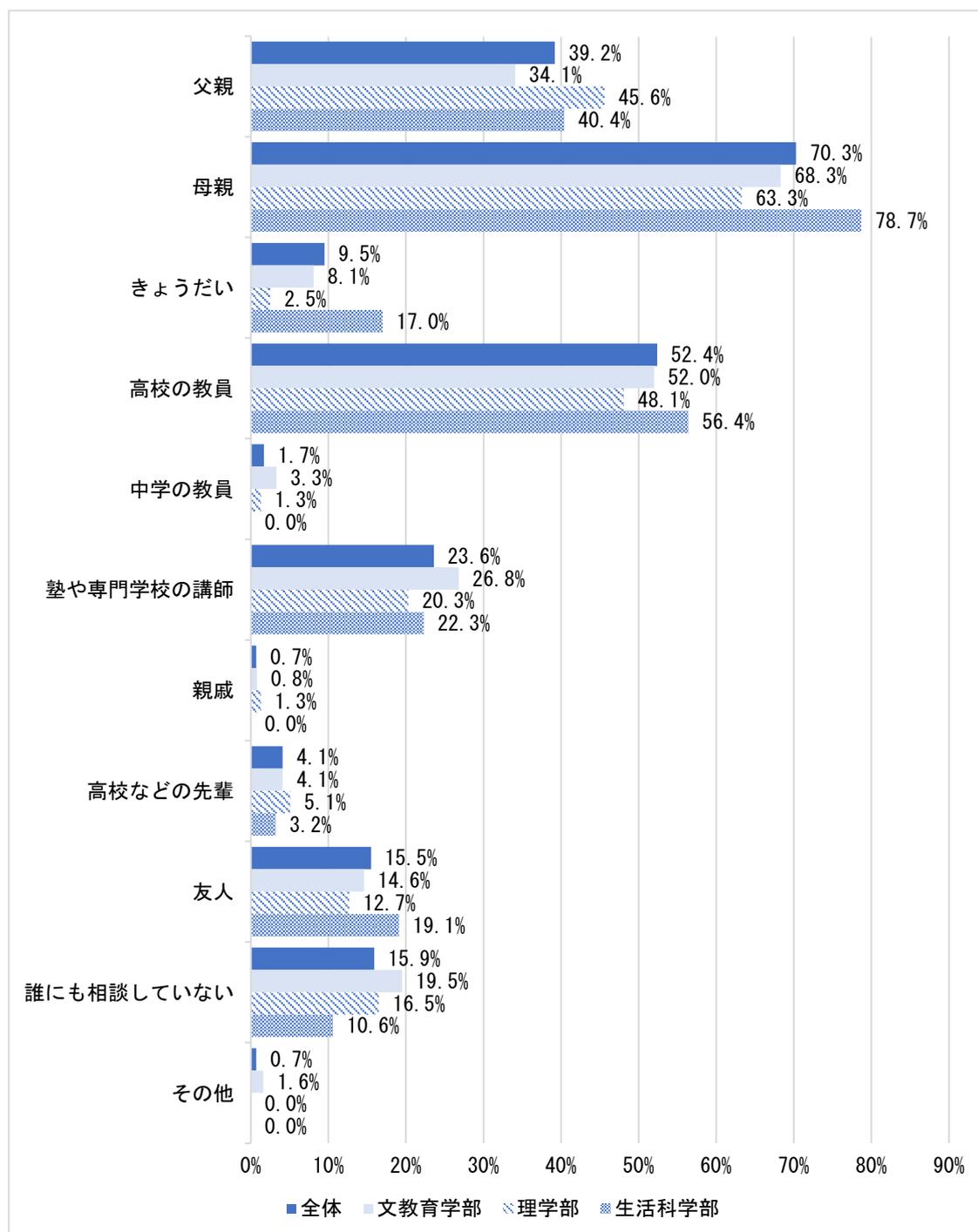
学部別に見ると、高校入学前に進路選択が行われている割合が最も高いのは、理学部で 24.1%、次に生活科学部 21.3%であった。昨年度の調査においても、高校入学前に進路選択が行われている割合が最も高い学部は理学部であった。



図表 1-1 文理選択の時期

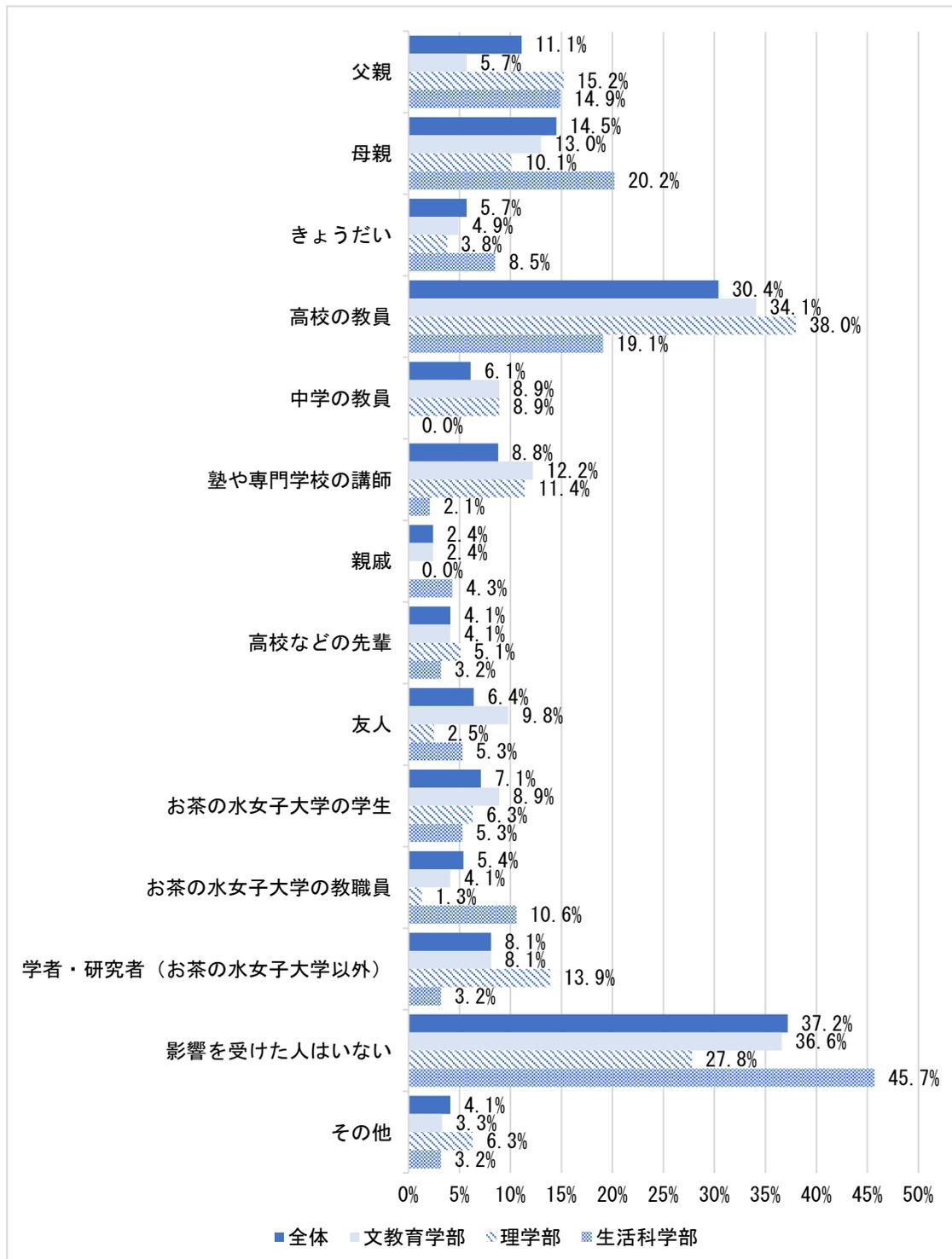
図表 1-2 では、専門（学科）を選ぶ際に、相談した人について、複数回答可として尋ねた結果である。全体で最も多い割合を示しているのは、「母親」の 70.3%であり、次に「高校の教員」52.4%、「父親」39.2%であった。「誰にも相談していない」と回答した割合も 15.9%と一定数あることが示された。

学部別に見ても、どの学部においても、相談した人の最も高い割合を示したのは「母親」であり、次いで「高校の教員」、「父親」という結果であった。



図表 1-2 専門（学科）を選ぶ際に相談した人

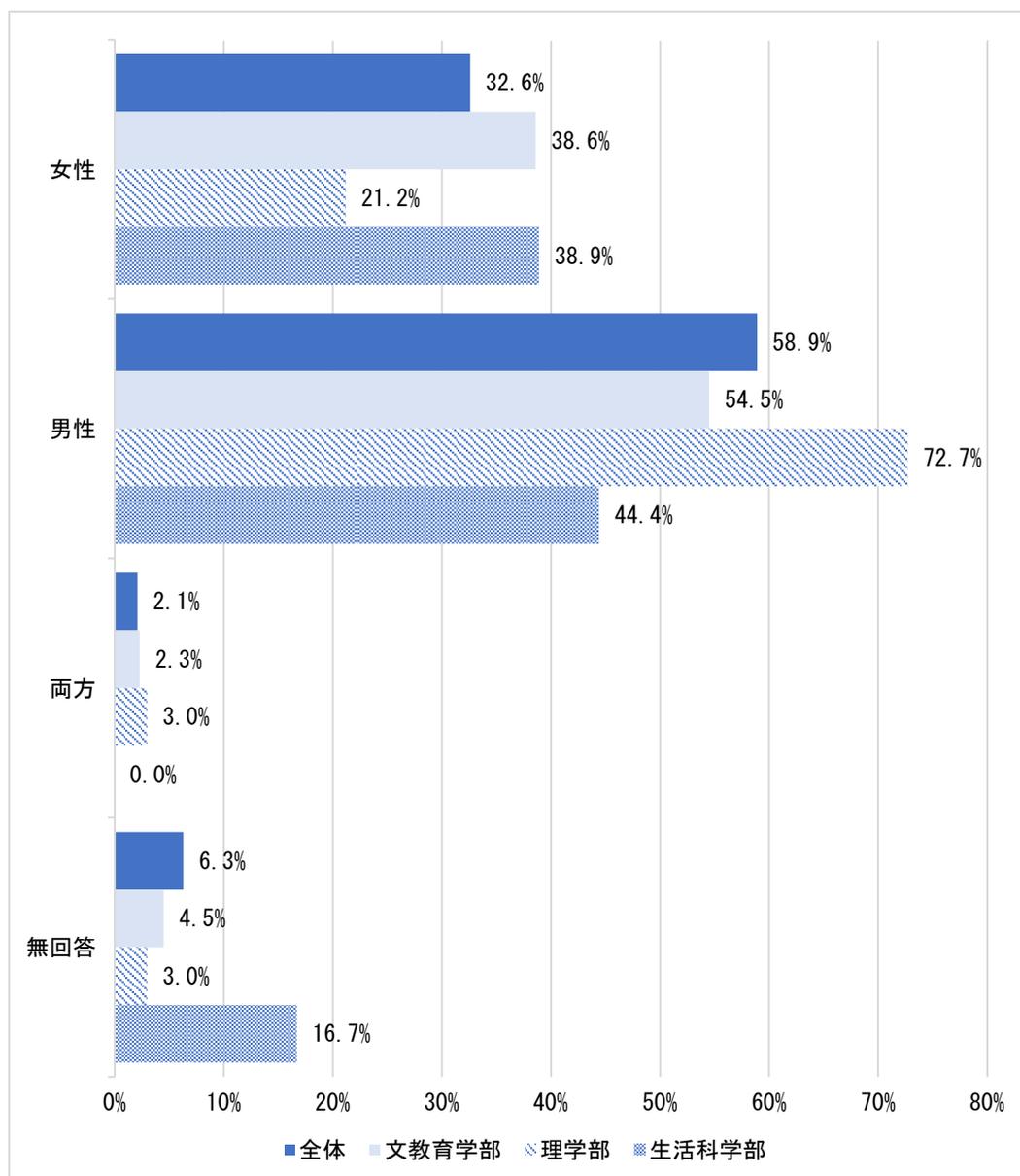
図表 1-3 では、専門（学科）を選ぶに当たって影響を受けた人について、複数回答可として尋ねた結果である。最も多いものは「影響を受けた人はいない」で37.2%であった。影響を受けた人がいると回答した中では全体では「高校の教員」が最も多く30.4%、次に「母親」が14.5%、「父親」が11.1%であった。学部別にみると、文教育学部及び理学部では、最も影響を受けたのは「高校の教員」であり、生活科学部の場合は「母親」である。



図表 1-3 専門（学科）を選ぶ際に影響を受けた人

図表 1-4～1-7 では、専門（学科）を選ぶにあたって、「中学の教員」もしくは「高校の教員」から影響を受けたと回答した新入生 95 名に、その教員について尋ねた結果である。図表 1-4 では影響を受けた教員の性別、図表 1-5 では教員の専門科目、図表 1-6、1-7 では教員の卒業大学について尋ねた結果を示している。

図表 1-4 からは、昨年度と同様に、どの学部においても女性教員より男性教員から影響を受けたと回答する割合が高い。特に理学部の場合は、72.7%と高い割合を示している。



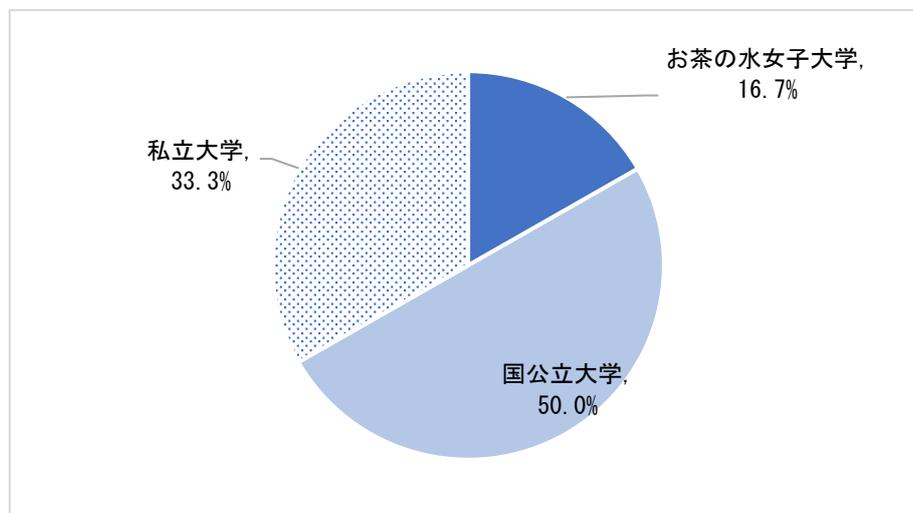
図表 1-4 影響を受けた教員（中学/高校）の性別

図表 1-5 では、影響を受けた教員の専門科目が、自身の入学学科と深くかかわりを持つものである場合が多いことが示された。これは、昨年度の新入生調査でも同じ結果であった。

図表 1-5 影響を受けた教員（中学/高校）の専門

入学学部	入学学科	影響を受けた先生の専門
文教育学部	人文科学科	古典文学・反自然主義文学(2)、考古学(1)、世界史(2)、生物学(1)、地理学(2)、日本史(1)、社会学(1)、倫理/政経・公民(2)
	言語文化学科	国語(6)、英語(5)、日本文学(1)、世界史(1)、日本史(1)、公民(1)、現代社会(1)
	人間社会科学科	現代文学(1)、国語(1)、社会学(3)、世界史(1)、体育(1)、数学(1)、歴史学(1)
	芸術・表現行動学科	音楽(2)
理学部	数学科	数学(5)、幾何学(1)
	物理学科	数学(1)、物理(3)、生物(1)
	化学科	化学(5)、有機化学(1)
	生物学科	生物(4)、数学(1)、英語(1)、現代文学(1)
	情報科学科	生物(1)、数学・情報(1)、情報(1)、物理(1)、数学(1)
生活科学部	食物栄養学科	国語(1)、数学(1)
	人間・環境科学科	歴史・公民(1)、生物(1)、国語(1)、地理学(1)
	人間生活学科	家庭科(2)、数学(2)、国語(1)、進路相談(1)
	心理学科	世界史(1)、美術(1)

図表 1-6 では、影響を受けた教員の卒業大学について回答のあった 42 名の結果を、お茶の水女子大学、その他の国立大学、私立大学の割合を示したものである。また、図表 1-7 ではその卒業大学名を一覧で示している。影響を受けた教員の卒業大学について回答があったうち、16.7%がお茶の水女子大学を卒業した教員であることが示された。これは昨年の 10.2%と比べて 6.5 ポイント高い結果であった。

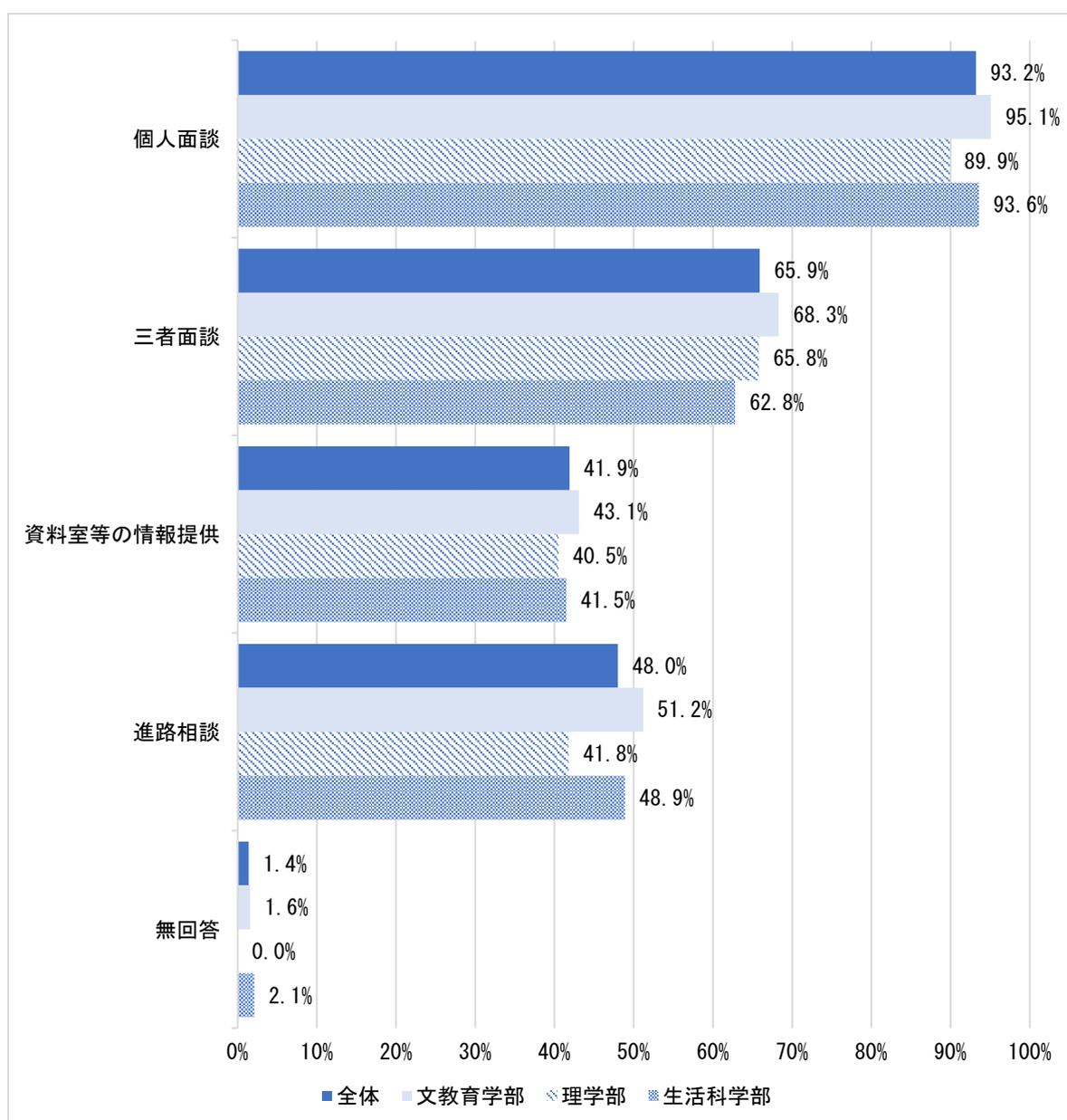


図表 1-6 影響を受けた教員（中学/高校）の卒業大学

図表 1-7 影響を受けた教員（中学/高校）の卒業大学名一覧

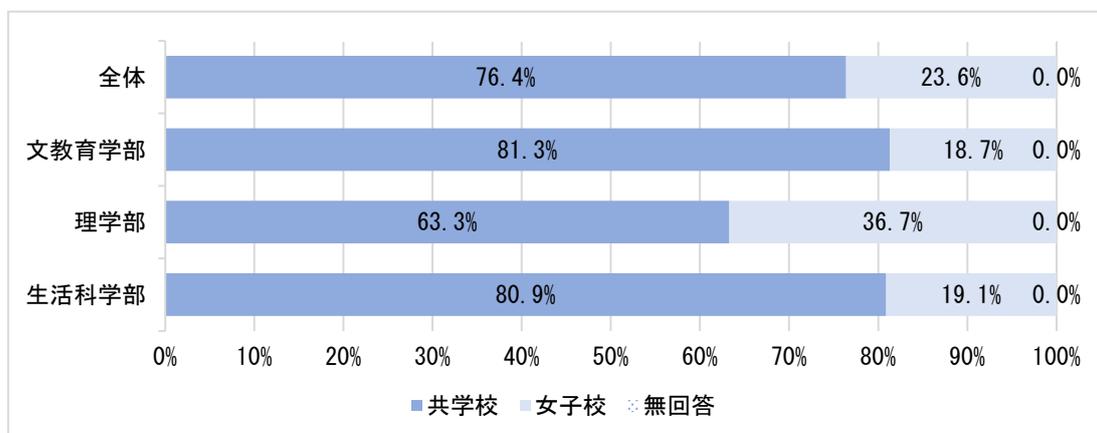
国立大学	お茶の水女子大学（7）、東京大学（3）、埼玉大学（3）、東北大学（2）、東京学芸大学（2）、京都大学（2）、筑波大学（2）、大阪大学、東京外国語大学、千葉大学、岡山大学、名古屋大学、金沢大学、信州大学
私立大学	早稲田大学（7）、東京理科大学（2）、慶応義塾大学（2）、関西大学、立教大学、明治大学

図表 1-8 では、高等学校で受けた進路指導がどのようなものだったかについて、「個人面談」、「三者面談」、「資料室等の情報提供」、「進路相談」の4つから複数回答可として尋ねた結果である。全体で最も高い割合を示していたものは「個人面談」で93.2%であった。



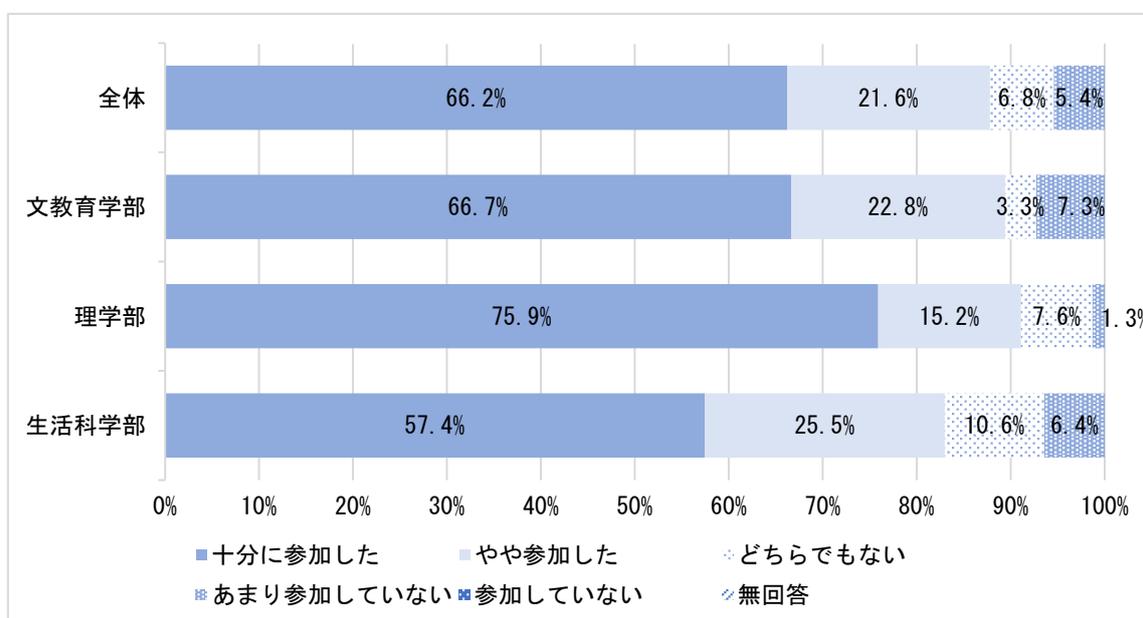
図表 1-8 高等学校で受けた進路指導

図表 1-9 では、出身高等学校について尋ねた結果である。全体では高等学校が「共学校」であると回答した割合が 76.4%、「女子校」と回答した割合は 23.6%であった。学部別にみると、理学部では、「共学校」と回答した割合が他 2 学部と比べて低い結果であった。



図表 1-9 出身高等学校について（共学/女子校）

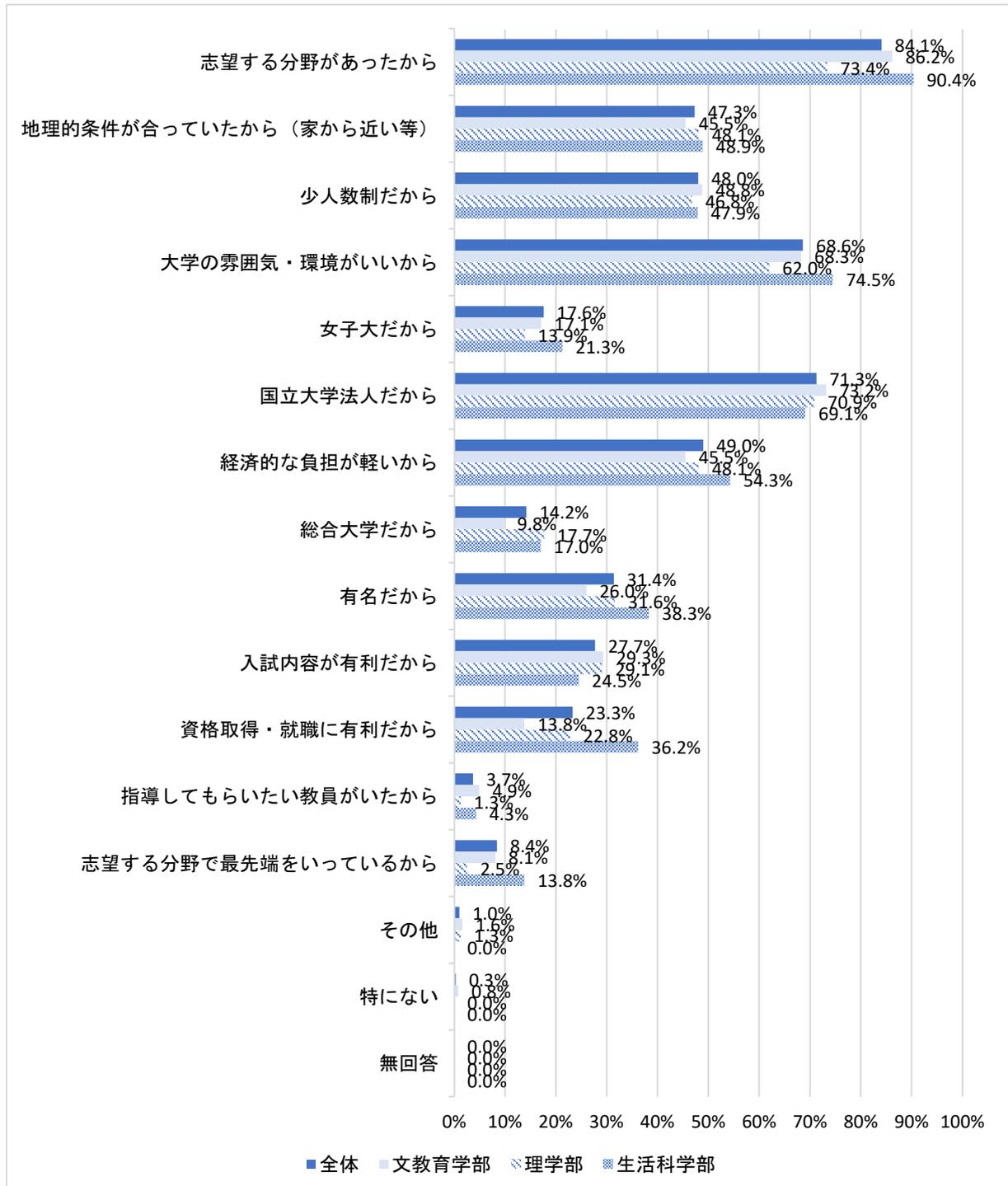
図表 1-10 では、高等学校時代の理系科目の学修において、どの程度実験や実習に参加していたかを尋ねた結果である。全体で見ると、「参加した」（「十分に参加した」+「やや参加した」）と回答した割合は 87.8%であり、「参加していない」（「あまり参加していない」+「参加していない」）と回答した割合は、12.2%であった。3 学部で比較すると、理学部が「参加した」と「参加していない」と回答した割合は最も高いとの結果であった。



図表 1-10 理系科目の実験・実習の参加度合い

図表 1-11 では、お茶の水女子大学を選んだ理由について、自分の学力や入試の難易度以外に重視したものを複数回答で尋ねた結果である。

全体で最も高い割合を示しているのは、「志望する分野があったから」で 84.1%であり、昨年度の結果と同様に高い水準を維持している。次に「国立大学法人だから」71.3%、「大学の雰囲気・環境がいいから」68.6%、が続く。学部別にみると、文教育学部・理学部・生活科学部で最も高い割合を示しているのは「志望する分野があったから」同じである。



図表 1-11 お茶の水女子大学を選んだ理由（自分の学力や入試難易度以外）

第5章 考察および今後の課題

(1) 令和3年度新入生に関する考察

第1章、第2章に示した令和3年度新入生調査結果を踏まえ、新入生に関する考察を行う。

1. 新入生の9割近くが「【受験時には】お茶大を第一志望」として入学している

令和3年度新入生の9割近くが「受験時にはお茶大を第一志望」としていたと回答している。電通育英会(2019)では「第一志望」と回答している割合は50%程度であるため、本学の新入生は第一志望の割合が高い水準にあると考えられる。

新入生がお茶の水女子大学の受験を決めた時期は、高校2年生の終わりまで(高校入学前、高校1年生、高校2年生のいずれか)と回答した割合は、45.9%と5割に満たない。東進(2021)によれば、難関23校合格者の4分の3が高校2年生の終わりまでに受験校を決定したと回答している。これと比較すると受験校決定時期は少し遅いとも考えられ、本学に決定するまでの受験校の変化も確認する必要があると言えよう。受験決定時期については、理学部の新入生が特徴的である。理学部の新入生は、高校入学前に決定したと回答している割合は0であり、高校2年生の終わりまでと回答した割合は24%と4分の1に達していない。さらに、高校3年生1月以降に決定しているケースが3割程度存在している。また、本学が第一志望であったと回答している割合も8割弱にとどまっている。つまり、理学部では共通テストの受験後に志望を変更して本学の受験に臨むケースも一定割合存在していると考えられる。

2. 学びの意欲が高い一方で、学業に対する不安も大きい

「大学に入学後、特にこの1年で頑張ろうと思う活動」は、「大学の授業」と回答した学生が99.0%であり、この傾向は例年通りではある。本学を受験することを決定したプロセスは個人により様々だと想像されるものの、入学時には本学で学ぶことのモチベーションが高い状態になっていることが推察できる。

一方で「大学生活が始まって心配なこと」として「授業や単位」に対する心配(68.2%)や、「授業についていけるか」(74.4%)、「進級や卒業ができるか」(57.2%)といった学業に対する不安をあげる割合も多い。つまり、まさに期待と不安が入り混じった状態で入学していると考えられる。

入学後の不安について保護者にも回答を求めているが、「授業や単位」に対して不安と回答する割合は31.2%と新入生本人に比べるとかなり低くなっている。このことから、「授業や単位」に関する不安は、新入生と保護者ではギャップがあると考えられる。

3. 卒業後の進路希望は「民間企業への就職」と「進学」が同程度存在し、大学の支援に期待

大学卒業後の進路希望については、全体では「民間企業に就職する」56.4%、「大学院などに進学する(海外含む)」45.6%、「公務員」29.2%、「教師など専門職」21.3%であり、例年と同様である。こういった希望があるものの、「卒業後ちゃんと就職できるか」について不安を感じている新入生も67.4%と7割近く存在していることがわかる。

この状況を反映してか、大学の「就職支援」に期待すると回答した割合が例年同様最も多く4分の3程度存在する。次いで「進路相談」67.2%、「学習支援」64.4%であった。保護者調査も学生と同様に「就職支援」82.7%、「進路相談」70.6%、「学習支援」60.4%と高かった。つまり、学生・保護者ともに、卒業後の進路に対する大学の支援への期待が高い状況は継続している。

(2) 奨学金と学生寮に関する考察

第3章で述べた学生支援における奨学金・学生寮の結果についてまとめ、考察する。

1. 奨学金

奨学金を期待する新入生像、保護者像を明らかにすることを目的とし奨学金制度等についての新入生へのアンケート結果をまとめた。新入生では、「きょうだい数が多い者(多ければ多いほど)」、「出身高校の設置者が国立である」、「奨学金受給経験を持つ者」、「入学後の予定住居が実家以外の者」、「仕送り額が5万円未満である者」、「学生寮を認知している者」、には奨学金等制度を認知している割合が高いことが示された。また、保護者への調査では、「家計支持者が母親である者」、「父親、母親の就労形態が自営である者」、「入学後の暮らし向きにゆとりがないと感じている者」、「世帯年収が800万円未満の者」、「家計支持者の年収が800万円未満の者」、「奨学金受給経験のある者」、「学生寮を認知している者」、「学生寮入寮を希望している者」には奨学金等制度の利用を希望する割合が高いことが示された。

また、新入生の奨学金受給経験者の割合は過去10年間で3番目に多い結果となっているが、奨学金制度の認知率は10年間で最も低い63.6%である。保護者の奨学金認知率は昨年度と同様に8割以上と高い。保護者の奨学金制度の利用希望について、「希望しない」の回答は58.0%となり、調査開始以来最も高い比率となっている。新入生において、本学独自の奨学金である「みがかずば奨学金」の認知率は昨年度と同様に過去の最高値を更新するものとなっている。それは43.8%であり、最も高い。新入生と保護者の奨学金全般の認知率を比較すると、保護者の奨学金認知率が8割前後であるのに比べ、新入生は6割前後と低くなっている。新入生の奨学金認知率は6割前後と一定の水準で維持されているが、保護者の認識水準との差が依然として存在するため、奨学金制度に関する新入生への周知のための新たな施策づくりが課題として挙げられる。

2. 学生寮

学生寮についての新入生のアンケート結果をまとめると、「入学後の予定住居が実家以外の者」、「仕送り額が少ない(少なければ少ないほど)者」には、学生寮を認知している割合が高いことが示された。

また保護者への調査結果では、「家計支持者が母親である者」、「父親の就労形態が自営業である者」、「入学後の暮らし向きにゆとりがないと感じている者」、「世帯年収が400万円未満の者」、「家計支持者年収が400万円未満の者」、「奨学金受給経験を持つ者」、「学生寮を認知している者」に、学生寮を希望する割合が高いことが示された。昨年度では、世帯年収、家計支持者の年収が400万円～800万円未満の場合に、学生寮への入寮希望の割合が高まる傾向であったが、今年度では世帯年収、家計支持者の年収が400万円未満のケースに集中していることが特徴として見られている。学生寮が経済支援の一環として機能することを改めて確認できる結果だと考える。

新入生における学生寮の認知については、昨年度の67.4%から低くなり、63.6%である。過去10年の調査結果から俯瞰的に見てもやや低い水準となっている。今年度における保護者の学生寮の認知率も低めの54.6%であり、学生寮を「希望しない」割合も75.6%と、調査開始以来比較的低い水準となっている。

令和4年にはキャンパスの敷地内に新しい学生寮を開寮する予定である。今までの教育寮、自治寮に加え、新寮を開寮することによって、新入生及び保護者にとっての選択肢が増えることとなる。今年の調査結果では学生寮の認知度が下がっていることから、本学の豊かな施設を学生に有効利用してもらうためには、各寮の特徴の提示方法、申請方式、広報媒体や時期の検討など、寮の広報に一層力を入れる必要があると考えられる。

(3) 学生・キャリア支援における課題

令和3年度新入生調査および保護者調査を通じて得られた令和3年度新入生の課題をまとめたうえで、期待される学生・キャリア支援について述べる。

令和3年度新入生の課題は、大きく2つあると考える。ひとつは学業に関する課題であり、もうひとつはキャリアに関する課題である。はじめに学業に関する課題について述べる。

令和3年度の新入生も、これまでと同様に約9割が本学を第一志望として入学し、学業をがんばろうという気持ちをもっている。しかし、本学の受験を決めた時期は決して早くはないことから、他学も考慮に入れつつ最終的に本学の受験を決めたという者も少なくはないと考えられる。そうであるとすれば、本学に対する理解やコミットメントは一樣に高いというわけではなく、フォローが必要なケースも存在していると考えられる。

学業に関する課題はもう1点ある。それは、学業をがんばろうという気持ちと裏腹に「授業や単位」「進級や卒業」に対して不安を感じている新入生が多いことである。新入生が学業に対して不安を感じる傾向は例年と同様だが、本章(1)では保護者の不安とはギャップがあることについて指摘した。つまり、「授業や単位」「進級や卒業」といった学業について保護者は不安に思っていない一方で、新入生自身は不安を感じている状態である。そもそも大学での学業に関する不安を保護者が解消することは難しいとも考えられるが、家庭内で相談しても不安感にギャップがあるために家庭内では理解が得られず、不安が解消・軽減するどころか、よりストレスになることも考えられる。つまり、学業に対する不安は大学の適切な支援によって解消していく必要があるだろう。

次にキャリアに関する課題について述べる。例年、本学の新入生は、民間企業、公務員、教員など多様な就職希望があり、令和3年度新入生も同様の傾向であった。また、本学学生は初職を継続し、結婚・出産などのライフイベントと仕事の両立も希望している。このように人生における大きな分岐に関する希望はある程度明らかになっている反面で、「卒業後就職できるか」「将来の目標が見つかるか」といった不安を同時に抱えている。つまり、ライフコースに関する希望は明確だが、それを実現するための進路が入学時点では見通せていないという課題があると考えられる。

このような入学時の就職や将来に関する不安を解消し希望を実現するためには、より多くの学生にキャリア教育とキャリア支援を活用してもらう必要がある。すでに学生・キャリア支援センターでは、民間企業を希望する学生を対象としたセミナーやワークショップなどの就職支援や、公務員・教員希望者を対象とした試験対策支援を行うなど、多様な進路希望に対応できるようなキャリア支援行事、活動を展開している。この支援を多くの学生に周知し、活用してもらうことが必要であろう。また、キャリア教育として開講しているキャリアデザイン科目群についても受講の促進が望まれる。特にキャリアデザイン科目の中でも進路選択やキャリアプランについて体系的に学ぶことは、将来に関する不安を解消し、見通しを持つことにつながる。さらには、将来の不安を解消し、見通しを持つことは、学業を含めた大学生活を主体的に過ごすことにもつながるであろう。

教職員はこういった学生の期待や不安を適切に理解し支援することで、学生は入学時の学業に対する意欲を維持しつつ、さまざまな活動に主体的に取り組むことができると考えられる。

上記で述べたように学生が意欲的にさまざまな活動に取り組むためには、学業や就職以外の不安・心配事をできるかぎりなくすための学生支援が不可欠である。新入生で不安が特にないと回答した割合は1割に満たず、人間関係、健康面などについて不安を持って入学する。こういった不安や心配を入学後速やかに解消できるよう働きかけることはもちろん、大学生活を送る中で必要な時は迷わず支援の窓口にとどり着けるように大学の学生支援について周知していく必要もある。本学の学生は比較的世帯収入が多い家庭で育った者が多いが、本章(2)でも指摘されているように経済面での不安を持つ学生がいることは事実である。学生支援とキャリア支援の活用を促進することは、学生が学業を含めた大学生活をより有意義に送るための間接的な支援であると考えられる。

新入生生活調査

＜入学予定者用＞

(一般選抜合格者および私費外国人留学生)

お茶の水女子大学に入学を予定されているみなさまへ

この度は、お茶の水女子大学に合格おめでとうございます。お茶の水女子大学は、みなさんのご入学を歓迎し、今後の学生生活が実りあるものになるよう祈念しております。

さて、本学では、入学予定者およびその保護者の方にアンケートを実施いたします。これは、入学を予定している方の実情をふまえ、有益な学生支援の検討および実施を行うための資料とすることを目的としています。具体的には、

1. 新入生個々の大学教育や将来への多様なニーズを把握し、適切な学生支援事業を入学時から行うために、新入生個々の情報を得る。
2. 新入生の標準的な学生生活の状況を把握する。
3. 新入生の家庭状況からその経済的基盤を推定することにより、お茶の水女子大学における学生支援事業を改善するための基礎資料とする。
4. 国立大学入学者の学生生活・家庭状況・進路状況などに関する調査研究を行うための基礎資料とする。

上記4点を中心にするものです。

ご回答いただきました内容は、統計的に処理をします。個人としてのご回答が公表されることはありません。また、調査結果は上記の目的以外に使用することはありません。

調査票中、質問項目の左に*がついている項目は、本学入学後も、新入生個人の情報として、学生支援を行うために利用しますが、回答に含まれる個人情報、お茶の水女子大学個人情報の管理に関する規則及び関係諸規定に基づき、厳格に管理いたします。

なお、アンケートにご協力いただけなかった場合でも、本学教育課程その他に不利益を被ることはありません。また、入学を辞退された方の個人情報は、入学辞退届を受理次第、破棄いたします。

どうかアンケートの趣旨をご理解賜り、ご協力いただけますよう、お願い申し上げます。

本調査の企画・実施に関する情報は以下の通りです。

【実施主体】 国立大学法人 お茶の水女子大学 学生・キャリア支援センター

【問い合わせ先】 新入生生活調査担当 (03-5978-2646)

【個人情報について】

お茶の水女子大学では、個人情報の管理に関する規程および個人情報の公開に関する取扱要項等の規定を定めて、本学が保有する個人情報の適正な管理に努めています。

<http://www.ocha.ac.jp/about/individual.html>

以下のご回答にあたってのご注意をお読みのうえ、ご回答願います。

ご回答にあたってのお願い

- ・お答えは、黒鉛筆または黒ボールペンで、あてはまる回答についている数字を○でかこんでいただく場合と、マスの中に数字を記入する場合があります。「その他」にあてはまる時は、数字を○でかこみ、() 内に具体的な内容を記入して下さい。() 内に書ききれない場合は、欄外にご記入下さい。
- ・質問番号順にお答え下さい。質問の中には、一部の方にだけおたずねするものがありますが、その場合は指示に従って下さい。
- ・「⑨⑩=01」とか⑩などの記号は、コンピュータで処理するためのものですので、質問やお答えとは関係ありません。
- ・表紙依頼文にも一部記載いたしましたが、アンケートの最後に、ご回答内容の研究調査へのデータ使用および皆様個人への学生支援のためのご回答の管理・登録への許可をお伺いしております。許可いただけない場合は、使用することはありません。
- ・入学辞退をされた方は、入学辞退届を受理次第、調査票そのものを破棄いたします。
- ・アンケートは、大学で付けたID番号で管理をしております。**アンケート用紙には、あなたや保護者の方のお名前、住所などは記載せず**ご回答、ご返送ください。
- ・アンケートの回答及び返送をもって、個人情報の取り扱いに同意いただけたものといたします。回答後に同意を撤回されたい場合は、2021年4月9日までに、お茶の水女子大学 学生・キャリア支援センター 新入生生活調査担当 (03-5978-2646) へ、お知らせください。
- ・ご回答いただきました調査票は、同封いたしました調査票返送用封筒に入れていただき、**他の入学手続関係書類に同封し、締め切り期日までに返送をお願いいたします。**

それでは、よろしくお願いいたします。

I. まず、あなた自身およびご家族のことについて、お聞きします。

(1) 入学予定の学部学科に○をつけてください。

⑩=1

・文教育学部

1. 人文科学科 2. 言語文化学科 3. 人間社会科学科 4. 芸術・表現行動学科

・理学部

5. 数学科 6. 物理学科 7. 化学科 8. 生物学科 9. 情報科学科

・生活科学部

10. 食物栄養学科 11. 人間・環境科学科 12. 人間生活学科 13. 心理学科

⑪

⑫

(2) 出身高校について、それぞれあてはまるものに○をつけてください。

A. 高校（設置者）は → 1. 公立 2. 私立 3. 国立 4. 海外 5. 高等学校卒業程度認定試験 ⑬

B. 種類は → 1. 3年制 2. 中高一貫校 (3)へ ⑭

C. 学科は → 1. 普通科（理数科も含む） 2. 総合学科 ⑮

3. 専門学科（商業・工業、家庭、農業科など） 4. その他（ ）

(3) 出身高校の所在地の都道府県をご記入ください。高等学校卒業程度認定試験合格者は、受験時に住んでいた都道府県をご記入ください。

1. 都道府県（県名 ） 2. 海外 ⑯

(4) あなたのご家族の構成について、同居を問わず、あてはまる方**すべて**に○をつけてください。

1. 父親 3. 兄 5. 弟 7. 祖父 9. 夫 11. 娘 ⑰

2. 母親 4. 姉 6. 妹 8. 祖母 10. 息子 12. その他（ ） ⑱

(5) あなたを含む兄弟姉妹の人数をご記入ください。同居を問わずお答えください。

人

⑳㉑

(6) あなたがお茶の水女子大学で入学する学科を選んだ理由をお書きください。

67

(7) 専門(学科)を選ぶ際に、どなたに相談しましたか。あてはまるもの**すべて**に○をつけてください。

- | | | | |
|----------|--------------|----------------|----|
| 1. 父親 | 5. 中学の教員 | 9. 友人 | |
| 2. 母親 | 6. 塾や専門学校の講師 | 10. 誰にも相談していない | 68 |
| 3. きょうだい | 7. 親戚 | 11. その他 () | 69 |
| 4. 高校の教員 | 8. 高校などの先輩 | | |

(8) あなたが専門(学科)を選ぶに当たって、影響を受けた人はありますか。

あてはまるもの**すべて**に○をつけてください。

- | | | | |
|----------|--------------|------------------------|----|
| 1. 父親 | 6. 塾や専門学校の講師 | 10. お茶の水女子大学の学生 | |
| 2. 母親 | 7. 親戚 | 11. お茶の水女子大学の教職員 | |
| 3. きょうだい | 8. 高校などの先輩 | 12. 学者・研究者(お茶の水女子大学以外) | 70 |
| 4. 高校の教員 | 9. 友人 | 13. 影響を受けた人はいない | 71 |
| 5. 中学の教員 | | 14. その他 () | |

(9) (8)の方から影響を受けた内容はどのようなことでしたか。

72

(10) (8)で、「4. 高校の教員」または「5. 中学の教員」から影響を受けたと回答した方は、その先生の性別と専門、またもしわかれば、卒業した大学も教えてください。

- | | | | | |
|----------|---|-------|-------|----|
| A. 性別 | → | 1. 女性 | 2. 男性 | 73 |
| B. 先生の専門 | → | () | | 74 |
| C. 卒業大学 | → | () | 大学 | 75 |

Ⅲ. 大学入学後の学生生活について、お聞きします。

(1) 大学入学後に居住予定の都道府県 **1つ** に○をつけてください。

- | | | |
|--------|--------------|----|
| 1. 東京都 | 4. 神奈川県 | |
| 2. 埼玉県 | 5. その他の県 () | ⑧7 |
| 3. 千葉県 | | |

* (2) 大学入学後に予定している住居**すべて**に○をつけてください。

- | | | |
|----------------------|-------------------|----|
| 1. 実家 | 4. 大学の寮 (お茶大 SCC) | |
| 2. 実家以外の賃貸アパートやマンション | 5. 大学以外の寮 | ⑧8 |
| 3. 大学の寮 (国際学生宿舎) | 6. その他 () | |

(3) 住居を考える際に、新型コロナウイルス (COVID-19) のことを考慮されましたか。

- | | | |
|------------|-----------------------|----|
| 1. はい、考慮した | 2. いいえ、考慮しなかった→ (5) へ | ⑧9 |
|------------|-----------------------|----|

(4) 【(3) で「1. はい、考慮した」と回答した方にお伺いします】

考慮したことの具体的な内容を教えてください。あてはまるもの**すべて**に○をつけてください。

- | | |
|-------------------------------------|----|
| 1. 寮に住みたいが、感染が心配なのでやめるつもり | |
| 2. シェアハウス型の寮に住みたいが、感染が心配なのでやめるつもり | |
| 3. 感染対策の面で安心なので、大学の寮に住むつもり | ⑨0 |
| 4. 感染予防の視点で、賃貸マンションに住むつもり | |
| 5. 実家以外のところに住みたいが、感染が心配なので実家で暮らすつもり | |
| 6. その他 () | |

(5) 【(2) で「賃貸アパートやマンション」に○をつけた方にお伺いします】

1か月の家賃 (管理費込み) の予算をご記入ください。千円未満は四捨五入してください。

万 千円 ⑨1~⑨3

(6) 【(2) で「2~6 (実家以外)」に○をつけた方にお伺いします】

1か月あたりの仕送り予定額 (授業料を含まない) についてご記入ください。万円未満は四捨五入してください。

万円 仕送りはない ⑨4⑨5

【全員の方に】

⑩=2

(7) 大学に入学後、頑張ろうと思う活動として、あてはまるもの**すべて**に○をつけてください。

- | | | | |
|---------------|-------------|-------------|---|
| 1. 大学の授業 | 4. 授業以外での勉強 | 7. ボランティア活動 | |
| 2. クラブ・サークル活動 | 5. 友達との交流 | 8. 留学 | ⑪ |
| 3. アルバイト活動 | 6. 趣味 | 9. その他 () | |
| | | 10. 特にない | |

(8) 【(5) で「アルバイト活動」に○をつけた方にお伺いします】

アルバイト活動をどの程度する予定ですか。あてはまるもの**1つ**に○をつけてください。

- | | | |
|----------------------|-----------------------|---|
| 1. 長期休暇期間（夏、冬、春休み）のみ | 5. 学期中に不定期的に、長期休暇期間にも | |
| 2. 学期中、不定期 | 6. その他 () | ⑫ |
| 3. 学期中、定期的に | 7. 未定 | |
| 4. 学期中に定期的に、長期休暇期間にも | | |

【全員の方に】

(9) 授業料の負担予定について、あてはまるもの**1つ**に○をつけてください。

- | | |
|----------------------------------|---|
| 1. ほぼ全額を保護者が負担予定 | |
| 2. 一部をあなたが負担予定（奨学金、アルバイトなども含む） | ⑬ |
| 3. ほぼ全額をあなたが負担予定（奨学金、アルバイトなども含む） | |

* (10) これまでに受けたことのある奨学金・学費免除などの制度がございましたら、その**すべて**について、該当の番号に○をして、具体的な名称および給付型・貸与型についてご記入ください。

	具体的な名称	給付・貸与	
1.	日本学生支援機構の奨学金	1. 給付 2. 貸与	⑭⑮
2.	地方公共団体の奨学金	1. 給付 2. 貸与	⑰⑱
3.	学校独自の奨学金	1. 給付 2. 貸与	⑲⑳
4.	民間奨学団体の奨学金	1. 給付 2. 貸与	㉑㉒
5.	新聞社の奨学金	1. 給付 2. 貸与	㉓㉔
6.	その他の奨学金	1. 給付 2. 貸与	㉕㉖
7.	学費免除	1. 給付 2. 貸与	㉗㉘
8.	特待生	1. 給付 2. 貸与	㉙㉚

(11) 以下の奨学金などの制度について、知っているもの**すべて**に○をつけてください。

- | | | |
|-------------------------|----------------|----|
| 1. 日本学生支援機構（第一種奨学金） | 8. 育児支援奨学金 | |
| 2. 日本学生支援機構（第二種奨学金） | 9. 入学料免除制度 | |
| 3. 日本学生支援機構（緊急・応急採用奨学金） | 10. 入学料徴収猶予制度 | ③① |
| 4. 地方公共団体の奨学金 | 11. 授業料免除制度 | ③② |
| 5. 民間奨学団体の奨学金 | 12. 授業料徴収猶予制度 | |
| 6. みがかずば奨学金 | 13. 知っているものはない | |
| 7. 桜蔭会奨学金（3年生向け） | | |

(12) 本学の学生寮について、知っているもの**すべて**に○をつけてください。

- | | | | | |
|-----------|------------|-----------------|---------|----|
| 1. 国際学生宿舎 | 2. お茶大 SCC | 3. 小石川寮（大学院生向け） | 4. 知らない | ③③ |
|-----------|------------|-----------------|---------|----|

(13) 以下の本学の学生寮について、入寮を希望するもの**すべて**に○をつけてください。

- | | | | | |
|-----------|------------|-----------------|---------|----|
| 1. 国際学生宿舎 | 2. お茶大 SCC | 3. 小石川寮（大学院生向け） | 4. 特にない | ③④ |
|-----------|------------|-----------------|---------|----|

(14) 大学生活が始まって心配なこと**すべて**に○をつけてください。

- | | | |
|-----------|-----------|----|
| 1. 授業や単位 | 5. 健康面 | |
| 2. 就職や将来 | 6. 日常生活全般 | ③⑤ |
| 3. 人間関係 | 7. その他（ | ） |
| 4. 生活・経済面 | 8. 特にない | |

(15) 今の気持ち（不安・心配事）について、以下の項目はどの程度あてはまると思われますか。
あてはまる番号にそれぞれ**1つ**○をつけてください。

	あてはまる	ある程度あてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	
・友達ができるか	1	2	3	4	③⑦
・大学になじめるか	1	2	3	4	③⑧
・金銭面で負担がかからないか	1	2	3	4	③⑨
・授業についていけるか	1	2	3	4	④⑩
・進級や卒業ができるか	1	2	3	4	④⑪
・将来の目標が見つかるか	1	2	3	4	④⑫
・卒業後ちゃんと就職できるか	1	2	3	4	④⑬

(16) 本学の学生支援活動で、期待するもの**すべて**に○をつけてください。

- | | | |
|----------|---------|------------|
| 1. 経済的支援 | 4. 心理相談 | 7. 就職支援 |
| 2. 生活相談 | 5. 学習支援 | 8. 課外活動支援 |
| 3. 健康相談 | 6. 進路相談 | 9. その他 () |
| | | 10. 特にない |

④④

IV. 将来の進路について、お聞きします。

* (1) 大学卒業後の進路について、どのような希望をもっていますか。

あてはまるもの**すべて**に○をつけてください。

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 1. 民間企業に就職する | 5. 大学院などに進学する (海外含む) |
| 2. 公務員になる | 6. その他 () |
| 3. 教師などの専門職につく | 7. 決めていない |
| 4. 自営など、1から3以外の形で就職する | |

④⑤

(2) 大学卒業後のキャリアについて、どのように考えていますか。

あてはまる番号にそれぞれ**1つ**○をつけてください。

	そう 思う	ある 程度 思う	そう 思わ ない
・すぐに就職して最初から正社員・正規の職員になる	1	2	3
・すぐに就職するが正社員・正規の職員にこだわらない	1	2	3
・すぐに大学院などに進学する	1	2	3
・就職してから大学院への進学を考える	1	2	3
・資格試験・公務員試験などに合格するまで就職しない	1	2	3
・卒業後すぐには就職しなくてもよい	1	2	3
・最初の就職先にできるだけ長く勤める	1	2	3
・何年かして転職や独立をする	1	2	3
・結婚・出産後も仕事を続ける	1	2	3

④⑥

④⑦

④⑧

④⑨

④⑩

④⑪

④⑫

④⑬

④⑭

新入生生活調査

＜入学予定者の保護者用＞

(一般選抜合格者および私費外国人留学生)

ご子女が、お茶の水女子大学に入学を予定されているみなさまへ

この度は、ご子女のお茶の水女子大学合格おめでとうございます。お茶の水女子大学は、ご子女のご入学を歓迎し、今後の学生生活が実りあるものになるよう祈念しております。

さて、本学では、入学予定者およびその保護者の方にアンケートを実施いたします。これは、入学を予定している方の実情をふまえ、有益な学生支援の検討および実施を行うための資料とすることを目的としています。具体的には、

1. 新入生個々の大学教育や将来への多様なニーズを把握し、適切な学生支援事業を入学時から行うために、新入生個々の情報を得る。
2. 新入生の標準的な学生生活の状況を把握する。
3. 新入生の家庭状況からその経済的基盤を推定することにより、お茶の水女子大学における学生支援事業を改善するための基礎資料とする。
4. 国立大学入学者の学生生活・家庭状況・進路状況などに関する調査研究を行うための基礎資料とする。

上記4点を中心にするものです。

ご回答いただきました内容は、統計的に処理をします。個人としてのご回答が公表されることはありません。また、調査結果は上記の目的以外に使用することはありません。

調査票中、質問項目の左に*がついている項目は、本学入学後も、新入生個人の情報として、学生支援を行うために利用しますが、回答に含まれる個人情報、お茶の水女子大学個人情報の管理に関する規則及び関係諸規定に基づき、厳格に管理いたします。

なお、アンケートにご協力いただけなかった場合でも、本学教育課程その他に不利益を被ることはありません。また、入学を辞退された方の個人情報は、入学辞退届を受理次第、破棄いたします。

どうかアンケートの趣旨をご理解賜り、ご協力いただけますよう、お願い申し上げます。

本調査の企画・実施に関する情報は以下の通りです。

【実施主体】 国立大学法人 お茶の水女子大学 学生・キャリア支援センター

【問い合わせ先】 新入生生活調査担当 (03-5978-2646)

【個人情報について】

お茶の水女子大学では、個人情報の管理に関する規程および個人情報の公開に関する取扱要項等の規定を定めて、本学が保有する個人情報の適正な管理に努めています。

<http://www.ocha.ac.jp/about/individual.html>

以下のご回答にあたってのご注意をお読みのうえ、ご回答願います。

ご回答にあたってのお願い

- ・お答えは、黒鉛筆または黒ボールペンで、あてはまる回答についている数字を○でかこんでいただく場合と、マスの中に数字を記入する場合があります。「その他」にあてはまる時は、数字を○でかこみ、() 内に具体的な内容を記入してください。() 内に書ききれない場合は、欄外にご記入ください。
- ・質問番号順にお答え下さい。質問の中には、一部の方にだけおたずねするものがありますが、その場合は指示に従って下さい。
- ・「⑨⑩=01」とか⑪などの記号は、コンピュータで処理するためのものですので、質問やお答えとは関係ありません。
- ・表紙依頼文にも一部記載いたしましたが、アンケートの最後に、ご回答内容の研究調査へのデータ使用および皆様個人への学生支援のためのご回答の管理・登録への許可をお伺いしております。許可いただけない場合は、使用することはありません。
- ・入学辞退をされた方は、入学辞退届を受理次第、調査票そのものを破棄いたします。
- ・入学予定者の保護者不在の場合は保護者用調査票への回答は不要です。
- ・アンケートは、大学で付けたID番号で管理をしております。**アンケート用紙には、ご子女や保護者の方のお名前、住所などは記載せず**ご回答、ご返送ください。
- ・アンケートの回答及び返送をもって、個人情報の取り扱いに同意いただいたものといたします。回答後に同意を撤回されたい場合は、2021年4月9日までに、お茶の水女子大学 学生・キャリア支援センター新入学生生活調査担当 (03-5978-2646) へ、お知らせください。
- ・ご回答いただきました調査票は、同封いたしました調査票返送用封筒に入れていただき、**他の入学手続関係書類に同封し、締め切り期日までに返送をお願いいたします。**

それでは、よろしく願います。

【全員の方に】

(7) ご子女が大学に入学した後のご家庭の暮らし向きについて、あてはまるもの**1つ**に○をつけてください。

1. ゆとりがない 2. あまりゆとりがない 3. 多少ゆとりがある 4. ゆとりがある ⑲

* (8) ご家庭の世帯年収（学校に在学する者を除く同一世帯全員の年収。税込）について、あてはまるもの**1つ**に○をつけてください。

1. 400万円未満 4. 800万円以上1000万円未満 7. 1400万円以上1600万円未満
2. 400万円以上600万円未満 5. 1000万円以上1200万円未満 8. 1600万円以上1800万円未満 ⑳
3. 600万円以上800万円未満 6. 1200万円以上1400万円未満 9. 1800万円以上

* (9) 家計を主に支えている方の年収（税込）について、あてはまるもの**1つ**に○をつけてください。

1. 400万円未満 4. 800万円以上1000万円未満 7. 1400万円以上1600万円未満
2. 400万円以上600万円未満 5. 1000万円以上1200万円未満 8. 1600万円以上1800万円未満 ㉑
3. 600万円以上800万円未満 6. 1200万円以上1400万円未満 9. 1800万円以上

(10) 本学に入学予定のご子女への、1か月あたりの仕送り予定額についてご記入ください。
万円未満は四捨五入してください。

万円

0 仕送りはしない

㉒ ㉓

(11) 授業料の負担予定について、あてはまるもの**1つ**に○をつけてください。

1. ほぼ全額を保護者が負担予定
2. 一部をご子女本人が負担予定（奨学金、アルバイトなども含む） ㉔
3. ほぼ全額をご子女本人が負担予定（奨学金、アルバイトなども含む）

(12) 以下の奨学金などの制度について、ご存知のもの**すべて**に○をつけてください。

- | | | |
|-------------------------|----------------|---|
| 1. 日本学生支援機構（第一種奨学金） | 8. 育児支援奨学金 | |
| 2. 日本学生支援機構（第二種奨学金） | 9. 入学料免除制度 | |
| 3. 日本学生支援機構（緊急・応急採用奨学金） | 10. 入学料徴収猶予制度 | ④ |
| 4. 地方公共団体の奨学金 | 11. 授業料免除制度 | ④ |
| 5. 民間奨学団体の奨学金 | 12. 授業料徴収猶予制度 | |
| 6. みがかずば奨学金 | 13. 知っているものはない | |
| 7. 桜蔭会奨学金（3年生向け） | | |

(13) 以下の奨学金などの制度について、希望されるもの**すべて**に○をつけてください。

- | | | |
|-------------------------|---------------|---|
| 1. 日本学生支援機構（第一種奨学金） | 8. 育児支援奨学金 | |
| 2. 日本学生支援機構（第二種奨学金） | 9. 入学料免除制度 | |
| 3. 日本学生支援機構（緊急・応急採用奨学金） | 10. 入学料徴収猶予制度 | ④ |
| 4. 地方公共団体の奨学金 | 11. 授業料免除制度 | ④ |
| 5. 民間奨学団体の奨学金 | 12. 授業料徴収猶予制度 | |
| 6. みがかずば奨学金 | 13. 希望するものはない | |
| 7. 桜蔭会奨学金（3年生向け） | | |

(21) 本学の学生支援活動で、期待するもの**すべて**に○をつけてください。

- | | | | |
|----------|---------|------------|----|
| 1. 経済的支援 | 4. 心理相談 | 7. 就職支援 | |
| 2. 生活相談 | 5. 学習支援 | 8. 課外活動支援 | ⑤③ |
| 3. 健康相談 | 6. 進路相談 | 9. その他 () | |
| | | 10. 特になし | |

(22) ご両親の最終学歴について、それぞれあてはまるもの**1つ**に○をつけてください。

父親は

1. 中学・高校 2. 高専 3. 専門学校・短大 4. 大学 5. 大学院 ⑤④

母親は

1. 中学・高校 2. 高専 3. 専門学校・短大 4. 大学 5. 大学院 ⑤⑤

・研究調査のために、個人が特定されないデータとして、本調査の回答を用いる許可をいただけますか。

1. はい 2. いいえ ⑤⑥

・皆様のご子女に対する適切な学生支援を行うために、*のついた質問に対する回答を個人の情報として登録・管理する許可をいただけますか。

1. はい 2. いいえ ⑤⑦

・ご子女がお茶の水女子大学に合格した際の受験番号をご記入ください。

() ⑤⑧～⑥④

・ご回答者とご子女との関係について、あてはまるもの**1つ**に○をつけてください。

1. 父親 2. 母親 3. その他 (続き柄は:) ⑥⑤

**ご協力、ありがとうございました。同封の返信用封筒に封入の上、
他の入学関係書類に同封して、ご返送をお願いいたします。**

新入生調査 基礎集計表 (入学予定者)1/6

			総数	学部			
				文教育学部	理学部	生活科学部	無回答
I.(1)			390	175	100	115	0
		学部		44.9%	25.6%	29.5%	0.0%
I.(2)	出身高校設置者	総数	390	175	100	115	0
		公立	60.0%	66.3%	51.0%	58.3%	0.0%
		私立	34.9%	29.7%	42.0%	36.5%	0.0%
		国立	4.1%	2.9%	6.0%	4.3%	0.0%
		海外	0.8%	0.6%	1.0%	0.9%	0.0%
		高等学校卒業程度認定試験	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		無回答	0.3%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%
I.(2)	出身高校・種類	該当者	386	173	99	114	0
		3年制	59.8%	64.7%	56.6%	55.3%	0.0%
		中高一貫	39.6%	34.7%	43.4%	43.9%	0.0%
		無回答	0.5%	0.6%	0.0%	0.9%	0.0%
I.(2)	出身高校・学科	該当者	386	173	99	114	0
		普通科(理数科も含む)	96.6%	95.4%	97.0%	98.2%	0.0%
		総合学科	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		専門学科(商業・工業、家庭、農業科など)	0.3%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%
		その他	1.8%	2.3%	1.0%	1.8%	0.0%
		無回答	1.3%	1.7%	2.0%	0.0%	0.0%
I.(3)	出身都道府県	総数	390	175	100	115	0
		国内	98.7%	98.9%	99.0%	98.3%	0.0%
		海外	0.8%	0.6%	1.0%	0.9%	0.0%
		無回答	0.5%	0.6%	0.0%	0.9%	0.0%
I.(4)	家族構成	総数	390	175	100	115	0
		父親	95.4%	94.9%	94.0%	97.4%	0.0%
		母親	99.2%	99.4%	99.0%	99.1%	0.0%
		兄	20.3%	17.1%	22.0%	23.5%	0.0%
		姉	19.2%	22.3%	8.0%	24.3%	0.0%
		弟	26.7%	22.3%	28.0%	32.2%	0.0%
		妹	27.2%	28.0%	32.0%	21.7%	0.0%
		祖父	33.8%	37.1%	32.0%	30.4%	0.0%
		祖母	42.1%	46.9%	35.0%	40.9%	0.0%
		夫	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		息子	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		娘	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		その他	2.1%	1.7%	3.0%	1.7%	0.0%
		無回答	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%
I.(5)	兄弟姉妹人数	総数	390	175	100	115	0
		1人	20.5%	21.1%	25.0%	15.7%	0.0%
		2人	59.0%	60.0%	54.0%	61.7%	0.0%
		3人	16.4%	14.3%	19.0%	17.4%	0.0%
		4人以上	3.8%	4.0%	2.0%	5.2%	0.0%
		無回答	0.3%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%
II.(1)-a	小学校の設置者	総数	390	175	100	115	0
		国立	3.6%	3.4%	6.0%	1.7%	0.0%
		公立	91.5%	92.0%	88.0%	93.9%	0.0%
		私立	3.1%	2.3%	5.0%	2.6%	0.0%
		海外	1.5%	2.3%	1.0%	0.9%	0.0%
		無回答	0.3%	0.0%	0.0%	0.9%	0.0%
II.(1)-b	中学校の設置者	総数	390	175	100	115	0
		国立	6.9%	5.7%	10.0%	6.1%	0.0%
		公立	66.2%	75.4%	54.0%	62.6%	0.0%
		私立	26.2%	18.3%	36.0%	29.6%	0.0%
		海外	0.5%	0.6%	0.0%	0.9%	0.0%
		無回答	0.3%	0.0%	0.0%	0.9%	0.0%
II.(2)-a	小学校受験の有無	総数	390	175	100	115	0
		受験をした	6.9%	6.3%	11.0%	4.3%	0.0%
		受験をしていない	92.8%	93.1%	89.0%	95.7%	0.0%
		覚えていない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		無回答	0.3%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%
II.(2)-b	中学校受験の有無	総数	390	175	100	115	0
		受験をした	45.9%	40.0%	54.0%	47.8%	0.0%
		受験をしていない	53.8%	59.4%	46.0%	52.2%	0.0%
		覚えていない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		無回答	0.3%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%
II.(2)-c	高校受験の有無	総数	390	175	100	115	0
		受験をした	63.8%	69.7%	60.0%	58.3%	0.0%
		受験をしていない	35.9%	29.7%	40.0%	41.7%	0.0%
		覚えていない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		無回答	0.3%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%

新入生調査 基礎集計表 (入学予定者)2/6

			学部				
			総数	文教育学部	理学部	生活科学部	無回答
Ⅱ.(14)	受験決定時期	該当者	390	175	100	115	0
		高校入学以前	4.9%	5.7%	0.0%	7.8%	0.0%
		高校1年	13.8%	17.7%	8.0%	13.0%	0.0%
		高校2年	27.2%	27.4%	16.0%	36.5%	0.0%
		高校3年4～8月	20.3%	21.1%	20.0%	19.1%	0.0%
		高校3年9・10月	9.0%	6.3%	17.0%	6.1%	0.0%
		高校3年11・12月	6.2%	5.7%	9.0%	4.3%	0.0%
		高校3年1・2月	12.3%	13.1%	16.0%	7.8%	0.0%
		高校卒業以降	6.2%	2.3%	14.0%	5.2%	0.0%
		無回答	0.3%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%
Ⅱ.(15)	第一志望	総数	390	175	100	115	0
		はい	88.7%	89.7%	79.0%	95.7%	0.0%
		いいえ	11.3%	10.3%	21.0%	4.3%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Ⅱ.(16)	高校卒業から大学入学までの間に経験したこと	総数	390	175	100	115	0
		高卒後、他の高等教育機関に入学した	0.5%	0.6%	0.0%	0.9%	0.0%
		高卒後、フルタイムで働いた	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		高卒後、浪人した	11.8%	8.6%	18.0%	11.3%	0.0%
		高卒後、海外留学をした	0.3%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%
		この中にはない	76.2%	79.4%	72.0%	74.8%	0.0%
		無回答	11.8%	11.4%	10.0%	13.9%	0.0%
Ⅲ.(1)	居住予定の都道府県	総数	390	175	100	115	0
		東京都	59.7%	60.0%	55.0%	63.5%	0.0%
		埼玉県	12.3%	13.1%	16.0%	7.8%	0.0%
		千葉県	8.5%	7.4%	9.0%	9.6%	0.0%
		神奈川県	12.8%	12.0%	13.0%	13.9%	0.0%
		その他の県	6.7%	7.4%	7.0%	5.2%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Ⅲ.(2)	居住予定の住居	総数	390	175	100	115	0
		実家	64.1%	61.1%	73.0%	60.9%	0.0%
		実家以外の賃貸アパートやマンション	25.9%	27.4%	23.0%	26.1%	0.0%
		大学の寮(国際学生宿舎)	14.1%	15.4%	8.0%	17.4%	0.0%
		大学の寮(お茶大SCC)	8.5%	11.4%	5.0%	7.0%	0.0%
		大学以外の寮	5.6%	9.1%	2.0%	3.5%	0.0%
		その他	1.8%	0.0%	3.0%	3.5%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Ⅲ.(3)	住居を考える際COVID-19への考慮	総数	390	175	100	115	0
		考慮した	14.1%	13.7%	18.0%	11.3%	0.0%
		考慮しなかった	82.8%	84.6%	79.0%	83.5%	0.0%
		無回答	3.1%	1.7%	3.0%	5.2%	0.0%
Ⅲ.(4)	COVID-19について考慮した内容	該当者	55	24	18	13	0
		寮に住みたいが、感染が心配なのでやめる	7.3%	0.0%	16.7%	7.7%	0.0%
		シェアハウス型の寮に住みたいが、感染が心配なのでやめる	1.8%	0.0%	5.6%	0.0%	0.0%
		感染対策の面で安心なので、大学の寮に住む	18.2%	20.8%	0.0%	38.5%	0.0%
		感染予防の視点で、賃貸マンションに住む	32.7%	29.2%	38.9%	30.8%	0.0%
		実家以外のところに住みたいが、感染が心配なので実家で暮らす	25.5%	25.0%	27.8%	23.1%	0.0%
		その他	20.0%	20.8%	22.2%	15.4%	0.0%
		無回答	1.8%	4.2%	0.0%	0.0%	0.0%
Ⅲ.(5)	家賃	該当者	101	48	23	30	0
		5万円未満	1.0%	2.1%	0.0%	0.0%	0.0%
		5～7万円台	47.5%	62.5%	30.4%	36.7%	0.0%
		8～9万円台	29.7%	22.9%	43.5%	30.0%	0.0%
		10～12万円台	10.9%	6.3%	13.0%	16.7%	0.0%
		13～14万円台	3.0%	2.1%	0.0%	6.7%	0.0%
		15万円以上	1.0%	0.0%	0.0%	3.3%	0.0%
		無回答	6.9%	4.2%	13.0%	6.7%	0.0%
Ⅲ.(6)	仕送り額	該当者	150	73	29	48	0
		仕送りはない	6.0%	2.7%	10.3%	8.3%	0.0%
		5万円未満	11.3%	9.6%	0.0%	20.8%	0.0%
		5～7万円台	27.3%	28.8%	20.7%	29.2%	0.0%
		8～9万円台	7.3%	8.2%	10.3%	4.2%	0.0%
		10～12万円台	20.7%	20.5%	27.6%	16.7%	0.0%
		13～14万円台	4.0%	4.1%	3.4%	4.2%	0.0%
		15万円以上	11.3%	11.0%	13.8%	10.4%	0.0%
		無回答	12.0%	15.1%	13.8%	6.3%	0.0%
Ⅲ.(7)	入学後の活動	総数	390	175	100	115	0
		大学の授業	99.0%	98.9%	98.0%	100.0%	0.0%
		クラブ・サークル活動	69.0%	62.9%	72.0%	75.7%	0.0%
		アルバイト活動	70.3%	68.6%	65.0%	77.4%	0.0%
		授業以外での勉強	64.1%	70.3%	56.0%	61.7%	0.0%
		友達との交流	72.1%	67.4%	71.0%	80.0%	0.0%
		趣味	50.8%	54.3%	44.0%	51.3%	0.0%
		ボランティア活動	29.5%	33.7%	16.0%	34.8%	0.0%
		留学	31.8%	36.6%	28.0%	27.8%	0.0%
		その他	1.5%	1.7%	0.0%	2.6%	0.0%
		特になし	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		

新入生調査 基礎集計表 (入学予定者)3/6

			総数	学部			
				文教育学部	理学部	生活科学部	無回答
		該当者	274	120	65	89	0
Ⅲ.(8)	アルバイト活動予定	長期休暇期間(夏、冬、春休み)のみ	2.9%	1.7%	4.6%	3.4%	0.0%
		学期中、不定期	2.2%	0.8%	4.6%	2.2%	0.0%
		学期中、定期的に	16.1%	16.7%	18.5%	13.5%	0.0%
		学期中に定期的に、長期休暇期間にも	46.7%	50.8%	38.5%	47.2%	0.0%
		学期中に不定期的に、長期休暇期間にも	10.2%	10.8%	10.8%	9.0%	0.0%
		その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		未定	21.9%	19.2%	23.1%	24.7%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		総数	390	175	100	115	0
Ⅲ.(9)	授業料の負担予定	ほぼ全額を保護者が負担予定	86.2%	85.1%	87.0%	87.0%	0.0%
		一部をあなたが負担予定	9.7%	9.7%	10.0%	9.6%	0.0%
		ほぼ全額をあなたが負担予定	3.1%	4.6%	2.0%	1.7%	0.0%
		無回答	1.0%	0.6%	1.0%	1.7%	0.0%
		総数	390	175	100	115	0
Ⅲ.(10)	受けたことのある奨学金	日本学生支援機構の奨学金	2.3%	4.0%	1.0%	0.9%	0.0%
		地方公共団体の奨学金	2.1%	2.9%	2.0%	0.9%	0.0%
		学校独自の奨学金	1.0%	1.1%	2.0%	0.0%	0.0%
		民間奨学団体の奨学金	0.5%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%
		新聞社の奨学金	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		その他の奨学金	0.8%	0.6%	2.0%	0.0%	0.0%
		学費免除	2.6%	3.4%	3.0%	0.9%	0.0%
		特待生	3.1%	2.9%	5.0%	1.7%	0.0%
		無回答	90.0%	85.7%	90.0%	96.5%	0.0%
Ⅲ.(10)	奨学金の具体的な名称-1	該当者	9	5	2	1	0
	日本学生支援機構の奨学金	記入あり	88.9%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%
		記入なし	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Ⅲ.(10)	奨学金の具体的な名称-2	該当者	8	3	0	4	0
	地方公共団体の奨学金	記入あり	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%
		記入なし	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Ⅲ.(10)	奨学金の具体的な名称-3	該当者	4	2	2	0	0
	学校独自の奨学金	記入あり	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%
		記入なし	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Ⅲ.(10)	奨学金の具体的な名称-4	該当者	2	2	0	0	0
	民間奨学団体の奨学金	記入あり	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		記入なし	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Ⅲ.(10)	奨学金の具体的な名称-5	該当者	0	0	0	0	0
	新聞社の奨学金	記入あり	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		記入なし	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Ⅲ.(10)	奨学金の具体的な名称-6	該当者	3	1	2	0	0
	その他の奨学金	記入あり	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%
		記入なし	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Ⅲ.(10)	奨学金の具体的な名称-7	該当者	10	6	3	1	0
	学費免除	記入あり	70.0%	66.7%	66.7%	100.0%	0.0%
		記入なし	30.0%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%
Ⅲ.(10)	奨学金の具体的な名称-8	該当者	12	5	5	2	0
	特待生	記入あり	75.0%	60.0%	80.0%	100.0%	0.0%
		記入なし	25.0%	40.0%	20.0%	0.0%	0.0%
Ⅲ.(10)	奨学金/給与・貸与-1	該当者	9	7	1	1	0
	日本学生支援機構の奨学金	給与	22.2%	14.3%	0.0%	100.0%	0.0%
		貸与	77.8%	85.7%	100.0%	0.0%	0.0%
		両方	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Ⅲ.(10)	奨学金/給与・貸与-2	該当者	8	5	2	1	0
	地方公共団体の奨学金	給与	87.5%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%
		貸与	12.5%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
		両方	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Ⅲ.(10)	奨学金/給与・貸与-3	該当者	4	2	2	0	0
	学校独自の奨学金	給与	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%
		貸与	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		両方	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Ⅲ.(10)	奨学金/給与・貸与-4	該当者	2	2	0	0	0
	民間奨学団体の奨学金	給与	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		貸与	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Ⅲ.(10)	奨学金/給与・貸与-5	該当者	0	0	0	0	0
	新聞社の奨学金	給与	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		貸与	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Ⅲ.(10)	奨学金/給与・貸与-6	該当者	3	1	2	0	0
	その他の奨学金	給与	66.7%	100.0%	50.0%	0.0%	0.0%
		貸与	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		無回答	33.3%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%

新入生調査 基礎集計表 (入学予定者)4/6

		総数	学部			
			文教育学部	理学部	生活科学部	無回答
	該当者	10	6	3	1	0
Ⅲ.(10)	奨学金／給与・貸与-7 学費免除	70.0%	66.7%	66.7%	100.0%	0.0%
	貸与	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答	30.0%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%
	該当者	14	5	5	2	0
Ⅲ.(10)	奨学金／給与・貸与-8 特待生	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%
	貸与	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	総数	390	175	100	115	0
Ⅲ.(11)	奨学金の認知	36.9%	41.1%	28.0%	38.3%	0.0%
	日本学生支援機構(第一種奨学金)	33.3%	37.7%	23.0%	35.7%	0.0%
	日本学生支援機構(第二種奨学金)	9.5%	8.6%	8.0%	12.2%	0.0%
	地方公共団体の奨学金	15.1%	19.4%	10.0%	13.0%	0.0%
	民間奨学団体の奨学金	15.4%	19.4%	9.0%	14.8%	0.0%
	みがかずば奨学金	43.8%	49.7%	28.0%	48.7%	0.0%
	桜蔭会奨学金(3年生向け)	8.5%	9.1%	7.0%	8.7%	0.0%
	育児支援奨学金	2.6%	2.9%	1.0%	3.5%	0.0%
	入学料免除制度	18.5%	20.6%	16.0%	17.4%	0.0%
	入学料徴収猶予制度	12.1%	15.4%	8.0%	10.4%	0.0%
	授業料免除制度	22.1%	23.4%	20.0%	21.7%	0.0%
	授業料徴収猶予制度	11.0%	13.1%	8.0%	10.4%	0.0%
	知っているものはない	30.8%	25.1%	45.0%	27.0%	0.0%
	無回答	5.6%	5.7%	6.0%	5.2%	0.0%
	総数	390	175	100	115	0
Ⅲ.(12)	知っている学生寮	45.9%	51.4%	34.0%	47.8%	0.0%
	国際学生寮	57.7%	60.0%	44.0%	66.1%	0.0%
	お茶大SCC	30.5%	32.6%	15.0%	40.9%	0.0%
	小石川寮(大学院生向け)	36.4%	34.3%	49.0%	28.7%	0.0%
	知らない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	総数	390	175	100	115	0
Ⅲ.(13)	希望する学生寮	15.6%	18.9%	10.0%	15.7%	0.0%
	国際学生寮	10.5%	13.1%	7.0%	9.6%	0.0%
	お茶大SCC	1.3%	2.3%	0.0%	0.9%	0.0%
	小石川寮(大学院生向け)	79.5%	76.6%	85.0%	79.1%	0.0%
	知らない	1.5%	1.1%	2.0%	1.7%	0.0%
	無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	総数	390	175	100	115	0
Ⅲ.(14)	心配なこと	68.2%	66.9%	69.0%	69.6%	0.0%
	授業や単位	52.8%	58.9%	42.0%	53.0%	0.0%
	就職や将来	50.8%	48.0%	48.0%	57.4%	0.0%
	人間関係	29.0%	26.3%	24.0%	37.4%	0.0%
	生活・経済面	15.1%	14.3%	10.0%	20.9%	0.0%
	健康面	24.6%	27.4%	20.0%	24.3%	0.0%
	日常生活全般	1.8%	2.3%	2.0%	0.9%	0.0%
	その他	8.7%	7.4%	13.0%	7.0%	0.0%
	特にない	0.3%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	総数	390	175	100	115	0
Ⅲ.(15)	不安心配ごと-1 友達ができるか	31.8%	30.3%	30.0%	35.7%	0.0%
	あてはまる	36.4%	39.4%	36.0%	32.2%	0.0%
	ある程度あてはまる	21.0%	20.6%	22.0%	20.9%	0.0%
	あまりあてはまらない	10.8%	9.7%	12.0%	11.3%	0.0%
	あてはまらない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答	68.2%	69.7%	66.0%	67.8%	0.0%
	あてはまる(計)	31.8%	30.3%	34.0%	32.2%	0.0%
	あてはまらない(計)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	総数	390	175	100	115	0
Ⅲ.(15)	不安心配ごと-2 大学になじめるか	26.2%	22.9%	28.0%	29.6%	0.0%
	あてはまる	38.5%	37.7%	39.0%	39.1%	0.0%
	ある程度あてはまる	25.4%	30.9%	24.0%	18.3%	0.0%
	あまりあてはまらない	10.0%	8.6%	9.0%	13.0%	0.0%
	あてはまらない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答	64.6%	60.6%	67.0%	68.7%	0.0%
	あてはまる(計)	35.4%	39.4%	33.0%	31.3%	0.0%
	あてはまらない(計)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	総数	390	175	100	115	0
Ⅲ.(15)	不安心配ごと-3 金銭面で負担が かからないか	18.2%	18.3%	18.0%	18.3%	0.0%
	あてはまる	26.2%	22.9%	23.0%	33.9%	0.0%
	ある程度あてはまる	36.4%	41.1%	37.0%	28.7%	0.0%
	あまりあてはまらない	19.2%	17.7%	22.0%	19.1%	0.0%
	あてはまらない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答	44.4%	41.1%	41.0%	52.2%	0.0%
	あてはまる(計)	55.6%	58.9%	59.0%	47.8%	0.0%
	あてはまらない(計)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

新入生調査 基礎集計表 (入学予定者)5/6

			総数	学部			
				文教育学部	理学部	生活科学部	無回答
Ⅲ.(15)	不安心配ごと-4 授業についていけるか	総数	390	175	100	115	0
		あてはまる	33.1%	32.6%	30.0%	36.5%	0.0%
		ある程度あてはまる	41.3%	40.0%	46.0%	39.1%	0.0%
		あまりあてはまらない	19.2%	20.6%	16.0%	20.0%	0.0%
		あてはまらない	6.4%	6.9%	8.0%	4.3%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		あてはまる(計)	74.4%	72.6%	76.0%	75.7%	0.0%
	あてはまらない(計)	25.6%	27.4%	24.0%	24.3%	0.0%	
Ⅲ.(15)	不安心配ごと-5 進級や卒業ができるか	総数	390	175	100	115	0
		あてはまる	18.2%	18.9%	13.0%	21.7%	0.0%
		ある程度あてはまる	39.0%	35.4%	49.0%	35.7%	0.0%
		あまりあてはまらない	30.8%	33.7%	26.0%	30.4%	0.0%
		あてはまらない	12.1%	12.0%	12.0%	12.2%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		あてはまる(計)	57.2%	54.3%	62.0%	57.4%	0.0%
	あてはまらない(計)	42.8%	45.7%	38.0%	42.6%	0.0%	
Ⅲ.(15)	不安心配ごと-6 将来の目標が見つかるか	総数	390	175	100	115	0
		あてはまる	22.1%	26.9%	15.0%	20.9%	0.0%
		ある程度あてはまる	30.3%	27.4%	33.0%	32.2%	0.0%
		あまりあてはまらない	31.5%	29.1%	33.0%	33.9%	0.0%
		あてはまらない	16.2%	16.6%	19.0%	13.0%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		あてはまる(計)	52.3%	54.3%	48.0%	53.0%	0.0%
	あてはまらない(計)	47.7%	45.7%	52.0%	47.0%	0.0%	
Ⅲ.(15)	不安心配ごと-7 卒業後ちゃんと就職できるか	総数	390	175	100	115	0
		あてはまる	31.0%	34.3%	24.0%	32.2%	0.0%
		ある程度あてはまる	36.4%	38.9%	33.0%	35.7%	0.0%
		あまりあてはまらない	23.3%	17.7%	31.0%	25.2%	0.0%
		あてはまらない	9.2%	9.1%	12.0%	7.0%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		あてはまる(計)	67.4%	73.1%	57.0%	67.8%	0.0%
	あてはまらない(計)	32.6%	26.9%	43.0%	32.2%	0.0%	
Ⅲ.(16)	期待する学生支援活動	総数	390	175	100	115	0
		経済的支援	20.5%	20.0%	18.0%	23.5%	0.0%
		生活相談	15.9%	14.9%	12.0%	20.9%	0.0%
		健康相談	9.7%	8.0%	8.0%	13.9%	0.0%
		心理相談	20.0%	18.3%	15.0%	27.0%	0.0%
		学習支援	64.4%	65.1%	66.0%	61.7%	0.0%
		進路相談	67.2%	67.4%	68.0%	66.1%	0.0%
		就職支援	77.4%	78.3%	74.0%	79.1%	0.0%
		課外活動支援	33.8%	34.9%	29.0%	36.5%	0.0%
		その他	0.3%	0.0%	0.0%	0.9%	0.0%
		特になし	3.6%	3.4%	6.0%	1.7%	0.0%
	無回答	0.5%	0.0%	0.0%	1.7%	0.0%	
Ⅳ.(1)	大学卒業後の進路	総数	390	175	100	115	0
		民間企業に就職する	56.4%	58.9%	41.0%	66.1%	0.0%
		公務員になる	29.2%	36.0%	10.0%	35.7%	0.0%
		教師などの専門職につく	21.3%	33.1%	13.0%	10.4%	0.0%
		自営など、1から3以外の形で就職する	2.8%	3.4%	1.0%	3.5%	0.0%
		大学院などに進学する(海外含む)	45.6%	33.1%	71.0%	42.6%	0.0%
		その他	1.0%	1.1%	1.0%	0.9%	0.0%
		決めていない	16.4%	17.1%	17.0%	14.8%	0.0%
	無回答	0.3%	0.0%	0.0%	0.9%	0.0%	
Ⅳ.(2)	大学卒業後のキャリア-1 すぐに就職して最初から正社員・ 正規の職員になる	総数	390	175	100	115	0
		そう思う	40.8%	49.1%	22.0%	44.3%	0.0%
		ある程度思う	42.1%	39.4%	45.0%	43.5%	0.0%
		そう思わない	16.9%	11.4%	33.0%	11.3%	0.0%
	無回答	0.3%	0.0%	0.0%	0.9%	0.0%	
Ⅳ.(2)	大学卒業後のキャリア-2 すぐに就職するが、正社員・正規 の職員にこだわらない	総数	390	175	100	115	0
		そう思う	3.6%	5.1%	1.0%	3.5%	0.0%
		ある程度思う	22.1%	29.7%	10.0%	20.9%	0.0%
		そう思わない	73.8%	64.6%	89.0%	74.8%	0.0%
	無回答	0.5%	0.6%	0.0%	0.9%	0.0%	
Ⅳ.(2)	大学卒業後のキャリア-3 すぐに大学院などに進学する	総数	390	175	100	115	0
		そう思う	29.0%	14.9%	60.0%	23.5%	0.0%
		ある程度思う	33.3%	33.1%	32.0%	34.8%	0.0%
		そう思わない	37.2%	51.4%	8.0%	40.9%	0.0%
	無回答	0.5%	0.6%	0.0%	0.9%	0.0%	

新入生調査 基礎集計表 (入学予定者)6/6

			総数	学部			
				文教育学部	理学部	生活科学部	無回答
IV.(2)	大学卒業後のキャリア-4 就職してから大学院への進学を考 える	総数	390	175	100	115	0
		そう思う	0.8%	0.6%	1.0%	0.9%	0.0%
		ある程度思う	16.7%	18.3%	11.0%	19.1%	0.0%
		そう思わない	81.8%	80.6%	87.0%	79.1%	0.0%
		無回答	0.8%	0.6%	1.0%	0.9%	0.0%
IV.(2)	大学卒業後のキャリア-5 資格試験・公務員試験などに合格 するまで就職しない	総数	390	175	100	115	0
		そう思う	3.1%	3.4%	1.0%	4.3%	0.0%
		ある程度思う	19.2%	16.0%	14.0%	28.7%	0.0%
		そう思わない	77.2%	80.0%	85.0%	66.1%	0.0%
		無回答	0.5%	0.6%	0.0%	0.9%	0.0%
IV.(2)	大学卒業後のキャリア-6 卒業後すぐには就職 しなくてもよい	総数	390	175	100	115	0
		そう思う	7.7%	6.3%	10.0%	7.8%	0.0%
		ある程度思う	23.1%	19.4%	29.0%	23.5%	0.0%
		そう思わない	68.7%	73.7%	61.0%	67.8%	0.0%
		無回答	0.5%	0.6%	0.0%	0.9%	0.0%
IV.(2)	大学卒業後のキャリア-7 最初の就職先にできるだけ 長く勤める	総数	390	175	100	115	0
		そう思う	28.2%	24.6%	28.0%	33.9%	0.0%
		ある程度思う	46.2%	45.7%	51.0%	42.6%	0.0%
		そう思わない	25.1%	29.1%	21.0%	22.6%	0.0%
		無回答	0.5%	0.6%	0.0%	0.9%	0.0%
IV.(2)	大学卒業後のキャリア-8 何年かして転職や独立をする	総数	390	175	100	115	0
		そう思う	6.4%	7.4%	6.0%	5.2%	0.0%
		ある程度思う	38.7%	37.7%	35.0%	43.5%	0.0%
		そう思わない	54.4%	54.3%	59.0%	50.4%	0.0%
		無回答	0.5%	0.6%	0.0%	0.9%	0.0%
IV.(2)	大学卒業後のキャリア-9 結婚・出産後も仕事を続ける	総数	390	175	100	115	0
		そう思う	64.1%	65.1%	64.0%	62.6%	0.0%
		ある程度思う	32.6%	32.6%	32.0%	33.0%	0.0%
		そう思わない	2.6%	1.7%	3.0%	3.5%	0.0%
		無回答	0.8%	0.6%	1.0%	0.9%	0.0%
IV.(3)	就職や将来への親の関与-a 父親	総数	390	175	100	115	0
		まったく関与しない	9.5%	8.0%	10.0%	11.3%	0.0%
		あまり関与しない	27.9%	30.9%	20.0%	30.4%	0.0%
		どちらとも言えない	12.6%	14.3%	10.0%	12.2%	0.0%
		まあまあ関与する	37.4%	34.9%	43.0%	36.5%	0.0%
		非常に関与する	9.2%	8.6%	11.0%	8.7%	0.0%
		父親はいない	3.3%	3.4%	6.0%	0.9%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
IV.(3)	就職や将来への親の関与-b 母親	総数	390	175	100	115	0
		まったく関与しない	3.6%	3.4%	4.0%	3.5%	0.0%
		あまり関与しない	21.5%	21.1%	18.0%	25.2%	0.0%
		どちらとも言えない	12.1%	12.0%	14.0%	10.4%	0.0%
		まあまあ関与する	49.0%	45.1%	54.0%	50.4%	0.0%
		非常に関与する	13.3%	18.3%	9.0%	9.6%	0.0%
		母親はいない	0.5%	0.0%	1.0%	0.9%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
[データ活用の許可]	総数	390	175	100	115	0	
	はい	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	
	いいえ	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
[個人情報登録の許可]	総数	390	175	100	115	0	
	はい	96.7%	96.6%	96.0%	97.4%	0.0%	
	いいえ	3.1%	2.9%	4.0%	2.6%	0.0%	
[受験番号]	総数	390	175	100	115	0	
	記入あり	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	
	記入なし	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
[お茶大入試方法]	総数	390	175	100	115	0	
	一般	75.6%	69.7%	79.0%	81.7%	0.0%	
	一般(外)	0.3%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%	
	推薦(帰国含む)・文教育学部	10.8%	24.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	推薦(帰国含む)・理学部	0.3%	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%	
	推薦(帰国含む)・生活科学部	3.1%	0.0%	0.0%	10.4%	0.0%	
	総合型	8.5%	4.0%	18.0%	7.0%	0.0%	
	高校	1.5%	1.7%	2.0%	0.9%	0.0%	
	編入	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
不明	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		

新入生調査 基礎集計表 (保護者)1/4

		総数	学部			
			文教育学部	理学部	生活科学部	無回答
(1) 家計を支えている人	総数	381	171	99	111	0
	父親	91.6%	90.1%	89.9%	95.5%	0.0%
	母親	12.1%	15.2%	13.1%	6.3%	0.0%
	入学予定者本人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答	0.3%	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%
(2) 家計を支えている人の職業	総数	381	171	99	111	0
	勤労者	90.3%	88.9%	91.9%	91.0%	0.0%
	個人営業	3.4%	4.1%	2.0%	3.6%	0.0%
	法人経営者、自由業者	4.2%	5.3%	3.0%	3.6%	0.0%
	農林水産業者	0.5%	0.6%	0.0%	0.9%	0.0%
	その他	0.3%	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%
	働いていない	0.5%	0.0%	1.0%	0.9%	0.0%
	無回答	0.8%	1.2%	1.0%	0.0%	0.0%
(3) 父親の職業	総数	381	171	99	111	0
	フルタイム勤務	89.0%	86.5%	89.9%	91.9%	0.0%
	パートタイム勤務	0.8%	1.2%	0.0%	0.9%	0.0%
	自営	3.9%	5.3%	3.0%	2.7%	0.0%
	無職	0.3%	0.0%	0.0%	0.9%	0.0%
	いない	4.7%	4.7%	6.1%	3.6%	0.0%
	無回答	1.3%	2.3%	1.0%	0.0%	0.0%
	(4) 父親の職種	該当者	339	148	89	102
専門職(医師・弁護士・研究者・教師など)		19.5%	21.6%	19.1%	16.7%	0.0%
技術職(エンジニア・情報処理技術者など)		18.9%	15.5%	24.7%	18.6%	0.0%
管理職(会社・団体の役員、部課長・工場長・支店長など)		36.0%	35.1%	39.3%	34.3%	0.0%
事務職(庶務・人事・経理・調査・企画・秘書・受付など)		11.5%	11.5%	10.1%	12.7%	0.0%
営業職(セールスマン・生命保険外交員など)		4.4%	4.1%	2.2%	6.9%	0.0%
販売職(デパート・スーパーの店員など)		1.2%	0.7%	1.1%	2.0%	0.0%
サービス職(美容師・調理師・客室乗務員・旅行添乗員など)		0.6%	1.4%	0.0%	0.0%	0.0%
保安職(警察官・消防士・警備員など)		1.2%	1.4%	0.0%	2.0%	0.0%
農林漁業職(農業従事者・家畜飼育者・植木職・漁船船員など)		0.3%	0.0%	0.0%	1.0%	0.0%
運輸通信職(鉄道機関士・運転手・船舶や航空機の操縦士など)		2.1%	2.0%	1.1%	2.9%	0.0%
生産労務職(機械組立修理工・食料品製造工・土木作業員など)		2.4%	4.1%	1.1%	1.0%	0.0%
その他		1.5%	2.0%	1.1%	1.0%	0.0%
無回答		0.6%	0.7%	0.0%	1.0%	0.0%
(5) 母親の職業	総数	381	171	99	111	0
	フルタイム勤務	35.4%	39.8%	33.3%	30.6%	0.0%
	パートタイム勤務	35.4%	36.8%	34.3%	34.2%	0.0%
	自営	4.2%	4.1%	4.0%	4.5%	0.0%
	無職	23.4%	18.7%	25.3%	28.8%	0.0%
	いない	0.8%	0.6%	1.0%	0.9%	0.0%
	無回答	0.8%	0.0%	2.0%	0.9%	0.0%
	(6) 母親の職種	該当者	135	68	33	34
専門職(医師・弁護士・研究者・教師など)		37.8%	36.8%	42.4%	35.3%	0.0%
技術職(エンジニア・情報処理技術者など)		6.7%	0.0%	9.1%	17.6%	0.0%
管理職(会社・団体の役員、部課長・工場長・支店長など)		8.1%	8.8%	3.0%	11.8%	0.0%
事務職(庶務・人事・経理・調査・企画・秘書・受付など)		40.0%	45.6%	45.5%	23.5%	0.0%
営業職(セールスマン・生命保険外交員など)		1.5%	2.9%	0.0%	0.0%	0.0%
販売職(デパート・スーパーの店員など)		1.5%	1.5%	0.0%	2.9%	0.0%
サービス職(美容師・調理師・客室乗務員・旅行添乗員など)		1.5%	1.5%	0.0%	2.9%	0.0%
保安職(警察官・消防士・警備員など)		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
農林漁業職(農業従事者・家畜飼育者・植木職・漁船船員など)		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
運輸通信職(鉄道機関士・運転手・船舶や航空機の操縦士など)		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
生産労務職(機械組立修理工・食料品製造工・土木作業員など)		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
その他		2.2%	1.5%	0.0%	5.9%	0.0%
無回答		0.7%	1.5%	0.0%	0.0%	0.0%
(7) 入学後の暮らし向き	総数	381	171	99	111	0
	ゆとりがない	8.4%	8.8%	7.1%	9.0%	0.0%
	あまりゆとりがない	38.8%	40.9%	37.4%	36.9%	0.0%
	多少ゆとりがある	40.7%	38.6%	43.4%	41.4%	0.0%
	ゆとりがある	8.9%	8.8%	7.1%	10.8%	0.0%
	無回答	3.1%	2.9%	5.1%	1.8%	0.0%
(8) 世帯年収	総数	381	171	99	111	0
	400万円未満	6.0%	6.4%	4.0%	7.2%	0.0%
	400万円以上600万円未満	6.8%	7.0%	5.1%	8.1%	0.0%
	600万円以上800万円未満	15.5%	19.9%	12.1%	11.7%	0.0%
	800万円以上1000万円未満	21.5%	21.6%	16.2%	26.1%	0.0%
	1000万円以上1200万円未満	19.7%	17.0%	26.3%	18.0%	0.0%
	1200万円以上1400万円未満	10.2%	10.5%	9.1%	10.8%	0.0%
	1400万円以上1600万円未満	6.8%	5.8%	12.1%	3.6%	0.0%
	1600万円以上1800万円未満	3.7%	2.9%	5.1%	3.6%	0.0%
	1800万円以上	7.9%	6.4%	8.1%	9.9%	0.0%
無回答	1.8%	2.3%	2.0%	0.9%	0.0%	

新入生調査 基礎集計表 (保護者)2/4

		総数	学部				
			文教育学部	理学部	生活科学部	無回答	
(9) 家計を支えている人の年収	総数	381	171	99	111	0	
	400万円未満	9.2%	8.8%	8.1%	10.8%	0.0%	
	400万円以上600万円未満	11.5%	14.6%	6.1%	11.7%	0.0%	
	600万円以上800万円未満	21.8%	26.3%	17.2%	18.9%	0.0%	
	800万円以上1000万円未満	22.3%	21.1%	25.3%	21.6%	0.0%	
	1000万円以上1200万円未満	18.6%	17.0%	22.2%	18.0%	0.0%	
	1200万円以上1400万円未満	6.8%	5.3%	9.1%	7.2%	0.0%	
	1400万円以上1600万円未満	2.1%	1.2%	4.0%	1.8%	0.0%	
	1600万円以上1800万円未満	1.8%	1.2%	2.0%	2.7%	0.0%	
	1800万円以上	4.2%	2.9%	4.0%	6.3%	0.0%	
	無回答	1.6%	1.8%	2.0%	0.9%	0.0%	
(10) 仕送り額(万円)	総数	381	171	99	111	0	
	仕送りはしない	60.6%	58.5%	69.7%	55.9%	0.0%	
	5万円未満	3.7%	2.3%	0.0%	9.0%	0.0%	
	5～7万円台	10.8%	11.1%	7.1%	13.5%	0.0%	
	8～9万円台	3.9%	5.8%	3.0%	1.8%	0.0%	
	10～12万円台	11.3%	12.3%	9.1%	11.7%	0.0%	
	13～14万円台	1.6%	1.8%	2.0%	0.9%	0.0%	
	15万円台以上	4.7%	5.3%	4.0%	4.5%	0.0%	
		無回答	3.4%	2.9%	5.1%	2.7%	0.0%
	(11) 授業料の負担予定	総数	381	171	99	111	0
ほぼ全額を保護者が負担予定		87.9%	86.0%	88.9%	90.1%	0.0%	
一部をご子女本人が負担予定(奨学金、アルバイトなども含む)		8.4%	9.4%	7.1%	8.1%	0.0%	
ほぼ全額をご子女本人が負担予定(奨学金、アルバイトなども含む)		3.7%	4.7%	4.0%	1.8%	0.0%	
無回答		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
(12) 奨学金の認知	総数	381	171	99	111	0	
	日本学生支援機構(第一種奨学金)	69.0%	73.1%	68.7%	63.1%	0.0%	
	日本学生支援機構(第二種奨学金)	61.2%	67.3%	58.6%	54.1%	0.0%	
	日本学生支援機構(緊急・応急採用奨学金)	15.5%	15.2%	14.1%	17.1%	0.0%	
	地方公共団体の奨学金	21.5%	22.8%	18.2%	22.5%	0.0%	
	民間奨学団体の奨学金	19.4%	20.5%	18.2%	18.9%	0.0%	
	みがかずば奨学金	32.0%	36.3%	30.3%	27.0%	0.0%	
	桜蔭会奨学金(3年生向け)	8.9%	9.4%	9.1%	8.1%	0.0%	
	育児支援奨学金	4.2%	4.7%	5.1%	2.7%	0.0%	
	入学料免除制度	25.7%	28.1%	24.2%	23.4%	0.0%	
	入学料徴収猶予制度	17.6%	16.4%	19.2%	18.0%	0.0%	
	授業料免除制度	27.8%	28.1%	29.3%	26.1%	0.0%	
	授業料徴収猶予制度	15.5%	15.2%	15.2%	16.2%	0.0%	
	知っているものはない	17.8%	14.0%	15.2%	26.1%	0.0%	
	無回答	1.8%	2.9%	2.0%	0.0%	0.0%	
(13) 奨学金の希望	総数	381	171	99	111	0	
	日本学生支援機構(第一種奨学金)	15.5%	17.5%	9.1%	18.0%	0.0%	
	日本学生支援機構(第二種奨学金)	15.0%	18.7%	13.1%	10.8%	0.0%	
	日本学生支援機構(緊急・応急採用奨学金)	1.3%	1.8%	1.0%	0.9%	0.0%	
	地方公共団体の奨学金	5.8%	6.4%	5.1%	5.4%	0.0%	
	民間奨学団体の奨学金	12.1%	12.3%	15.2%	9.0%	0.0%	
	みがかずば奨学金	11.8%	15.2%	10.1%	8.1%	0.0%	
	桜蔭会奨学金(3年生向け)	9.2%	8.8%	10.1%	9.0%	0.0%	
	育児支援奨学金	0.5%	1.2%	0.0%	0.0%	0.0%	
	入学料免除制度	3.9%	4.7%	2.0%	4.5%	0.0%	
	入学料徴収猶予制度	1.0%	1.2%	1.0%	0.9%	0.0%	
	授業料免除制度	7.3%	7.0%	6.1%	9.0%	0.0%	
	授業料徴収猶予制度	1.3%	1.2%	1.0%	1.8%	0.0%	
	希望するものはない	58.0%	55.0%	60.6%	60.4%	0.0%	
	無回答	5.2%	5.3%	6.1%	4.5%	0.0%	
(14) 知っている学生寮	総数	381	171	99	111	0	
	国際学生宿舎	43.6%	45.6%	39.4%	44.1%	0.0%	
	お茶大SCC	51.7%	51.5%	46.5%	56.8%	0.0%	
	小石川寮(大学院生向け)	26.2%	27.5%	24.2%	26.1%	0.0%	
	知らない	44.9%	44.4%	50.5%	40.5%	0.0%	
	無回答	0.5%	1.2%	0.0%	0.0%	0.0%	
(15) 入寮を希望する学生寮	総数	381	171	99	111	0	
	国際学生宿舎	18.1%	21.1%	12.1%	18.9%	0.0%	
	お茶大SCC	14.7%	17.0%	10.1%	15.3%	0.0%	
	小石川寮(大学院生向け)	2.1%	2.9%	2.0%	0.9%	0.0%	
	特にない	75.6%	72.5%	80.8%	75.7%	0.0%	
	無回答	1.8%	1.8%	3.0%	0.9%	0.0%	

新入生調査 基礎集計表 (保護者)3/4

		総数	学部			
			文教育学部	理学部	生活科学部	無回答
(16) 居住予定の住居	総数	381	171	99	111	0
	実家	64.0%	61.4%	72.7%	60.4%	0.0%
	実家以外の賃貸アパートやマンション	27.0%	28.1%	23.2%	28.8%	0.0%
	大学の寮(国際学生宿舎)	13.6%	14.0%	9.1%	17.1%	0.0%
	大学の寮(お茶大SCC)	10.2%	12.9%	7.1%	9.0%	0.0%
	大学以外の寮	4.5%	5.8%	4.0%	2.7%	0.0%
	その他	1.8%	0.0%	3.0%	3.6%	0.0%
	無回答	0.5%	1.2%	0.0%	0.0%	0.0%
(17) 住居を考える際COVID-19への考慮	総数	381	171	99	111	0
	考慮した	23.4%	22.8%	26.3%	21.6%	0.0%
	考慮しなかった	74.0%	75.4%	71.7%	73.9%	0.0%
	無回答	2.6%	1.8%	2.0%	4.5%	0.0%
(18) COVID-19について考慮した内容	該当者	89	39	26	24	0
	寮に住みたいが、感染が心配なのでやめる	7.9%	2.6%	7.7%	16.7%	0.0%
	シェアハウス型の寮に住みたいが、感染が心配なのでやめる	1.1%	2.6%	0.0%	0.0%	0.0%
	感染対策の面で安心なので、大学の寮に住む	22.5%	25.6%	3.8%	37.5%	0.0%
	感染予防の視点で、賃貸マンションに住む	25.8%	25.6%	26.9%	25.0%	0.0%
	実家以外のところに住みたいが、感染が心配なので実家で暮らす	19.1%	20.5%	26.9%	8.3%	0.0%
	その他	24.7%	23.1%	34.6%	16.7%	0.0%
	無回答	7.9%	10.3%	7.7%	4.2%	0.0%
(19) 受験から入学までに困ったこと	総数	381	171	99	111	0
	子どもの体調や精神面のこと	63.0%	60.2%	64.6%	65.8%	0.0%
	受験・入学のための費用準備	28.6%	25.7%	34.3%	27.9%	0.0%
	受験・入学手続きのスケジュールの管理	52.2%	50.9%	55.6%	51.4%	0.0%
	入学後の住まい探し	26.0%	28.1%	19.2%	28.8%	0.0%
	その他	2.6%	2.9%	2.0%	2.7%	0.0%
	無回答	10.2%	9.9%	13.1%	8.1%	0.0%
(20) 心配なこと	総数	381	171	99	111	0
	授業や単位	31.2%	30.4%	35.4%	28.8%	0.0%
	就職や将来	46.7%	43.3%	53.5%	45.9%	0.0%
	人間関係	50.1%	49.7%	53.5%	47.7%	0.0%
	生活・経済面	26.2%	24.0%	28.3%	27.9%	0.0%
	健康面	48.0%	51.5%	45.5%	45.0%	0.0%
	日常生活全般	32.3%	35.1%	25.3%	34.2%	0.0%
	その他	4.5%	1.8%	8.1%	5.4%	0.0%
	特になし	12.3%	10.5%	9.1%	18.0%	0.0%
	無回答	0.3%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%
(21) 期待する学生支援活動	総数	381	171	99	111	0
	経済的支援	18.9%	19.9%	16.2%	19.8%	0.0%
	生活相談	19.4%	19.9%	18.2%	19.8%	0.0%
	健康相談	22.3%	22.2%	17.2%	27.0%	0.0%
	心理相談	33.6%	31.0%	31.3%	39.6%	0.0%
	学習支援	60.4%	55.6%	67.7%	61.3%	0.0%
	進路相談	70.6%	67.8%	77.8%	68.5%	0.0%
	就職支援	82.7%	80.1%	79.8%	89.2%	0.0%
	課外活動支援	32.5%	33.3%	31.3%	32.4%	0.0%
	その他	2.1%	1.2%	4.0%	1.8%	0.0%
	特になし	2.4%	2.9%	2.0%	1.8%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	

新入生調査 基礎集計表 (保護者)4/4

		総数	学部			
			文教育学部	理学部	生活科学部	無回答
(22) 両親の最終学歴・父親	総数	381	171	99	111	0
	中学・高校	11.5%	13.5%	8.1%	11.7%	0.0%
	高専	1.6%	1.8%	3.0%	0.0%	0.0%
	専門学校・短大	5.0%	5.8%	4.0%	4.5%	0.0%
	大学	60.6%	60.8%	58.6%	62.2%	0.0%
	大学院	19.2%	15.8%	23.2%	20.7%	0.0%
	無回答	2.1%	2.3%	3.0%	0.9%	0.0%
(22) 両親の最終学歴・母親	総数	381	171	99	111	0
	中学・高校	9.2%	6.4%	12.1%	10.8%	0.0%
	高専	0.3%	0.0%	0.0%	0.9%	0.0%
	専門学校・短大	33.1%	34.5%	36.4%	27.9%	0.0%
	大学	51.7%	50.3%	48.5%	56.8%	0.0%
	大学院	5.0%	7.6%	2.0%	3.6%	0.0%
	無回答	0.8%	1.2%	1.0%	0.0%	0.0%
[データ活用の許可]	総数	381	171	99	111	0
	はい	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%
	いいえ	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
[個人情報登録の許可]	総数	381	171	99	111	0
	はい	92.7%	94.7%	91.9%	90.1%	0.0%
	いいえ	7.1%	4.7%	8.1%	9.9%	0.0%
[受験番号]	総数	381	171	99	111	0
	記入あり	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%
	記入なし	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
[お茶大入試方法]	総数	381	171	99	111	0
	一般	75.9%	70.2%	78.8%	82.0%	0.0%
	一般(外)	0.3%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%
	推薦(帰国含む)・文教育学部	10.2%	22.8%	0.0%	0.0%	0.0%
	推薦(帰国含む)・理学部	0.3%	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%
	推薦(帰国含む)・生活科学部	2.9%	0.0%	0.0%	9.9%	0.0%
	総合型	8.9%	4.7%	18.2%	7.2%	0.0%
	不明	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
[回答者の続柄]	総数	381	171	99	111	0
	父親	21.3%	19.3%	26.3%	19.8%	0.0%
	母親	78.5%	80.7%	72.7%	80.2%	0.0%
	その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答	0.3%	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%

質問票自由記述 「専門（学科）を選んだ理由」人文科学科

学科	お茶の水女子大学で入学する学科を選んだ理由をお書きください。
人文科学科	歴史系の勉強がしたかったから。
	時代背景などの様々な要因により、同じ事柄に対しても人の考え方は多様であり、対立が生まれることがあります。人がどのように考え、考え方がどのように異なっていくのかについて興味があり、人文科学科で哲学や倫理学を学びたいと思ったからです。グローバル文化学環に進める可能性があるからです。
	地理歴史の教員免許が取得可能であるため。地理学、歴史学に興味があるため。
	世界史を学びたいと思ったから。
	興味があるプログラムがあるから。
	幼い頃から歴史が大好きだったのと、高校で新たに習った倫理のどちらも大学でもっと深く学びたいと思ったから。また、哲学が大好きな友人がいて、その人を見ていて、哲学がどれだけ面白いのか、実際に深く学んで確かめたくなったから。
	歴史学を学べる国立の大学を探していた際に、高校の先生にすすめられ、自分にあった大学であると考えたから。
	思想や芸術に興味があったため、哲学、倫理学、美術史コースのある人文科学科を選んだ。
	倫理や美術史に関心があったから。
	大学で学んでみたい内容が含まれていたから。
	地理を学びたかったから。
	興味のある分野であったため。合格可能性の判定がよかったため。
	歴史学に興味があったから。
	受験時に学んだ世界史や地理に興味を持ったため。
	美術史に興味があったから。
	哲学・文学・歴史や社会学に興味があり、それらを総合的に学ぶことができそうだったから。特にジェンダーについてしっかり学びたいと思っていたから。
	比較歴史学がおもしろそうだったから。
	歴史を重点的に学びたかったから。教員免許がとれるということにひかれた。
	人文科学科にある美術史コース or 比歴コースに入りたかったから。
	哲学に興味があったため。
	生命倫理に興味があるため。
	日本史とグローバル学環に興味をもったから。
	私はまだ将来やりたいことが決まっておらず、大学生活の中で決めていきたいと思っていたので、他の学科よりも取得できる資格が多く、選択肢の幅が広い学科であって、歴史や地理のように今まで学習してきた自分の好きな分野についてより深く学び就職につなげられる学科に入りたいと思ったから。
	歴史についてより深く学びたかったから。
	グローバル文化学環に進みたいと思い、そのために社会の様相を文化的、地理的または歴史的な視点から学びたいと考えたから。
	元々哲学を志していた。
	高校で世界史と世界地理を学び、歴史の中での地域間のつながりに興味をもったからです。
	美術に興味があり、知的好奇心を追求するため美術史を学びたいと思ったから。
	文系ではあるが具体的にやりたいことが決まっておらず、哲学・歴史・地理など幅広く学べると思ったから。
	後期試験を受けるにあたって自分のレベルと募集人数を考慮したところ最も合っていると感じた。
美術史を学びたかったから。	
興味のある分野が幅広く学べるから。	
人間がこれまで築いてきた歴史や文化、そして人間という存在自体に興味を持ち、それらについて学びたいと思ったから。	
大学では人文系の研究がしたいと考えているから。	
美術史と哲学を学びたかったから。	

質問票自由記述 「専門（学科）を選んだ理由」 言語文化学科

学科	お茶の水女子大学で入学する学科を選んだ理由をお書きください。
言語文化学科	グローバル化が急速に進む現代で、外国語や多様な文化について学び、理解を深め日本と海外をつなぐことに貢献できる人材になりたいと考え、お茶の水女子大学文教育学部言語文化学科を選択した。
	大学入学共通テストで失敗してしまい、リサーチでD判定が出なかったから。また将来中高校の教員、特に国語の教員になりたいと思っていたため。（お茶の水女子大にはさまざまな分野を学べるプログラム？があるのも知ったので、学科にはあまりこだわらなかったです）。
	雰囲気と自分のやりたいことが十分にできるカリキュラムがある。
	得意な英語をさらに伸ばしていきたいから。
	学びたいことがあったから。
	言語学に興味があったから。
	日本語の成り立ちの過程を学びたいと思ったから。
	国文学を学びたかったから。
	高等学校で様々な学びに広く触れる中で、英語で言うグローバルコミュニケーションの手段を専門的に学び、そして英語という言語を用いて深められた思考の理解に努めたいと思うようになったからです。
	日本文学についてより専門的な知識を得たかった。
	国際関係や語学について学びたかったから。
	国語を得意科目としていて、授業内容に興味があったから。
	本が好きで言葉に興味があるから。
	言語学に興味があったため。
	英語と国語で勝負したかったためです。文芸部に所属して散文を書き散らしていたこともあって、言葉そのものの手強さを感じており、それについて勉強したいと考えたからです。
	文学が好きだから。
	日本語や日本文学が好きだから。
	日本文学に興味があるから。
	自身の興味に最も適していたから。
	言語に興味があったから。
	人の感情と発する言葉の関係に興味があったから。
	多様なプログラムの中から自分で学びたいものを選択できるから。
	英語を学ぶのが好きで、他文化理解に興味があるから。
	言語や芸術に関することを学びたいと思い、入学しようと思いました。
	言語文化学科では言語、文学、文化について幅広く学ぶことができるから。
	文章が好きで、深く学びたいと思ったから。
	言語に興味があったから。
	言語と文化を学ぶため。
	文学について学びたかったから。日本語の音や成り立ちに興味があったから。
	英語を話す・書く能力を高めたいと考えたため。
	学びたいことが学べるから。
	日本文学について勉強したかったから
	言語や文学、特に日本のものについて興味があったから。
	日本文学を勉強したかったため。
	得意・好きな科目が国語・英語で自分が学びたいものが学べると思ったから。
	フランス語を専門的に学ぶことができるから。グロ文を選択することができ、国際機関で働く道が開けると考えたから。
	英語を学びたいと思ったから。（他の言語に興味を持ったらそっちにするかも）。
	英文学に興味があったから。グロ文の学生や先生方のお話がとてもよかったから。
	英語についてより深く学びたいから。
	日本語の研究に興味があり、他にも様々なコースがあって自分のやりたいことが見つかるのではないかと考えたため。
高校の英語教諭の免許を取りたいから。	
私の学びたいことがきちんと学べる学科だったから。	
古文が学びたいため。	
日本文学を学びたかったから。	
言語に興味があったから。	
日本語学、国文学、日本語教育学を学びたかったから。	
言語について学びたかったから。	
日本文学が学びたかったから。	
言語学習を通じて世界情勢について学び、学んだことを日本の社会にも役立てたいと考えたから。	

質問票自由記述 「専門(学科)を選んだ理由」人間社会学科、芸術・表現行動学科

学科	お茶の水女子大学で入学する学科を選んだ理由をお書きください。
人間社会学科	学内に附属校が多数あり、歴史的に子どもについて探求しているので子どもについてより深く学べると感じたため。
	日常生活の中で、「これはなぜ〇〇なのだろうか?」と疑問を持つことがあり、そのような好奇心をいかして様々な学びができると思い選びました。
	人間に関する学問に興味があり、さらに気になっていた心理学も学べるから。
	大学で学びたいと考えていた内容にあてはまっていたから。
	社会学を学びたいから。
	社会学を勉強したいと思っていたからです。
	ジェンダー論を学ぶことができ、かつ社会学を広く学べるから。
	ジェンダーについて学ぶのに一番適していると思ったから。研究テーマに設定できる範囲が広そうだから。
	社会学に興味があったため。後期試験の科目が小論文のみであったため。
	教育学、社会学に興味があり、教員免許を取得したいと考えていたため。
	教育学と社会学に興味があり、将来中学校の教員になろうと考えているから。
	社会学やジェンダー論などについて興味があり、深く学びたいと考えたから。
	社会学に興味があったため。後期試験の科目が小論文のみであったため。
	社会学を学びたいと思い、人間社会科学科に社会学コースがあったから。
	最も興味のある学問系統だから。
	大学では幼児教育について学びたいと考えていたから。
	ジェンダーや教育、また労働に興味があったため、社会学が学べる学科が良かったから。
	子供の教育に興味があるため。
	教育分野でレベルが高い大学がお茶の水女子大学だったから。
	教育学を学びたいと考えていたから。
社会学を学ぶため。	
社会学を学びたかったから。	
社会学を学びたかったから。	
興味のある分野が学べると思ったから。	
芸術・表現行動学科	舞踊に興味があるから。
	好きな舞踊を研究できる学科であったため。
	小学生の頃からクラシックバレエを習っており、高校生になってコンテンポラリーダンスにふれたことでもっと舞踊と深く関わりたいと思ったから。
	ダンスについて専門的な学習ができるのに加え、その他の総合的な学習も可能だから。
	舞踊について学問として専門的に学びたいと思った。
	学術と実技を両立できるから。
	幼い頃からダンスを習っており、大学でダンスを学問として学んでみたいと思ったから。また、舞踊について実技と理論の双方から学ぶことができると知り、興味を持ったから。
	音楽を様々な視点から見て、視野を広げることのできる唯一の学科だから。
	将来進みたい道の内容を深める上で自分に合っていると感じたから。
	「音楽学」と「演奏学」両方の視点から学びを深めることができるため。音楽についての知識を身につけながら演奏技術も磨くことが可能だと考えたから。
	総合大学の中で音楽を専門的に学べることに魅力を感じたから。様々な学部・学科の人と交流して視野を広げつつ、専門分野(音楽)を深く学ぶことができると思ったから。

質問票自由記述 「専門（学科）を選んだ理由」 数学科、物理学科、化学学科

学科	お茶の水女子大学で入学する学科を選んだ理由をお書きください。
数学科	数学が好きで、より深く学びたいと思ったため。
	将来やりたいことについて考えた時、ここが良いと思ったから。
	将来の希望する進路、学びたい学問だったから。
	数学の教員になるために必要な能力が得られると思ったため。
	数学をしっかり学びたかったから。数学の教師になりたかったから。
	数学が好きだから。
	数学が一番好きだったから。高校の数学の先生の話がおもしろく、興味を持つようになったから。
	もともと受験を考えていた学科ではなかったが、合格の可能性が1番あったから（後期試験で）。
	自宅から通える範囲内の国立大学で、生徒数を多すぎず自分が落ち着いて学べる場所であるから。
	数学が好きだから。
	少人数制。
	数学が好きだから。
数学が好きだから。	
物理学科	想像しやすいことでもしにくいことでも数学を用いて考えられる物理という学問に興味を持ったから。
	興味があったから。
	物理学を学びたかったです。
	物理学に興味を持っていたため。
	元々物理学に興味があり、高校で学んだ物理をもっと勉強したいと思ったから。
	好きだから興味があり深く勉強したいと思ったから。
	高校の物理が好きだったので、さらに奥深くまで学び身近な事象について論理的に説明することができるようになりたいと考えたからです。また、物性に関する研究に興味を持ったからです。私は小学5年生からあこがれの大学でした。
	自分の学力に見合っていて選択していた科目で（物理 or 化学）受験できたから。
	共通テストに失敗し、かつ物理学に興味があるから。
	宇宙物理学に興味があったため。
JAXA で軌道計算をするのが私の夢です。それを実現している実績が物理学科にあることを知って目標としてきました。	
化学科	化学を学んでいく中で、私達の生活に身近に関わっている点に興味を持ち面白いと思ったので、化学科を選びました。
	化学に興味があったから。
	化学に興味があったから。
	高校での化学の授業が楽しく、化学に興味をもち詳しく学びたいと思ったから。
	理系科目の中で化学が1番おもしろいと感じたから。
	将来したい仕事をするために必要な知識や技能を身に付けられるから。
	もともと化学に興味があり、実験も多くできる環境が整っていたから。
	化学の専門的なことを学びたかったから。
	興味深い研究をされている先生がいらっしまったため。
	何となく。
	化学が好きで勉強したかったから。
	化学が好きだから。
	将来化粧品メーカー等での研究職につきたいと思っているから。
	温泉について学ぶのに一番向いていると思ったから。
創薬や化粧品開発に興味があるため。	

質問票自由記述 「専門（学科）を選んだ理由」 生物学科、情報科学科

学科	お茶の水女子大学で入学する学科を選んだ理由をお書きください。
生物学科	生物が好きだから。
	生物が好きだったから。
	生き物が好きだから。
	自分の興味のある分野を深く学べると思ったから。
	生物の謎についてたくさん学ぶことができ楽しそうだったから。
	生物学に興味があるため。
	高校の生物の授業が楽しかったから。
	高校で生物を受けて、それまで受けた中で1番おもしろいと感じたから。
	将来生物学に携わる仕事がしたかったから。
	生物について深く学びたいと思ったから。
	1年次から研究に関われるから。
	生物関係の職業につきたかったから。
	生き物に興味があり、生物学が好きであったため。
	自分の興味のある分野でもっと知りたいと思ったから。
生物についての勉強がしたかったから。	
情報科学科	これからデジタル化が進んでいく中で有用性がある分野だと思ったから。
	情報科に憧れがあったため。
	学校での情報の授業が初めて楽しいと思えた授業だから。
	なりたい職業があるから。
	情報分野に興味があったため。
	将来IT関連の職業につきたいと考えたから。
	高校で学んだ情報に興味を湧いたから。
	情報化社会において今後さらに必要になる分野であると思ったから。
	IT系の仕事に就きたいから。
	・就職に有利になると思ったから・情報系に興味があったから。
	プログラミングに興味があり、将来情報関係のスキルを生かした仕事に就いてみたいと思ったから。
	IT化の時代において必要な学びであると感じたから。
	最先端の科学に関わることのできる学科だと思ったから。
	情報科学という分野に興味があったから。
	情報科学に興味があったから。受験科目が得意な科目だったから。
	興味がある上、社会的ニーズが高まっているから。
	興味があったから。
高校の情報の授業でwebサイトを作った際に、日頃利用しているインターネットの仕組みに興味を持ち、情報科学学科という場で専門知識を学び、コンピューター言語を身につけ、プログラミングなどの技術を向上させたいと思ったから。	
夢を叶えるのに最適だと思ったから。	
情報系の仕事に就きたかった。	

質問票自由記述 「専門（学科）を選んだ理由」 食物栄養学科、

学科	お茶の水女子大学で入学する学科を選んだ理由をお書きください。
食物栄養学科	栄養系に興味があり、国立で栄養士の資格を取れるのが食物栄養学科でちょうどよかったから。
	勉強したことがすぐに役に立つものを学びたいと思ったから。栄養に興味をもったから。
	管理栄養士になり、さらに日本を引っ張っていく人材になりたいと考えたから。
	栄養についてもっと詳しく学習したいと思ったから。
	自分の志望である食物栄養学科のある最高峰の学校であり、お茶の水女子大学の教育方針に魅了されたから。
	私は高校生の頃、粘菌という生物の研究をしていました。そこで研究とは人のためにあるべきだという価値観に触れ、またより広く体系的な学問を学びたいと思うようになりました。体系的かつ密接に関わる理系、特に生物の学問といえば栄養学だったので、食物栄養学科を志望しました。
	幼い頃から食べ物が大好きだった。さらにそれを科学的に学べるところが他大学の栄養学科とちがいで、またおいしさや風味まで学べるところが他大学の農学部等とも違うと思った。ひとりでも多くの人の生活を支援したいと思っている私にとって合っている学科だと思った。
	小学生の頃に家族に勧められたから。管理栄養士の資格を取る以外にも、充実した研究ができると思ったから。
	食べ物が好きだから。
	小さいころからお菓子作りが趣味で、家族や友達が喜んでくれるのが嬉しく、食について学び食を通じて人々を幸せにしたいと思ったからです。
	食品科学について学び、管理栄養士の資格を取得したかったから。
	もともと食に関する職業に興味を持っていたことがきっかけで、生活に寄り添ったアプローチで”食”について学べる真学に魅了されたから。
	私は周りの環境のおかげで作ること・食べることに「幸せ」を感じられるが、病気やその他さまざまな理由でそれができない方が多くいる。食というものを様々な視点から学ぶことで、そのような人々の食を少しでも豊かなものにしたいと思っているため。
	食に関する研究がしたいと思ったから。
	以前から栄養学について興味があり、深く研究したいと思ったから。
	食べることや料理が好きで、食に関する知識を増やしたいと思ったから。また管理栄養士の資格を取得できるため、将来就きたいと思っている食品の商品開発の仕事にも役立つと思ったから。
	将来、食品関係の仕事に携わりたいため。管理栄養士の資格を得たいため。
	管理栄養士の資格を取りたいと考えているから。国立大学で有名な大学にあるから。
	栄養関係の仕事に就きたいから。
	調理学と栄養学の両方が学べて実習も多いから。プログラムを自由に選択することで幅広い学びを得られると思ったから。栄養士などの資格を取得および受験できるから。
栄養について学び管理栄養士の資格を取りたかったから。	
食で人の健康を支える人になりたいと思い、食物栄養学科の公衆栄養学研究所で学びたいと思ったから。	
食に関する知識を深めたかったから。	
先にやりたい学問が決まり、その最高レベルがお茶の水女子大学だったので選びました。	
国立で栄養学が学べるから。栄養化学に興味があるから。	
管理栄養士の資格を取り、食物関係の仕事がしたいから。	

質問票自由記述 「専門（学科）を選んだ理由」 人間・環境学科

学科	お茶の水女子大学で入学する学科を選んだ理由をお書きください。
人間・環境学科	一級建築士の受験資格が得られるから。学べる内容に興味をもったから。
	人間をとりまく環境についてアプローチする学問を学びたかったことに加え、一級建築士をめざせるカリキュラムが用意されていることに魅力を感じたから。
	環境学、建築、人類学など幅広い分野が学べることに魅力を感じたからです。また、小さい頃から環境に興味があったので、「環境と人間の調和」という学科の手一あつも私の希望分野に沿っていると思いました。
	人間工学に興味があったから。
	一級建築士の受験資格を得ることができるから。
	建築士になりたいと考えており、その夢が実現できる大学、学科だと思ったから。
	自分が興味のある分野について学べるから。
	学びたいと感じる学問があったから。
	小さい頃から環境に興味をもっていたから。
	理科が好きで人間・環境研究科のカリキュラム、雰囲気が自分に合っていると思ったから。
	学科内で興味関心を持てる分野を複数学ぶことのできるカリキュラムが用意されていたから。
	理工学系の基礎知識を幅広く学べることに加え、技術とそれらを利用する社会との関わりについて考えていくことのできる学科であると感じるから。
	もともと建築に興味があり、人間・環境科学科では人々の生活に密着した研究をしていると感じたからです。
	建築や技術だけでなく、建築物を利用する人間についても考えられる建築士になりたいから。
	勉強したい分野が学べるから。
	人間と環境の関係性を学び、それをもとに人と環境をつなぐ何かを見出すというのを、自分でやりたいと思った。中高時代、自分の無力さに気づいたのがきっかけ。
	興味のある分野だったから。
	高校の化学や生物の授業中、社会や日常生活で起きていることがどうしてそうなっているのかを習った知識を活用して先生が教えて下さったことが面白く、人間・環境科学科ならその面白いと思う体験が何回もできると感じたから。
理系科目全般が好きで私にとって、理系科目を幅広く学べるのが魅力的だったから。	
人間工学について勉強したかったから。管弦楽団に興味があったから。	

質問票自由記述 「専門（学科）を選んだ理由」 人間生活学科

学科	お茶の水女子大学で入学する学科を選んだ理由をお書きください。
人間生活学科	身近なようでよく分かっていない社会問題について学びたいため。
	将来やりたいことにつながると思ったから。
	経済について勉強したいと思ったから。
	私は中学高校時代、家庭科がとても好きでした。また公私ともに充実している高校の家庭科の先生方を見て、私も家庭科教師になりたいと思い家庭科の教員免許が取得できるお茶の水女子大学に入学したいと思いました。
	文理融合で他学部他学科の授業も受けられる。文化と法や社会両方を学びたかった。あこがれの先生が出身したところだから。
	アドミッションポリシーやパンフレットの学科紹介を読み、自分に合っていると思ったから。また、共通テストの社会科目の配点が高く、自分に有利だと思ったから。
	社会科学について幅広く学んでみたいと思ったから。
	自分がしたい勉強ができるようだったから。
	社会科学の視点から幅広く社会の問題について考えられる点に興味をもったから。
	法律、経済、社会学など幅広く学ぶことができるから。
	将来服飾関係の仕事に就きたいと思い、被服学や服飾史を学べる生活科学部人間生活学科を選びました。
	文教育学部の人間社会科学科と生活科学部の人間生活学科と迷ったが、コロナ禍で個々の学問がうまく活用されない様子を目の当たりにし、より複合的に社会学、経済学、法学が学べる人間生活学科を志望した。
	興味をもったから。
	子どもが育つ環境、そして子供の周りにいる人々の暮らしをよりよくするために学んで実践できる人になりたいと思うから。
	自分が暮らす社会についての理解を深めたいからです。
	将来の夢が定まっていないので、やりたいことを見つけられそうだったと思ったから。
	格差問題に関心があり、そしてこのコロナ禍で苦しむ人の存在を報道を通じて知るうちに、社会保障について学びたいと思うようになりました。学びたい内容に合っており、幅広く学べそうであるという点に魅力を感じました。
	子供が楽しく生活できる社会づくりに貢献したいと思い、今子供を取りまく問題には様々な原因が絡んでいるため、生活を様々な点から見つめることができる人間生活学科に入りたいと思った。
	自分が将来就きたい職業分野について学べるから。
	国公立大学で服飾や工芸について学べる場所を探していたから。
	社会学に興味があった。
生活に関する様々なことを幅広く学べると思ったから。福祉やジェンダー研究に興味があったから。	
社会における問題を法学や経済学、社会学などの多様な視点から考える力を養いたいから。	
民俗学が学べるから。	
世界の文化、衣食住、日常生活、異文化交流に興味があったから。	
自分の勉強したい学部・学科があったから。また、校風、学生の雰囲気良かったから。	

質問票自由記述 「専門（学科）を選んだ理由」 心理学科

学科	お茶の水女子大学で入学する学科を選んだ理由をお書きください。
心理学科	自分が取得したい資格に必要な条件を満たしており、また自分が学びたい分野であったため。
	自分の今までの経験から、精神疾患、不登校やひきこもり、その他人の心について深く学びたいと思ったため。
	学んだことがなく面白そうだったから。
	人間に興味があったから。
	心理学を学びたかったから。
	人の心のしくみに興味があったから。
	発達心理学に興味があったから。
	高校自体の友人がうつで悩んでおり、精神的に苦しんでいたのを見て精神面での支援に興味をもったから。
	心理学を学ぶことで自他への理解を深め、将来的に専門職に就きたいと考えるから。
	公務員の心理職に就職したいと思っていて、そのために必要な心理学の知識を身につけることができると思ったから。少人数制であるためより集中して学習することができると思ったから。
	心理学に興味があるから。フンボルト入試で受けた講義が興味深かったから（犯罪心理学の講義でした）。
	発達心理に興味があるから。
	広く心理が学べると思ったから。
	誰かの生きがいを支える仕事がしたいという漠然とした思いを抱いており、人間の原動力となる心について学ぶことは、自身のキャリアを具体化し実現するにあたって有益であると考えたから。
	心理学に興味があったから。
色や香りを交えた心理学を学びたかったから。	
小中高と学んだことのない分野であり、個人的に心理学に興味があったから。	
元々カウンセラー志望で心理学を学びたいと思っていたから。人の心の仕組みに興味があるから。	

令和3年度 新入生の生活に関する調査報告書

発行日：令和4年3月

発行：国立大学法人 お茶の水女子大学 学生・キャリア支援センター
東京都文京区大塚2-1-1

TEL 03-5978-2646

FAX 03-5978-5894

E-mail ca-research@cc.ocha.ac.jp
